

平成 28 年度 第 1 回幕別町総合教育会議

日 時 平成 28 年 6 月 21 日 (火)
15 時 15 分～
場 所 幕別町役場 3 階会議室 3 C

1 開会

2 あいさつ

3 意見交換

(1) 「幕別町後期中等教育を考える懇話会」からの報告書の提出について (資料 1)

(2) 幕別町小中一貫教育等の推進について (資料 2)

4 その他

5 閉会

資料 1

平成 28 年 6 月 10 日

幕別町教育委員会
教育長 田村修一様

幕別町後期中等教育を考える懇話会
会長 斉藤 博

「幕別町後期中等教育を考える懇話会」報告書の提出について

平成 27 年 10 月 21 日「幕別町後期中等教育を考える懇話会」が設置され、これまで 4 回にわたり、本町に設置されている高等学校 3 校に係る中・長期的な展望について必要な検討を行ってきたところであります。

つきましては、「幕別町内の高等学校の展望について」と題し、別添報告書を取りまとめましたので提出するとともに、本報告書の趣旨を斟酌し、本町の後期中等教育の確保について最大限努力いただきますようお願い申し上げます。

幕別町内の高等学校の展望について

報 告 書

平成 2 8 年 6 月

幕別町後期中等教育を考える懇話会

1 はじめに

今日、少子化・高齢化が進行し生産年齢人口の大幅な減少が予想される中、社会の構成員一人ひとりの能力を最大限伸ばしていくことが、グローバル化が進展していく現代社会において重要とされており、高校教育にはその時代の変革に柔軟に対応できる資質や能力を備えた人材の育成が求められております。

一方、高校進学率が98%を超える現在、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望は多様化してきており、その多様なニーズに対応する教育活動を推進することが重要であるとされているところでありますが、北海道では、中学校卒業生数が昭和63年をピークに減少し、平成27年度では、ピーク時に比べ半減している状況にあります。

このようなことから、今後十勝学区の中学校卒業生数の減少が考えられる中、本町においても、如何に高校教育を確保するかが大きな課題となっており、幕別町教育委員会として、平成27年10月に「幕別町後期中等教育を考える懇話会」を設置し、これまで本町の高校教育の中・長期的な展望等について検討を行い、この度、報告書として取りまとめたところであります。

2 中学卒業生数の推計

平成 27 年 6 月に北海道教育委員会から示された、「公立高等学校配置計画（平成 28 年度～30 年度）」では、平成 27 年 5 月 1 日現在の児童・生徒数を基に推計すると、平成 27 年十勝管内の中学校卒業生数は、3,220 人であるが、平成 30 年には 3,061 人と 159 人、率で 4.9% 減と推計しているが、それが平成 34 年には 2,849 人、371 人の減、率にして 11.5% 減少になると推計されているところであります。

また、本町では、平成 27 年の中学校卒業生数は、284 人であるが、平成 30 年には 262 人と 22 人、率で 7.7% の減、それが平成 34 年には 240 人、44 人の減、率にして 15.5% の減少となることが予想され、十勝管内に比べ減少率が大きくなると推計されております。

このように、今後、十勝管内及び本町の中学校卒業生数の減少が見込まれることから、いかに本町に設置されている高校の入学者を安定的に確保していくかが課題であると考えます。

3 本町の高等学校の間口の推移

本町には、道立高校として幕別高校及び特別支援学校の中札内高等養護学校幕別分校、私立の江陵高校の 3 校が設置されています。

幕別高校は、昭和 23 年 11 月に北海道池田女子高校幕別分校とし

て定時制課程普通科 3 学級として設立され、昭和 26 年 4 月北海道幕別高校として独立、昭和 38 年に定時制課程を募集停止、全日制自動車科 2 学級、商業科 1 学級を開設、昭和 40 年道立に移管され、昭和 50 年には、商業科を普通科に学科転換、昭和 60 年に自動車科を募集停止し、普通科に学科転換し、4 間口の普通科単置の高校となったところであります。

その後、平成 17 年 1 学級減の 3 間口となり、平成 18 年 2 間口、平成 27 年 1 間口の普通科高校として現在に至っております。

また、中札内高等養護学校幕別分校は、平成 25 年 4 月に幕別高校の校舎内に 2 間口の特別支援学校として開設され、現在に至っております。

私立の江陵高校は、池田町に昭和 21 年 4 月池田服装裁断学院として設立し、昭和 31 年池田女子高校となり、昭和 39 年池田西高と改称し男女共学となり、昭和 60 年 4 月幕別町に移転し江陵高校と改称、普通科 4 間口の高校として開設、平成 21 年普通科 1 間口を福祉科に学科転換し、現在普通科 2 間口、福祉科 1 間口の高校として運営されております。

4 本町の中学校卒業者の高校進学状況

本町の中学校卒業者の高校進学状況につきましては、帯広市内の公立高校に平成 24 年 111 人、(進学率 33.6%)、平成 25 年 150 人、(同 44.6%)、平成 26 年 140 人、(同 49.3%) であり、年々帯広市内公立高校への進学率が上昇している状況にあります。

中でも、帯広市内の普通科が設置されている、帯広柏葉、帯広三条、帯広緑陽高校 3 校への進学は、平成 24 年 60 人、平成 25 年 89 人、平成 26 年 90 人と、市内公立高校進学者のうち、6 割程度が進学している状況にあります。

また、帯広市内 3 校の私立高校への進学者は、平成 24 年 84 人、(進学率 25.5%)、平成 25 年 38 人、(同 11.3%)、平成 26 年 19 人、(同 6.7%) であります。

一方、本町の幕別高校に進学した中学校卒業者数は、平成 24 年 29 人、(進学率 8.8%)、平成 25 年 25 人、(同 7.4%)、平成 26 年 16 人、(同 5.6%) と、年々減少してきており、幕別高校への進学率が帯広市内高校への進学率、特に普通科が設置されている帯広市内高校よりも低い状況にあります。

また、江陵高校への進学者は、平成 24 年 53 人、(進学率 16.1%)、

平成 25 年 53 人、(同 15.8%)、平成 26 年 40 人、(同 14.1%) と、幕別高校に比較し、町内からの進学率は高い状況にあるものの、年々進学率が低下してきている状況にあります。

しかしながら、町内中学校卒業者の私立高校進学者のうち、近年約半数以上が江陵高校に進学しており、一定程度進学先として選択されていることが伺えます。

5 アンケート調査から見た生徒及び保護者の意向

本懇話会では、平成 27 年 12 月に「高校進学に係るアンケート調査」を実施しました。

調査対象は、幕別町内の中学校に在籍している全生徒及びその保護者であり、回収者数及び回収率は、生徒 599 件、69.7%、保護者 586 件、68.2%でありました。

その中で、「進学する高校を選ぶとき、最も大切にすることは何ですか。(複数回答)」という問いでは、生徒、保護者ともに、大学・短大・専門学校への進学状況と答えた割合は、生徒 15.7%、保護者 20.5%と最も高く、続いて、生徒は部活動の状況が 12.9%、保護者は通学の便利さが、17.7%と続いています。

さらに、「高校に入学してから身につけたいものは何ですか。(複

数回答)」の問いでは、生徒は、進学できる学力が 16.6%で最も高く、保護者は、一般常識や社会常識をわきまえる態度が 17.1%で最も高い回答でありました。

また、「高校までの通学時間はどのくらいが良いと思いますか。」の問いでは、30 分～1 時間未満が、生徒・保護者とも半数を超え、30 分未満を加えると 9 割以上の回答となっています。

次に、「進学したいと思う学科は何ですか。(2 つ以内回答)」の問いでは、生徒、保護者ともに、普通科と回答した割合が、5 割を超えており、普通科志望が強いことが伺えます。

しかしながら、少数ではありますが、生徒は、スポーツ科、看護科、芸術科、食品加工科に 4～5 %程度、保護者は、看護科を 6 %、福祉科に 3 %の方が進学したい学科としてあげています。

さらに、「現時点で進学したい高校は決まっていますか。(2 つ以内回答)」の問いでは、生徒・保護者ともに、帯広市内の公立高校が 6 割を超えており、その内、帯広柏葉、帯広三条、帯広緑陽高校が約 7 割を占めています。一方、幕別高校と選択しているのは生徒 2.7%、保護者 2.8%で、江陵高校と選択しているのは生徒 6.1%、保護者 5.5%であり、町内の高校を進路先として選択している割合が

低い状況にあります。

また、「進学したい高校をどういう理由で選びましたか。（複数回答）」の問いでは、生徒は、学習指導・学力向上に力を入れているが、15.8%と最も高く、保護者は、進路指導に力を入れているが、21.1%と高い回答となっています。

「幕別町内の高校を進学先として選ばなかったのはなぜですか。（2つ以内回答）」についての問いでは、生徒は、進学したい学科がないからが 30.5%、校風が合わないからが 20%と高く、保護者は、校風が合わないからが 25.1%、進学したい学科がないからが 24%でありました。

このことは、進学したい学科が「普通科」と答えた割合が5割を超えているにもかかわらず、本町の高校における「普通科」が必ずしも選択されていないことが伺われます。

次に、「幕別高校が今よりさらに魅力ある学校となるために何が必要であると思いますか。（2つ以内回答）」との問いでは、生徒・保護者ともに、進学にもっと力を入れて欲しい、学校の雰囲気を変えて欲しいが、それぞれ2割程度であり、また、生徒は、部活動にもっと力を入れて欲しいという回答も1割程度でありました。

また、「江陵高校が今よりさらに魅力ある学校となるために何が必要であると思いますか。（2つ以内回答）」との問いでは、幕別高校同様に、生徒・保護者ともに、進学にもっと力を入れて欲しいが2割程度であるが、続いて、就職指導にもっと力を入れて欲しいが1割程度でありました。

6 町内の高校の将来展望についての意見

北海道教育委員会から示された「公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）によると、十勝学区高校配置計画、特に旧十勝第一学区内の配置計画では、中学校卒業生数の減少から平成30年度帯広三条高校が現状7間口から1間口減となり、6間口となることが示されたところであります。

本町の幕別高校は、平成27年度2間口で募集したところでありますが、40人（1間口）以上の欠員が生じたことから間口が減となり、また、今後においても入学者の増加が見込めないことから、1間口の普通科高校となったところであります。

少子化が進行する中、高校の規模が縮小していくことはやむを得ない面もありますが、高校は、教育はもとより、文化や経済・産業

などの分野で地域と密接に関わっており、地域の活力を維持・発展させる上でも、その存続は極めて重要であると考えます。

幕別町内の中学校卒業生数は総じて減少傾向にありますが、当面は 250 人から 300 人程度で推移する見込みであります。

しかしながら、アンケート調査によると、9 割が帯広市内を中心とした通学時間 1 時間以内の高校への進学を希望し、学科についても 5 割強が普通科を希望しているにもかかわらず、幕別町内での進学を希望するのは 1 割弱にとどまっていることから、町内の 2 つの高校が必ずしも中学校卒業生のニーズに沿った学校となり得ていないことが伺えます。

高校に対する生徒・保護者の期待は、大学などへの進学に向けた学力の向上、部活動の充実、一般常識をわきまえる態度の育成などですが、これらの実現には、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等、多様な学習ニーズに対応できる教育環境の提供が必要であり、幕別町内において、中学生が進学を希望する魅力ある高校づくりを進めるには、教育水準を維持向上し、活力ある教育活動を展開できる、一定規模の生徒及び教職員集団で構成される学校が求められると考えます。

以上のことを踏まえ、本懇話会といたしましては、幕別町教育委員会に対しまして以下のとおり意見を申し上げます。

記

- 1 北海道教育委員会が、平成 18 年 8 月に策定した「新たな高校教育に関する指針」では、全日制課程の高校再編整備の考え方として、第 1 学年 2 学級以下の高校については、原則として順次再編整備の対象としているが、幕別高校は、地域社会の維持・発展のため極めて重要な学校であることから、その存続について北海道教育委員会に求めること。
- 2 また、上記指針では、全日制課程の高校の望ましい学校規模は、1 学年 4 ～ 8 学級とされており、町内の 2 つの高校はいずれもこれを下回る規模となっているため、教育環境の充実に向け、幕別町として指針で示す規模の学校の設置を含め北海道教育委員会に求めるなど、最大限の努力を行うこと。
- 3 幕別高校については、既に 1 学級規模となっていることから、幕別高校を含め本町の高校について、アンケート調査結果を参考に、保護者・生徒が望む一定規模（4 間口以上）の普通科を中心とした道立高校を町内に残すとともに、地域社会の要請に適う高

校の設置について、幕別町教育委員会として抜本的に検討を行い、北海道教育委員会に対し求めること。

- 4 町内中学校からの進学率を上げるため、町内3高校のPRについて各高校と協力し積極的に行うとともに、町内各高校に対する支援策の拡充について幕別町教育委員会として検討すること。

7 おわりに

平成27年10月「幕別町後期中等教育を考える懇話会」を設置し、これまで、4回にわたる協議を行ってきたところであります。

この間、町内中学校卒業生数の今後の推移や進路動向を把握するとともに、アンケート調査を実施し、高校に対する意向等を確認しつつ、慎重に審議を行ってきました。

北海道教育委員会の「新たな高校教育に関する指針」では、第1学年2学級以下の高校については、原則として再編整備を図るとしているとともに、全日制課程の望ましい学校規模を1学年4～8学級としており、特に、本町の幕別高校及び江陵高校の将来に不安が残るところであります。

東部十勝唯一の普通科が設置されている高校を有する本町として

は、それら高校及び学科が廃止されることは、本町のみならず地域の高校教育を受ける生徒の選択肢を狭めることともつながります。

このようなことから、幕別町教育委員会にあっては、本報告書を参考として検討を行うとともに、北海道教育委員会に要望等を行っていただきたく願うものであります。

幕別町後期中等教育を考える懇話会協議経過

協議月日	協議内容
平成 27 年 10 月 21 日	第 1 回会議 午後 7 時～（場所：幕別町教育委員会会議室） ○報告 幕別町後期中等教育を考える懇話会設置要綱 ○議案 （１）会長及び副会長の選出について （会 長）齊藤 博 （副会長）山田 敏明 （２）今後の懇話会の進め方について 【事務局資料提出】 ・公立高等学校配置計画（平成 28 年度～30 年度）について ・平成 27 年度幕別高校・江陵高校在籍者数について ・帯広市内及び幕別町内中学校卒業者の推計について ・過去 3 年間における町内中学生の進学状況について ・町内高校の進路状況について ・幕別町後期中等教育を考える懇話会スケジュール等（案）
平成 27 年 11 月 24 日	第 2 回会議 午後 7 時～（場所：幕別町教育委員会会議室） ○議案 （１）高校進学に係るアンケート調査（案）について
平成 28 年 3 月 23 日	第 3 回会議 午後 7 時～（場所：幕別町教育委員会会議室） ○議案 （１）生徒・保護者アンケート結果について ①アンケート実施対象 幕別町内の中学校に在籍している全生徒及び保護者 （対象）859 人 ②調査方法 各中学校を通して配布、回収 ③調査期間 平成 27 年 12 月 2 日～17 日 ④回収状況 ・回収数 生徒用 599 人、保護者用 586 人 ・回収率 生徒用 69.7%、保護者用 68.2%
平成 28 年 5 月 10 日	第 4 回会議 午後 7 時～（場所：幕別町教育委員会会議室） ○議案 （１）幕別町内の高等学校の展望報告書（案）について （２）報告書の提出について
平成 28 年 6 月 10 日	幕別町内の高等学校の展望について（報告書） 齊藤博会長から田村修一教育長へ提出

幕別町後期中等教育を考える懇話会委員

	第3条区分	委員氏名	役職等	備考
1	1（識見）	斉藤 博	十勝教育研究所長	会長
2	2（中学校長）	式見貴美穂	幕別町校長会会長 （幕別中学校校長）	
3	2（中学校長）	喜多 敦	幕別町校長会事務局長 （札内中学校校長）	
4	3（保護者）	山田 敏明	幕別町PTA連合会会長 （札内東中PTA会長）	副会長
5	3（保護者）	小山 秀樹	幕別中学校PTA会長	
6	3（保護者）	山田 智康	糠内中学校PTA会長	
7	3（保護者）	柴田 勇司	札内中学校PTA副会長	
8	3（保護者）	遠藤 正明	忠類中学校PTA会長	
9	3（保護者）	長崎 尚子	幕別町PTA連合会副会長 （白人小学校PTA）	
10	4（公共団体）	藤原 治	幕別町商工会会長	

（構成）

第3条 懇話会の委員は、10人以内とし、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- （1） 識見を有する者
- （2） 中学校の学校長
- （3） 小学校及び中学校に通学する児童生徒の保護者
- （4） 公共的団体の役員又は職員
- （5） その他教育委員会が必要と認める者

2 懇話会は、必要に応じ委員以外の者を指名して意見等を聞くことができる。

幕別町後期中等教育を考える懇話会設置要綱

(設置)

第1条 幕別町内に設置されている、北海道幕別高等学校、北海道中札内高等養護学校幕別分校及び学校法人多田学園江陵高等学校（以下、「町内高等学校」という。）における中・長期的な展望について必要な検討を行うため、幕別町後期中等教育を考える懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 懇話会は、次の事項について検討する。

- (1) 町内高等学校の中・長期の展望に関する事。
- (2) 町内高等学校の振興策に関する事。
- (3) その他町内高等学校に関する事。

(構成)

第3条 懇話会の委員は、10 人以内とし、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 中学校の学校長
- (3) 小学校及び中学校に通学する児童生徒の保護者
- (4) 公共的団体の役員又は職員
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

2 懇話会は、必要に応じ委員以外の者を指名して意見等を聞くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長および副会長)

第5条 懇話会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇話会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 懇話会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 懇話会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 懇話会は、公開で開催する。ただし、会長が非公開と決定した際はこの限りでない。

(議事録)

第7条 会長は、懇話会の顛末を記載した議事録を作成しなければならない。

(庶務)

第8条 懇話会の庶務は、幕別町教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関して必要な事項は、懇話会の議決を経て会長が定める。

附 則

この要綱は、平成27年9月1日から施行する。

高校進学に係るアンケート調査

結 果 報 告 書

平成28年2月
幕別町後期中等教育を考える懇話会
幕別町教育委員会

調査の目的

幕別町内には、全日制普通科で道立幕別高等学校、同じく普通科と福祉科を併設している私立江陵高等学校、また、特別支援学校の道立中札内高等養護学校幕別分校の3つの高等学校が設置されている。

先般、北海道教育委員会において、平成28年度から30年度の3カ年の公立高等学校配置計画が公表されたが、十勝学区では幕別高等学校が、管内・町内中学校卒業者の同校への入学者の実態等から、平成28年度以降も間口が1学級と決定された。

幕別町として、大変厳しい配置計画であると受止め、さらに、今後の中学校卒業者の減少等を考えると、町内の高等学校の存続を危惧するとともに、高校教育をいかに確保していくかが大きな課題となると捉えていることから、町教育委員会では、今年度、「幕別町後期中等教育を考える懇話会」を立ち上げ、今後の展望や振興策等を検討しており、本町における高校教育について、町内の中学校に在籍している生徒及び保護者の意向を把握するため、アンケート調査を実施した。

調査方法

- | | |
|---------|---|
| 1.対象地域 | 幕別町全域 |
| 2.調査対象 | 幕別町内の中学校に在籍している全生徒及び全保護者 |
| 3.サンプル数 | 859人 |
| 4.調査方法 | 各中学校を通して配布、回収 |
| 5.調査期間 | 平成27年12月2日～平成27年12月17日
(中学校から教育委員会への提出は12月18日まで) |

回収状況

- | | |
|-------|--------------------|
| 1.回収数 | 生徒用599件、保護者用586件 |
| 2.回収率 | 生徒用69.7%、保護者用68.2% |

調査結果(★は生徒用のみの設問、◆は保護者用のみの設問)

基本情報

地区・・・3

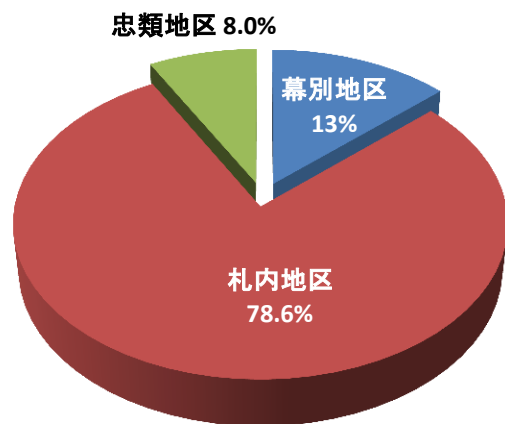
学年・・・3

性別★・・・3

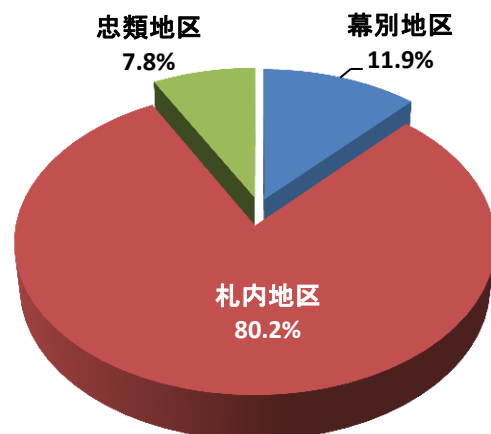
- 問1 進学する高校を選ぶとき、最も大切にすることは何ですか？・・・5～7
- 問2 進学する高校に望むことは何ですか？・・・9～10
- 問3 高校に入学してから身に付けたいものは何ですか？・・・11～12
- 問4 高校までの通学時間はどのくらいが良いと思いますか？・・・13～14
- 問5 進学したい学科は何ですか？・・・15～17
- 問6 現時点で進学したい高校は決まっていますか？・・・19～20
- 問7 問6の回答はどういう理由で選びましたか？・・・21～25
- 問8 問6で幕別町内の高校を進学先として選ばなかったのはなぜですか？・・・27～33
- 問9 幕別高校が今よりさらに魅力ある高校になるために何が必要だと思いますか？・・・35～40
- 問10 江陵高校が今よりさらに魅力ある高校になるために何が必要だと思いますか？・・・41～45
- 問11 中札内養護学校幕別分校に進学を希望する場合に、今よりさらに魅力ある高校になるために何が必要だと思いますか？・・・47～48
- 問12 高校進学に対して町から何か支援があればいいと思いますか？◆・・・49
- 問13 幕別高校についての意見等(自由記載)・・・51～54
- 問14 江陵高校についての意見等(自由記載)・・・55～57
- 問15 中札内高等養護学校幕別分校についての意見等(自由記載)・・・58

基本情報 地区別

生徒回答(回答数:599)

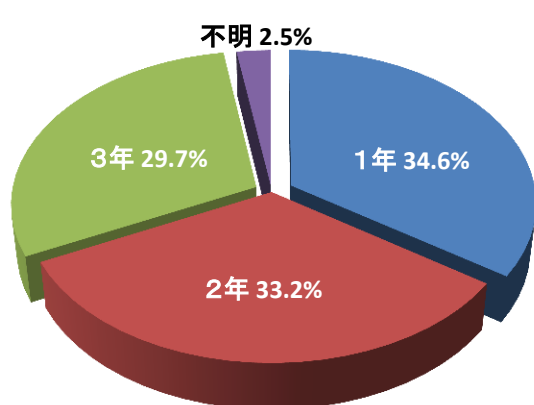


保護者回答(回答数:586)

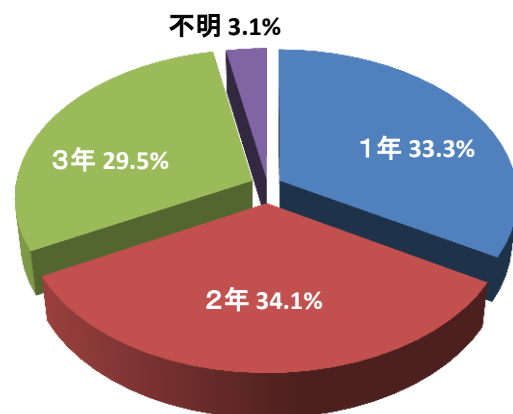


基本情報 学年

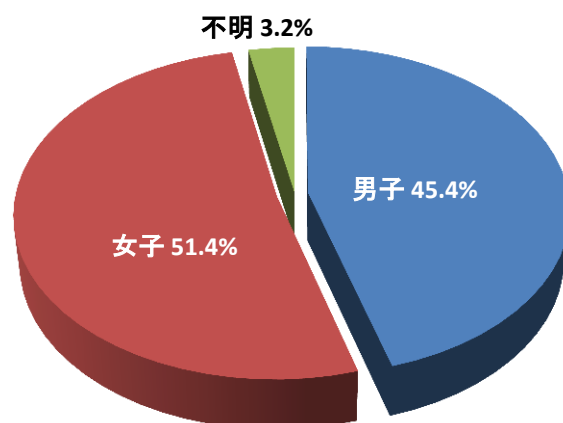
生徒回答(回答数:599)



保護者回答(回答数:586)

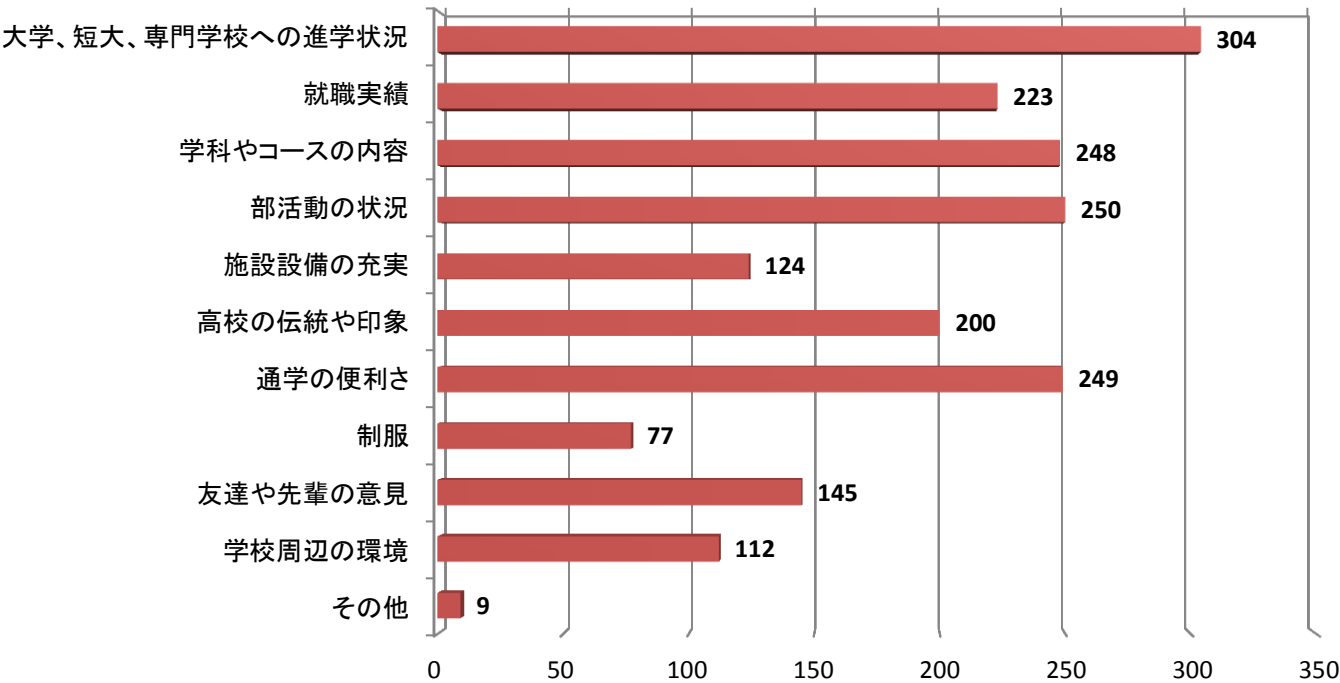


基本情報 性別 (回答数:599) ※生徒のみ

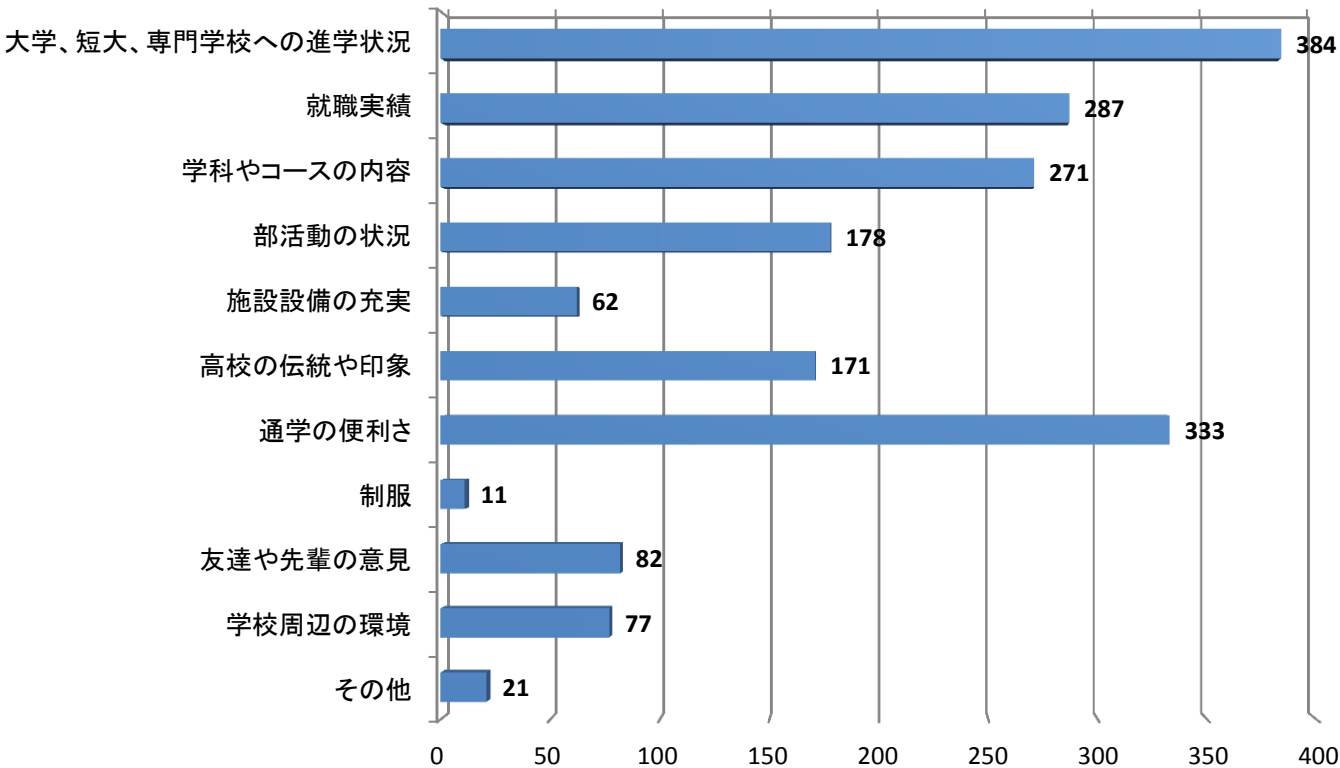


問1 あなたが、進学する高校を選ぶとき、最も大切にすることは何ですか。(複数回答)

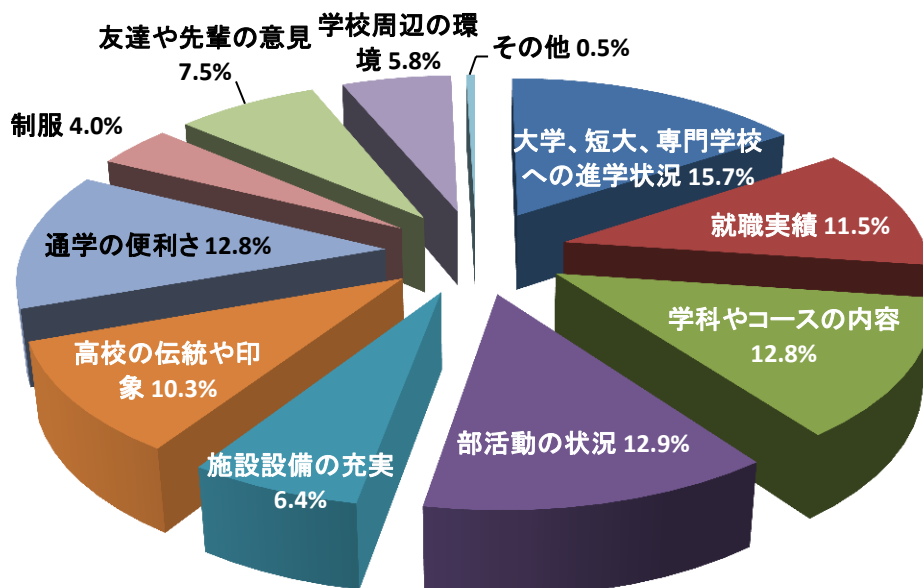
生徒回答(回答数:1941)



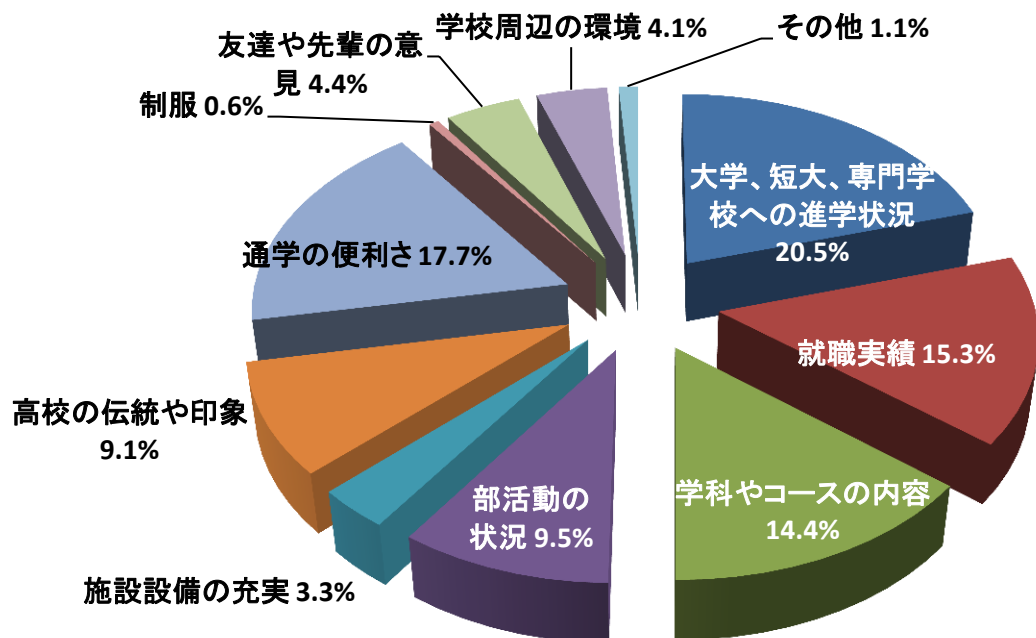
保護者回答(回答数:1877)



生徒回答(回答数:1941)



保護者回答(回答数:1877)



～考察～

生徒・保護者ともに進学状況を見据え学力を重視しているが、「通学の便利さ」、「学科やコース内容」等についても高い傾向にある。また、生徒は「部活動の状況」、保護者は「就職実績」も高い傾向にあった。

生徒回答

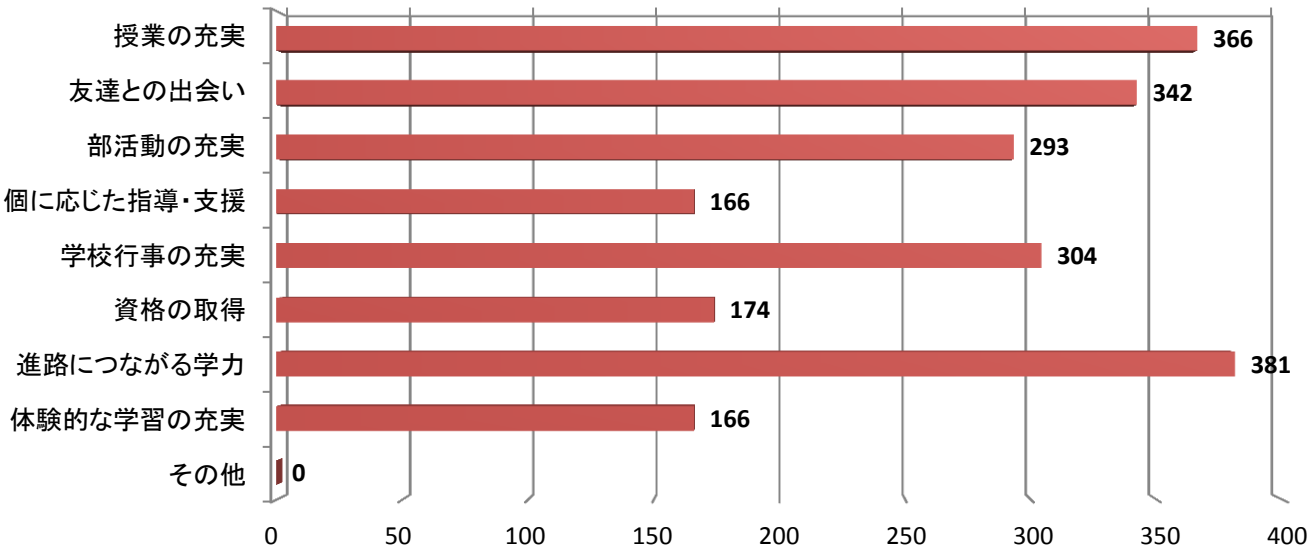
就職のための試験がとりやすいか	偏差値が高い高校。
高校の学力レベル	楽しいかどうか
将来の夢のためになる学習ができるかどうか。	色々な人材が集まるか。

保護者回答

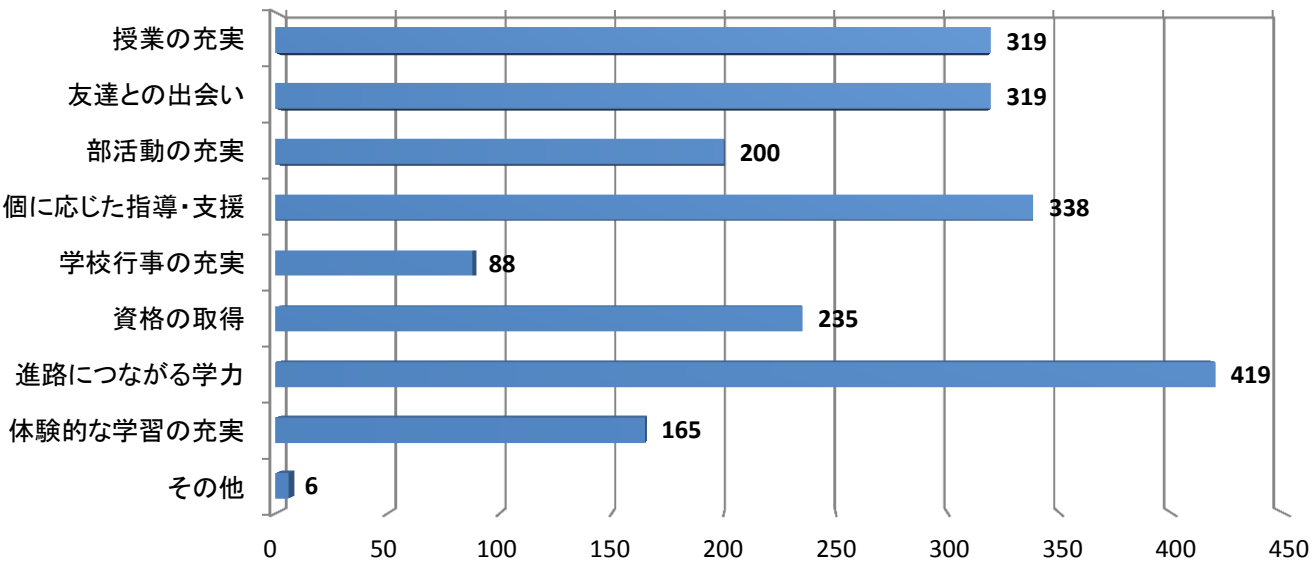
子どもの意思	生活環境(いじめ、不良などないか)、評判(先生の指導の仕方)
生徒の質	町や地域がどれ程その学校に力を入れているか。通学費の補助(上士幌の様に)等。
ランク(学力)で頑張った所に入れることを目標にする。	給食のある高校
学校の雰囲気(特に生徒)	学習環境(学習のレベル)がわが子に合っている
最大はその子の学力に合った所	子どもの学力に適しているから

問2 あなたが、高校に望むことは何ですか。(複数回答)

生徒回答(回答数:2192)



保護者回答(回答数:2089)



《その他・記載内容》

生徒回答

中学とは違う、新しい雰囲気。

機会を与えてもらうこと

保護者回答

親しみやすい。学校と家族の繋がり。

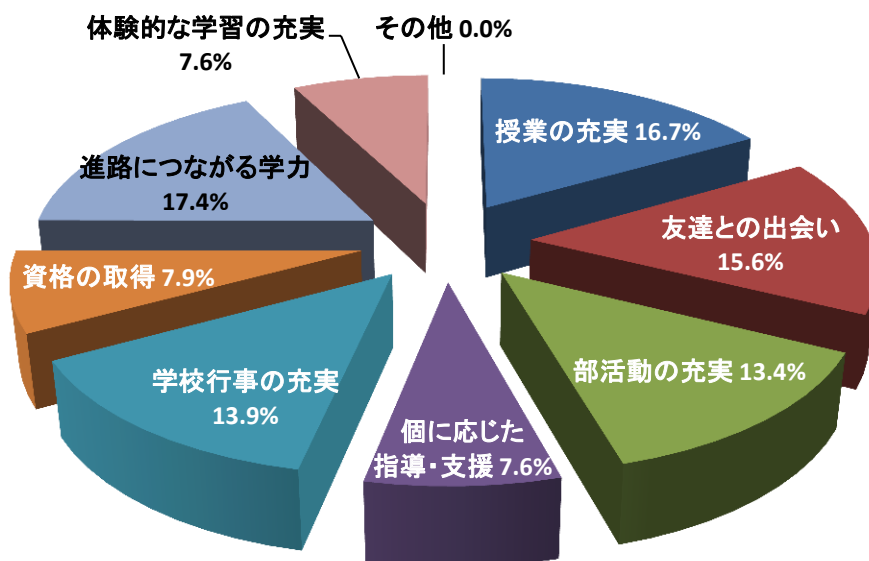
楽しく通える学校であるかどうか。

子供の居場所がある学校。

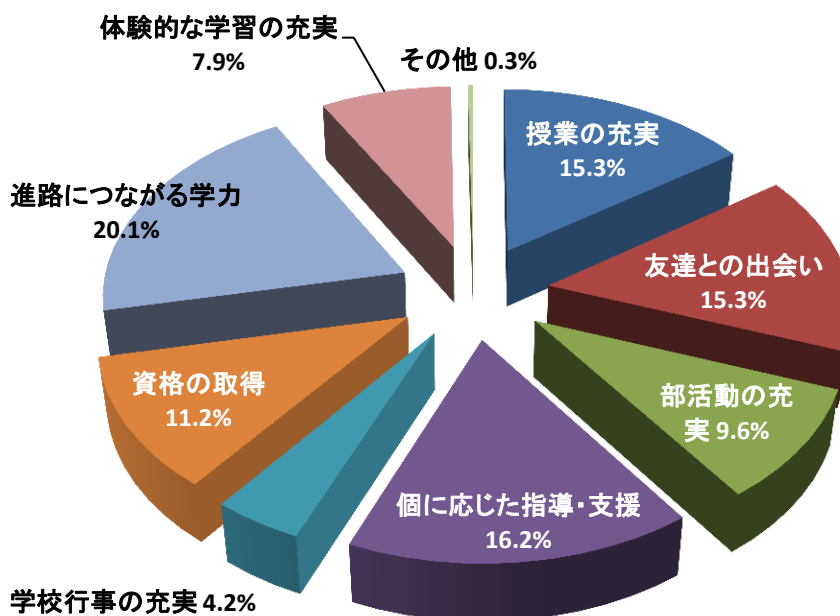
いじめのない高校

校風

生徒回答(回答数:2192)



保護者回答(回答数:2089)

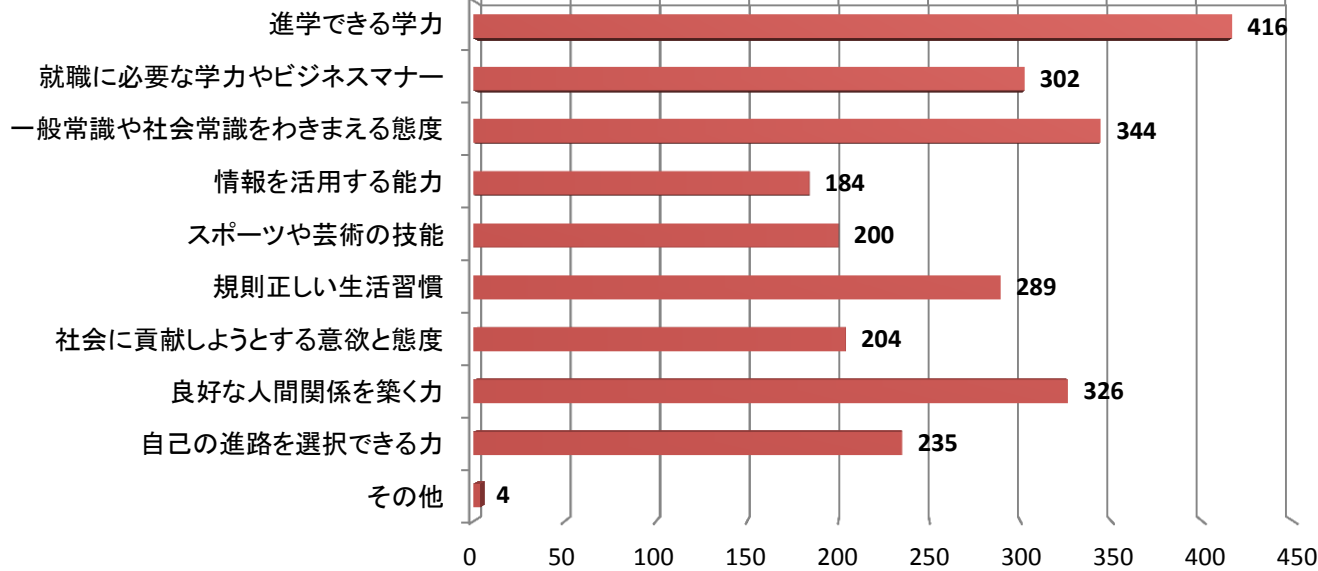


～考察～

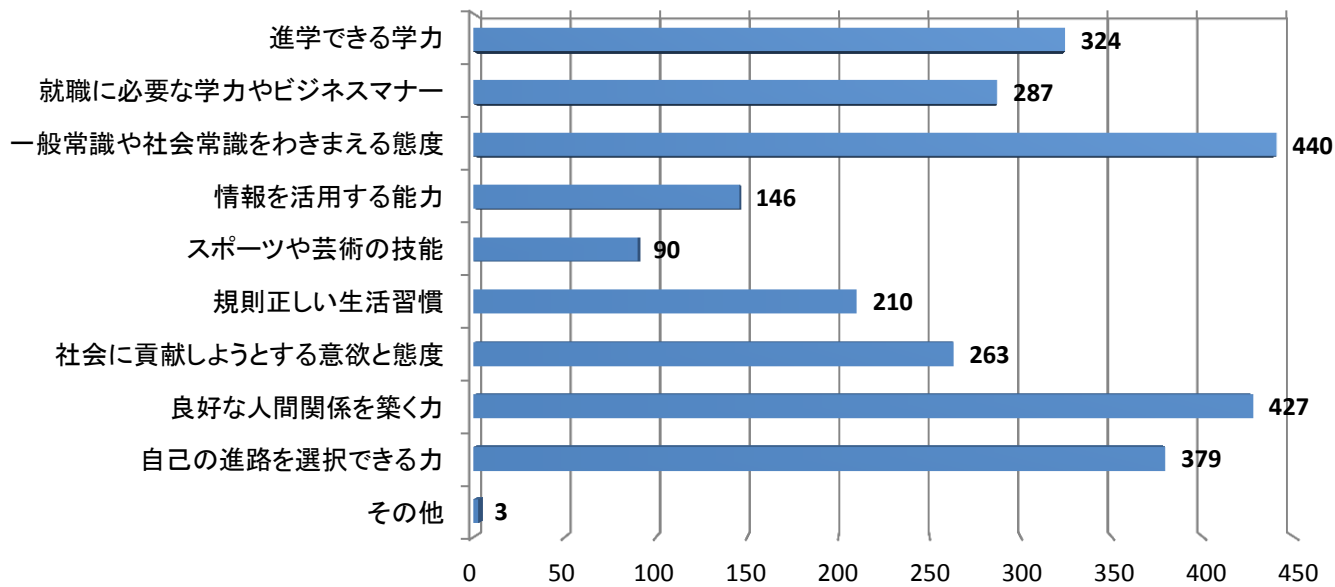
「進路につながる学力」、「授業の充実」など学力に結びつく回答が多く、次いで「友達との出会い」が高い傾向にある。また、問1同様、生徒は「部活動の充実」、「学校行事の充実」、一方、保護者は「個に応じた指導・支援」の回答が多くなっており、生徒は学校生活、保護者は学校生活の充実、学力や進路について重要視している。

問3 あなたが、高校に入学してから身に付けたいものは何ですか。(複数回答)

生徒回答(回答数:2504)



保護者回答(回答数:2596)



《その他・記載内容》

生徒回答

コミュニケーション能力

今までえられなかった経験と、えるための技能

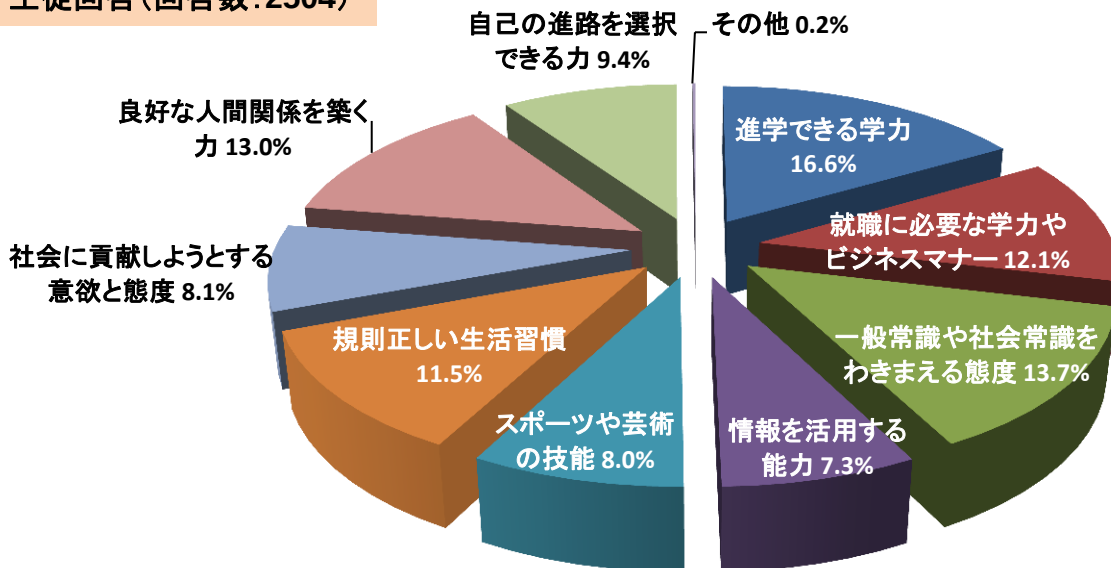
保護者回答

一般常識

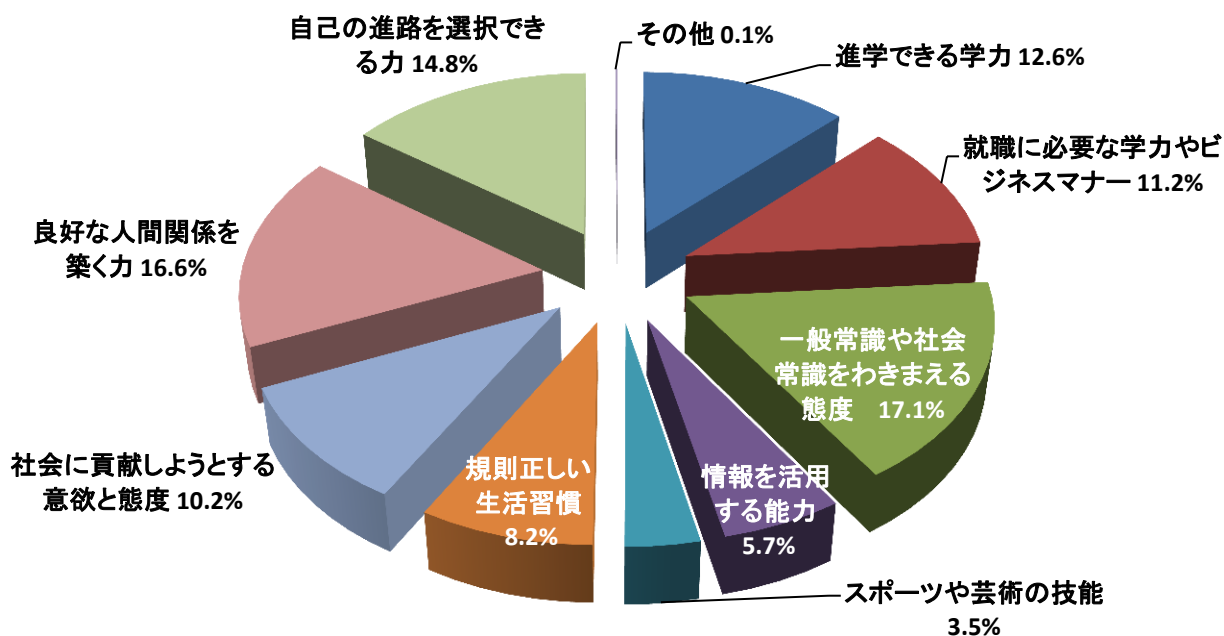
リーダーシップ、メンバーシップの力

自ら進んで物事を決める能力。

生徒回答(回答数:2504)



保護者回答(回答数:2596)

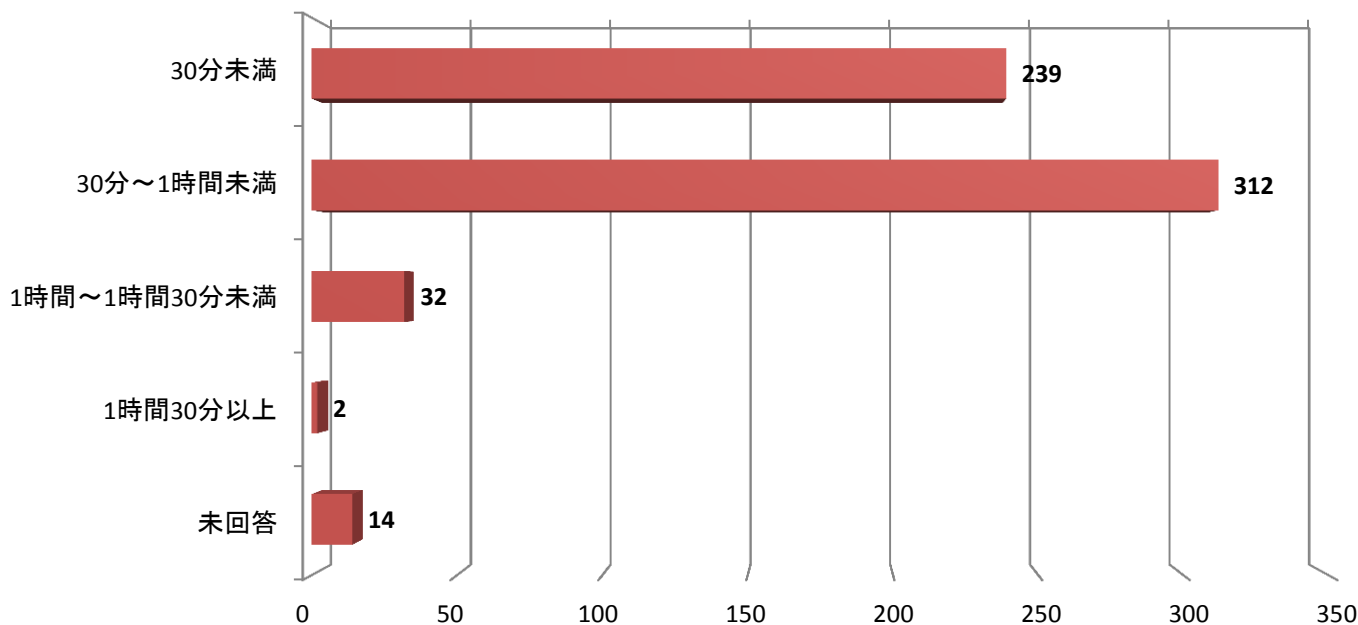


～考察～

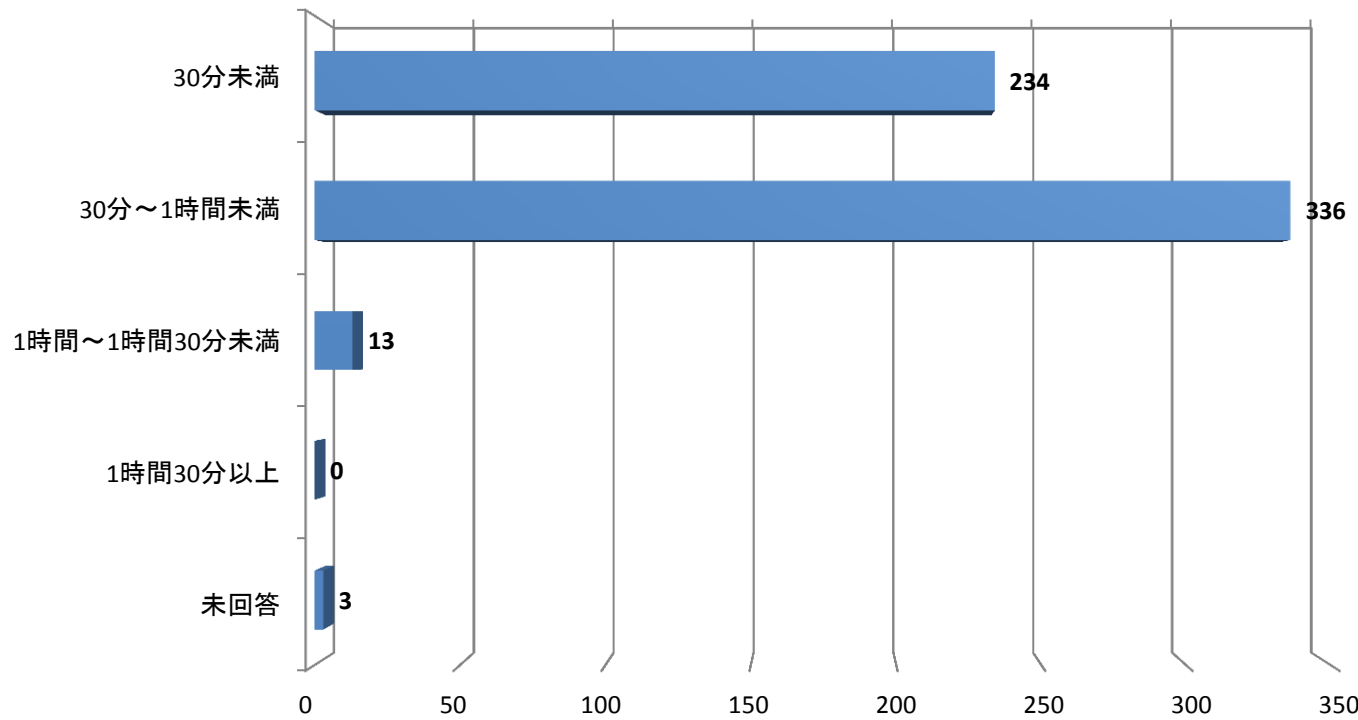
生徒は学力向上につながる回答が多かったが、保護者の回答は社会常識や人間関係、自己進路選択できる力を重視しており、高校選択時には学力重視の傾向にあるが、入学後は進学・就職を問わず卒業後の進路を見据えた回答が多い。

問4 高校までの通学時間はどのくらいが良いと思いますか。

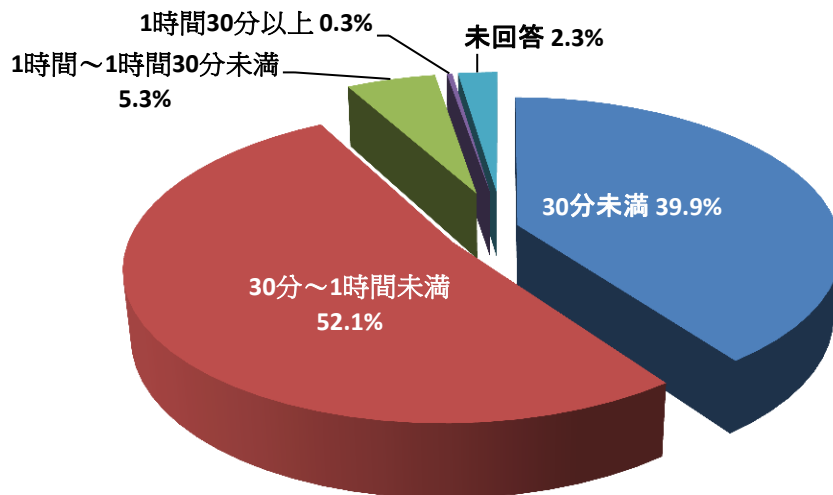
生徒回答(回答数:599)



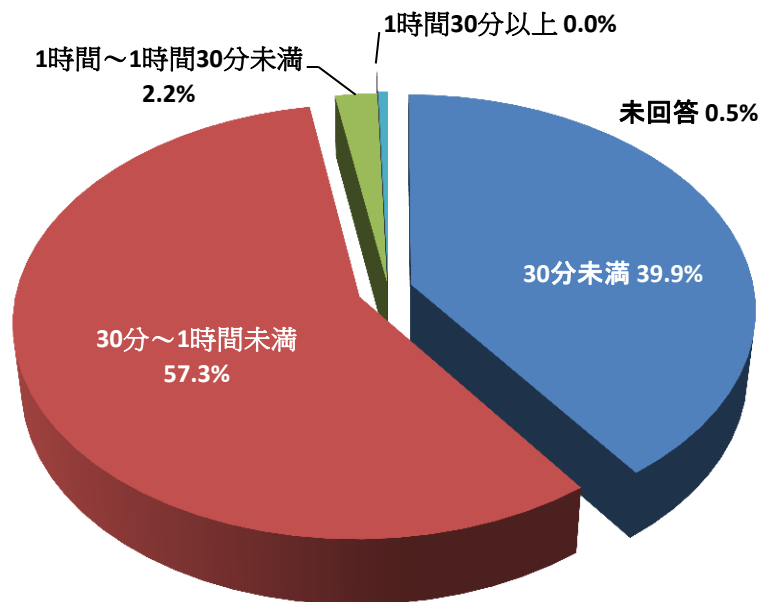
保護者回答(回答数:586)



生徒回答(回答数:599)



保護者回答(回答数:586)

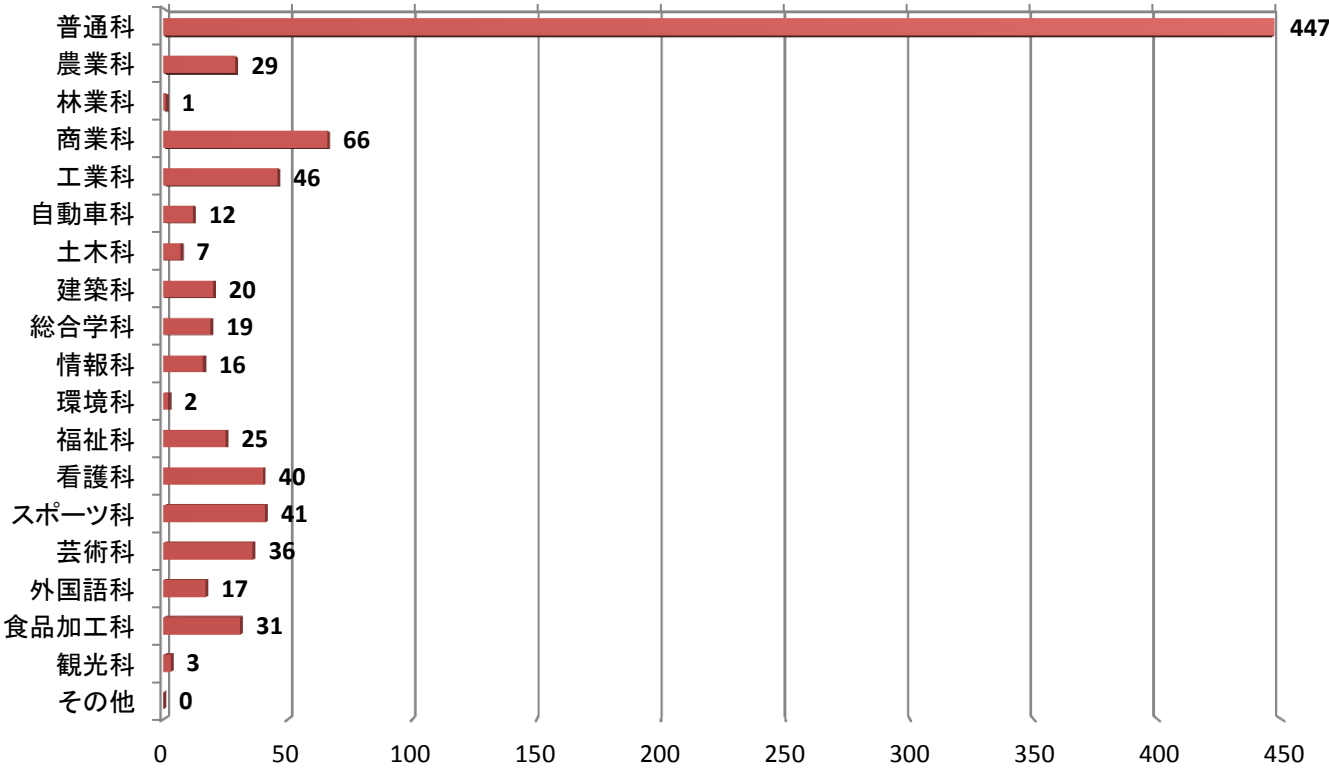


～考察～

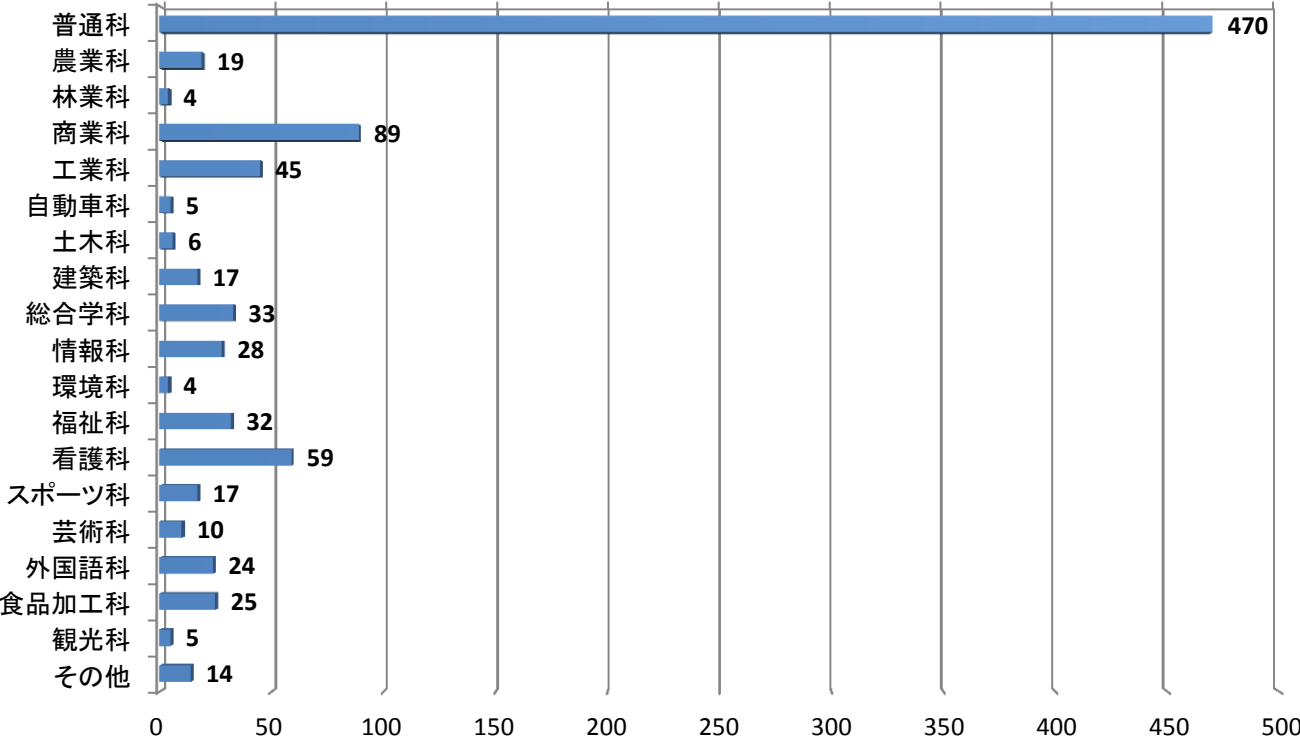
札内地区は30分以内、幕別・忠類地区は1時間未満との回答が多く、生徒や保護者、また全ての地区で帯広の高校を意識しているものと推察される。

問5 あなたが、進学したいと思う学科は何ですか。(2つ以内選択)

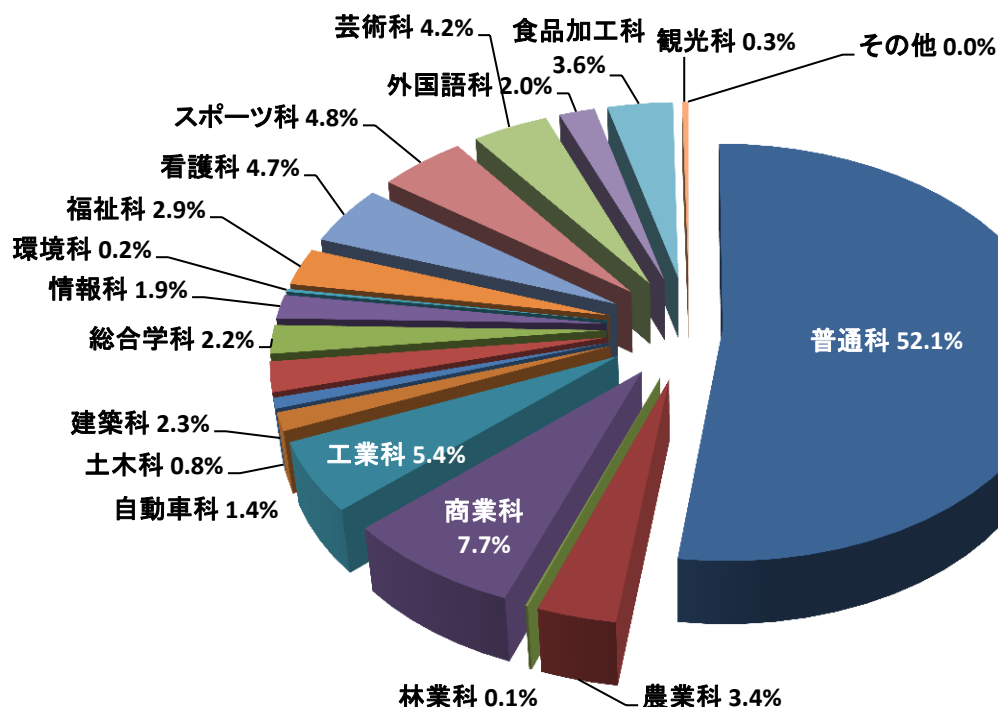
生徒回答(回答数:858)



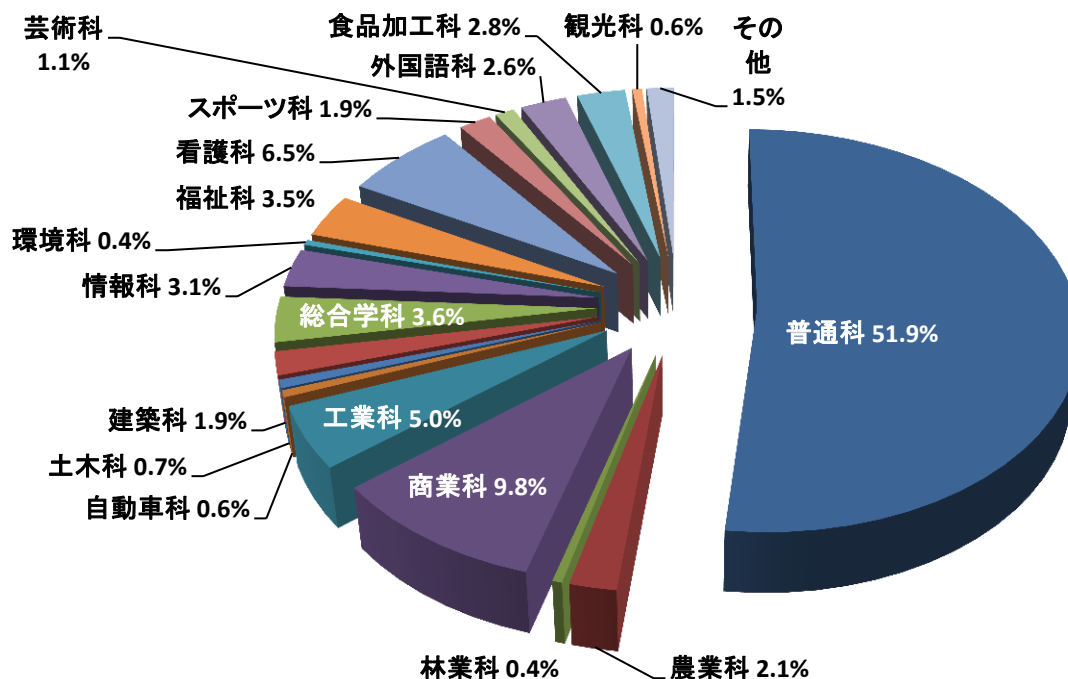
保護者回答(回答数:906)



生徒回答(回答数:858)



保護者回答(回答数:906)



～考察～

普通科志向が高く、次いで、商業科、工業科と十勝管内にある職業系の学科を希望している。また、スポーツ科、看護科、芸術科などの回答もあった。

生徒回答

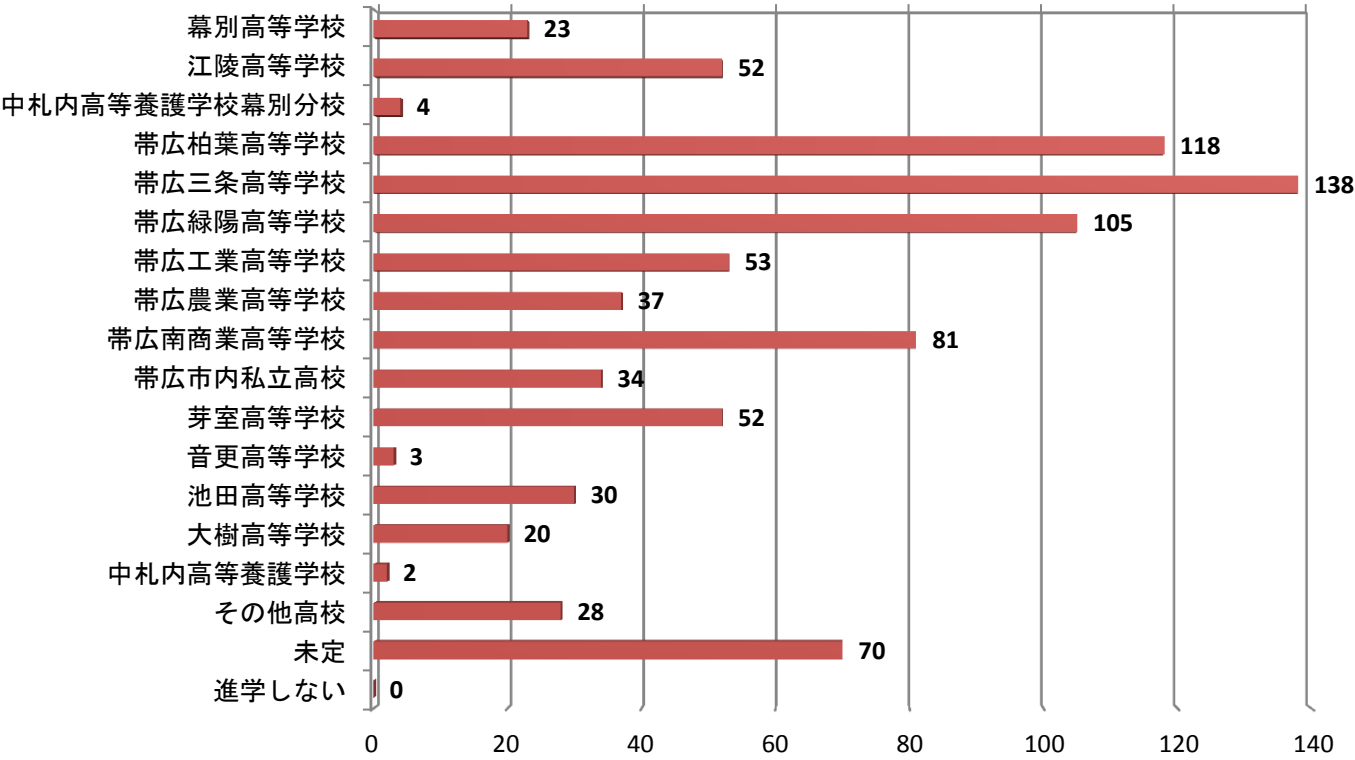
畜産科	動物関係
生き物系	ファッションデザイナー・ネイルアーティスト
未定	決まってない
空港技術科	保育士

保護者回答

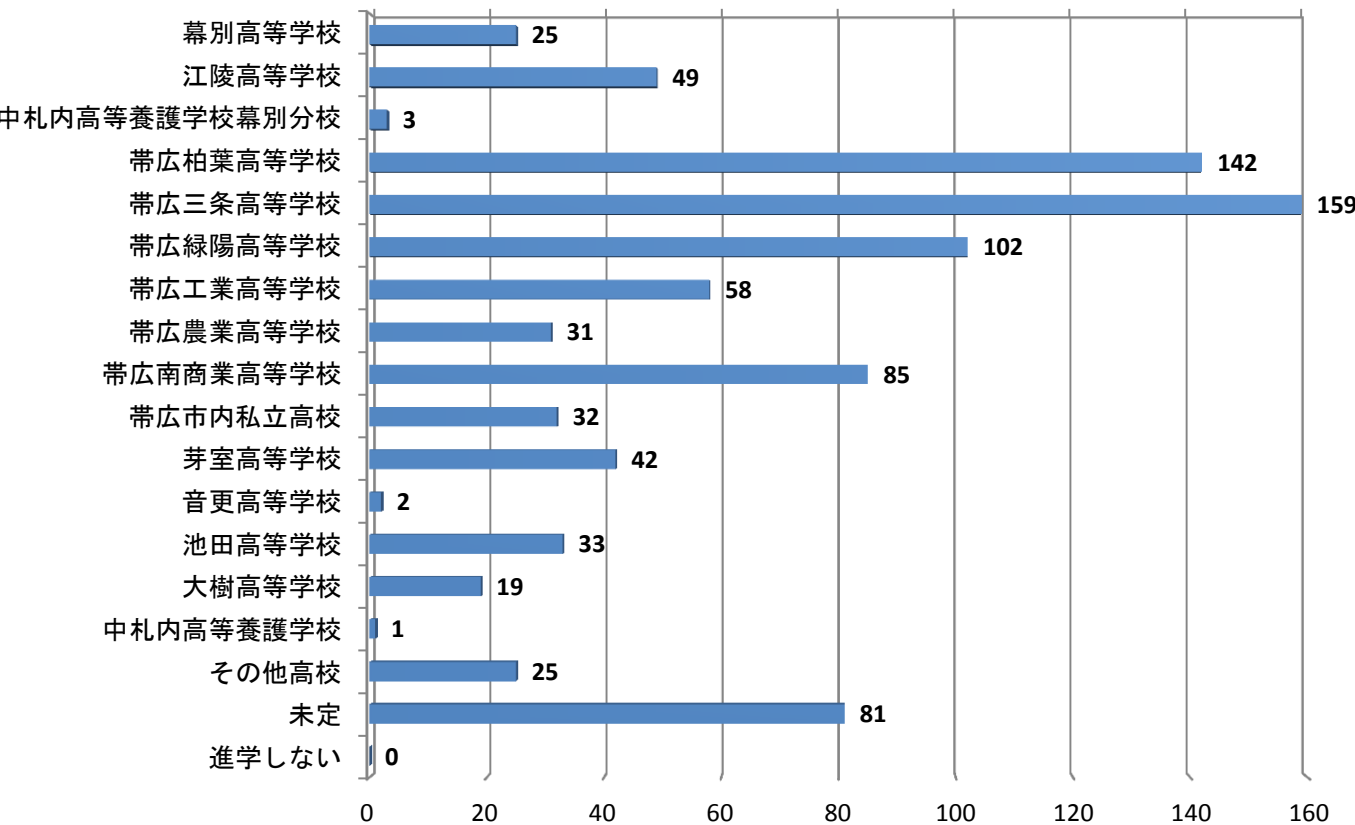
子どもの望む学科(外6件)	食物調理科
薬剤師になるための学科	子供が選んだ学校、大学、専門学校
薬科	調理関係

問6 あなたは、現時点で進学したい高校は決まっていますか。(2つ以内選択)

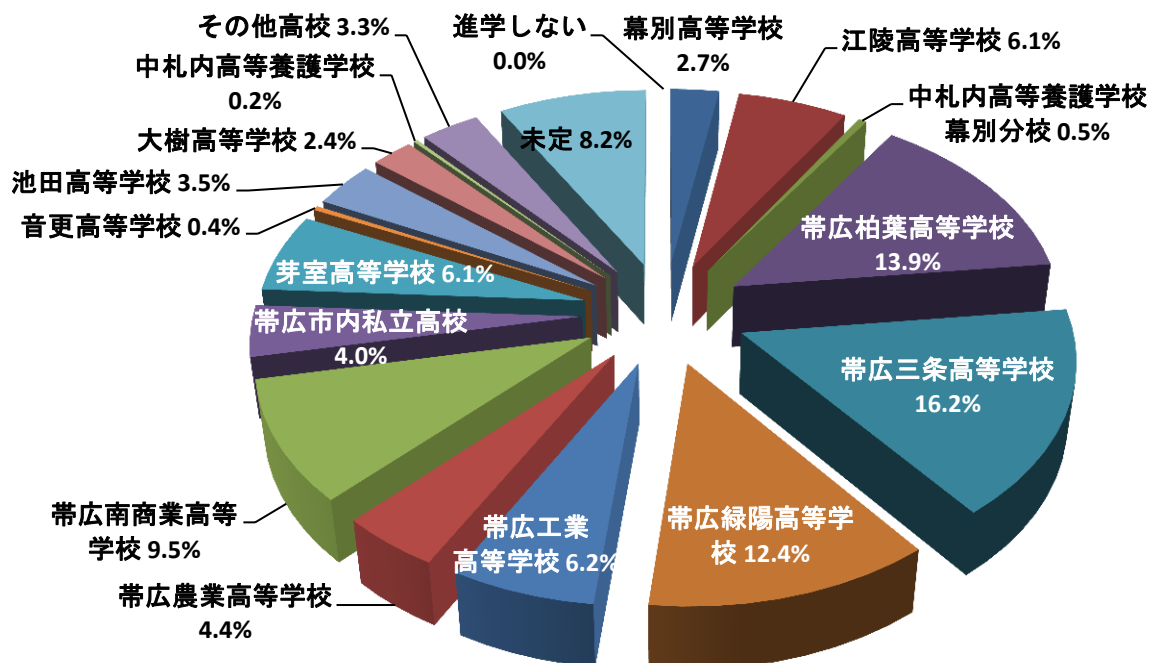
生徒回答(回答数:850)



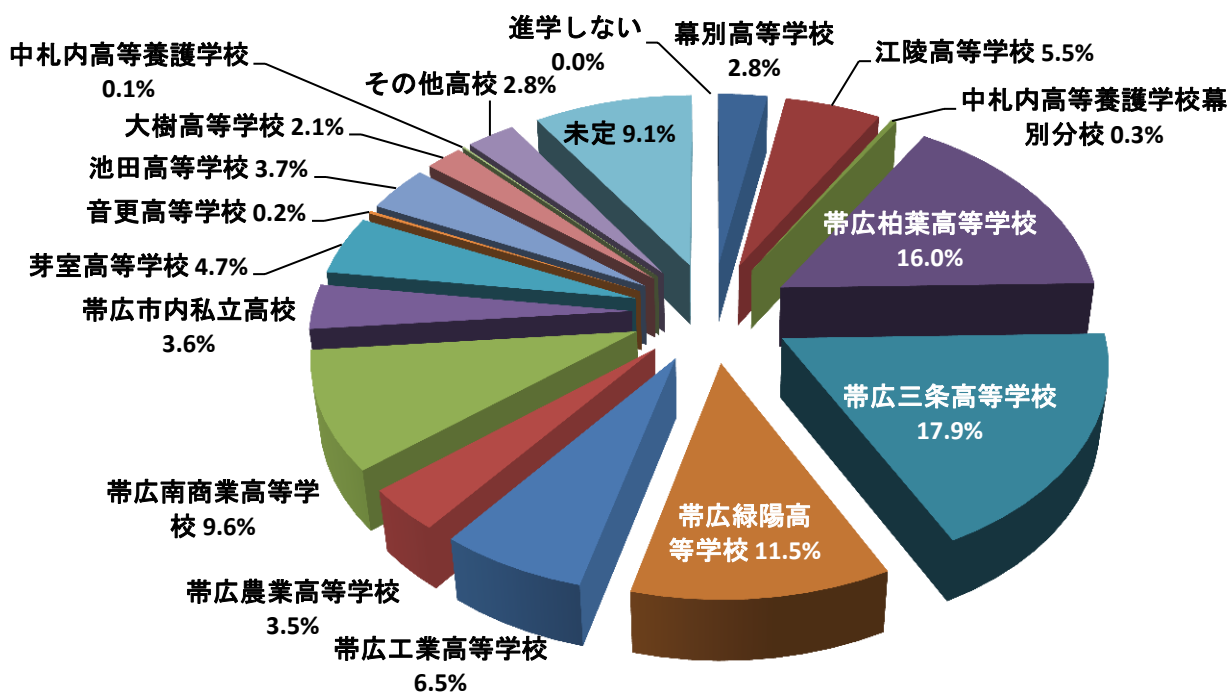
保護者回答(回答数:889)



生徒回答(回答数:858)



保護者回答(回答数:889)

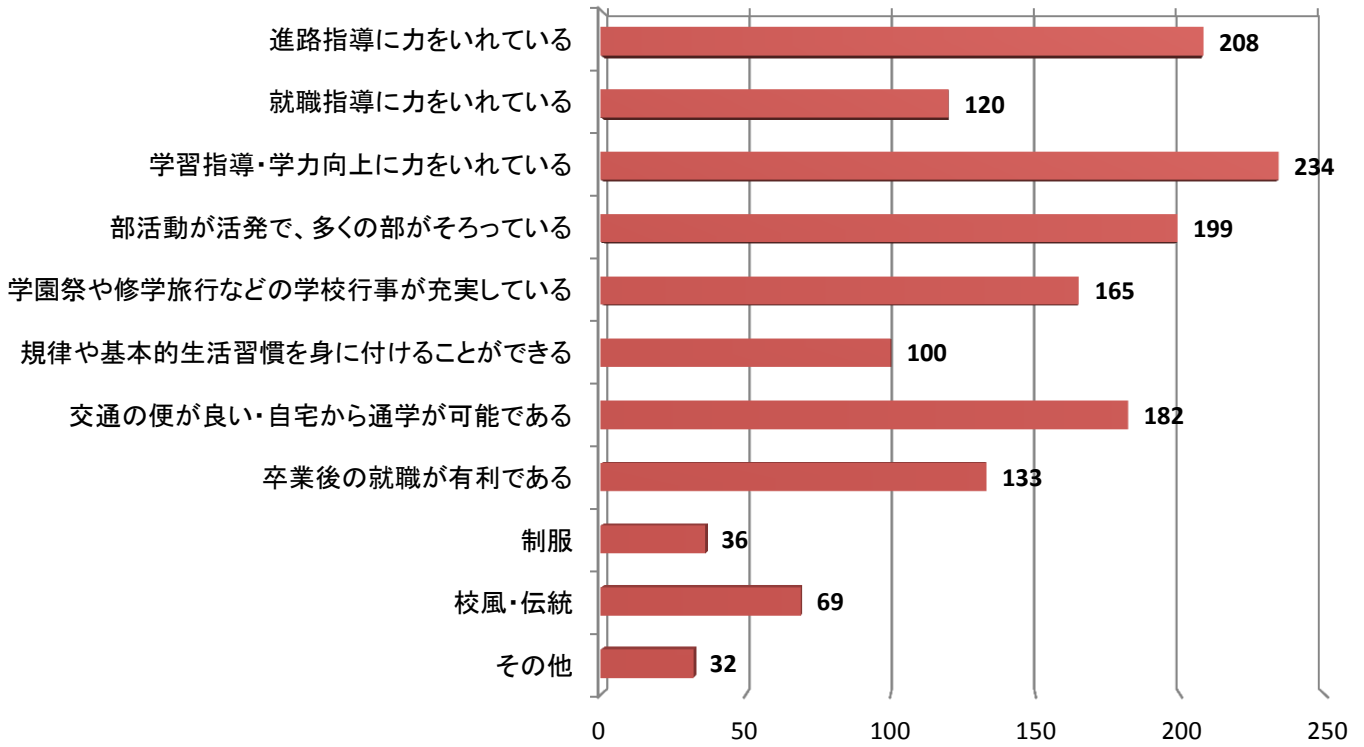


～考察～

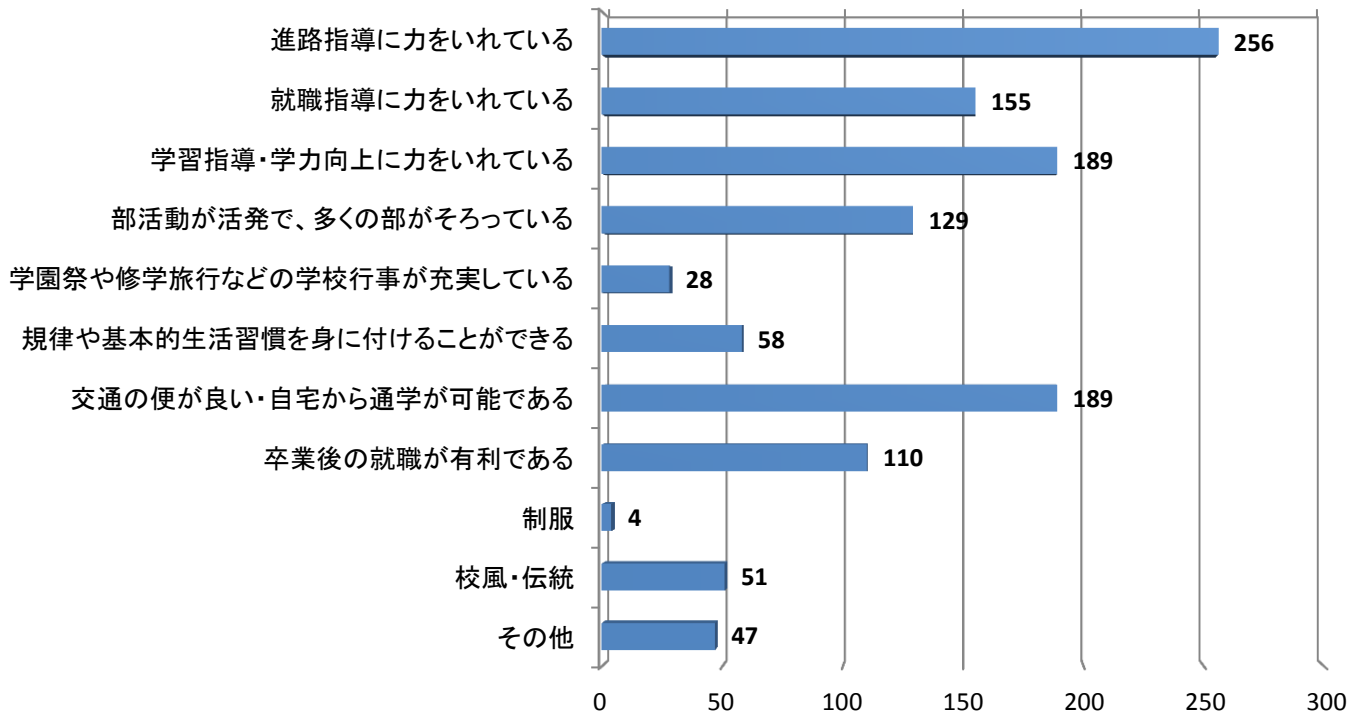
帯広の普通科を選択傾向にあり、生徒数の2/3は帯広市内(私立含め)の高校を選択していることから、地元進学率が低いことがわかる。一方、市外の高校で芽室高校・池田高校への進学希望者が全体の1割を占めている。

問7 問6の進学したい高校をどういう理由で選びましたか。(複数回答)

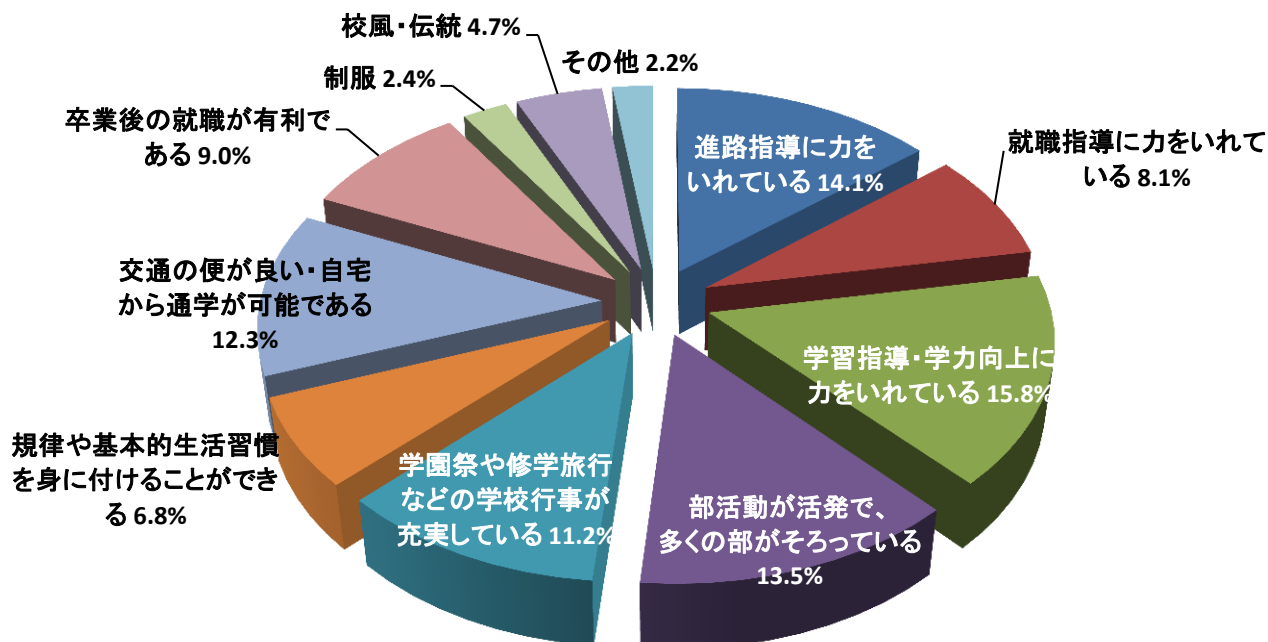
生徒回答(回答数:1478)



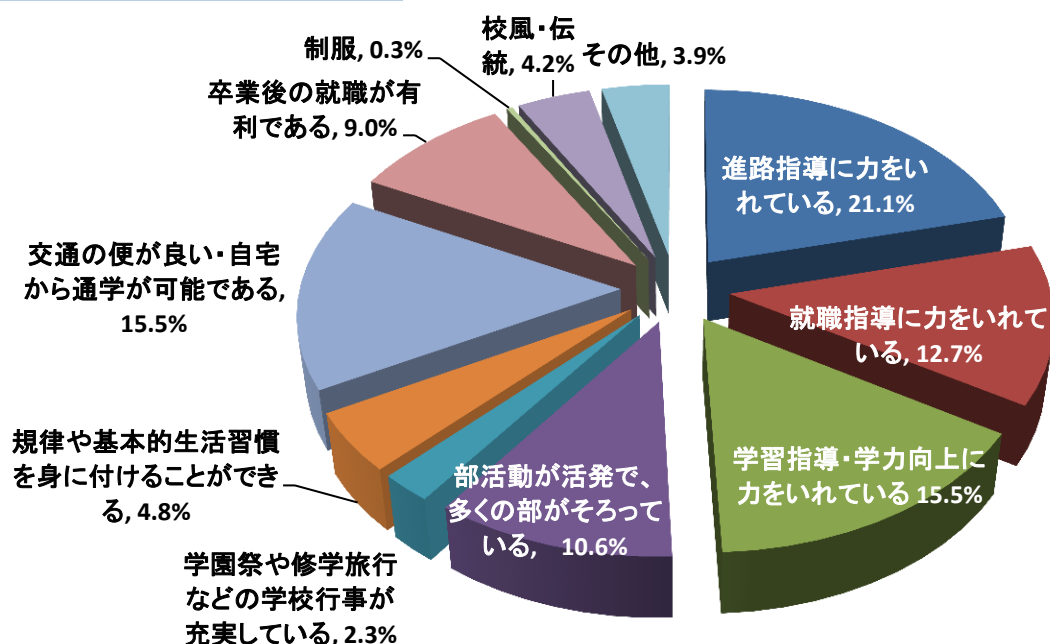
保護者回答(回答数:1216)



生徒回答(回答数:1478)



保護者回答(回答数:1216)



～考察～

生徒・保護者ともに学力向上、進路指導の回答が多いが、交通の便が良いなど通学に対す回答も多い。また、生徒では問2同様に部活動についての回答も多かった。

《その他・記載内容》

《本人の希望》 （18件）

保護者回答（18件）

本人の希望	子どもが望むから
-------	----------

《未定》 （12件）

生徒回答(9件)

未定	行きたい高校が決まっていない
----	----------------

保護者回答(3件)

「行かせたい＝行ける」とはならず。進学高校はまだ決まっています。	
----------------------------------	--

《自分の学力に合わせて選択》 （10件）

生徒回答(3件)

自分の学力で入れるかどうか	今の学力で行けるところだった。
---------------	-----------------

保護者回答(7件)

本人の学力に合わせて選ぶ	学力を考えて
子どもの学力に合っている	今の学力より少し上を考えた結果

《卒業後の進路や将来を考えて》 （6件）

生徒回答(5件)

高校卒業後の進路を考えられる。	機械系の仕事をしたいから
自分の将来の夢のため	家をつぐため
将来やりたいことと合致している	

保護者回答(1件)

高校で調理の基礎から学べる。免許が取得できる。	
-------------------------	--

《興味があった・楽しそう・面白そう》 （5件）

生徒回答(2件)

興味があった。	楽しそう
---------	------

保護者回答(3件)

授業が面白そう	皆楽しく生活してそう。
---------	-------------

色々経験ができそうだから	
--------------	--

《家族が通っている・知り合いの勧め》 （5件）

生徒回答(3件)

現在姉が行っている高校であるため。また、郊外で部活動をするため。	兄が通っているから
----------------------------------	-----------

知り合いの勧め	
---------	--

保護者回答（2件）

母校だから	兄弟が行っていたので
-------	------------

《部活動についての記述》 （3件）

生徒回答(2件)

多くの部活があるかはわからないが、入りたい部活動がある。	今の部活を続けたいから。
------------------------------	--------------

保護者回答(1件)

吹奏楽部が充実している。	
--------------	--

《出会いの機会がある》 （2件）

生徒回答(1件)

世界へ出ても飯が食べられるような技能の習得・
色々な人材と出会う機会を得るチャンスが多そうだから。

保護者回答(1件)

良い友達との出会い

《行きたい学科がある》 （2件）

生徒回答(1件)

自分の行きたい学科があったから。

保護者回答(1件)

江陵は福祉科があるから。中札幕別分校は、現在
支援在籍で学校側から勧められているため。

《体験入学・見学で決めた》 （2件）

保護者回答（2件）

体験学習

子供が見学に行き、先輩などの話を聞いて選んだから。

《他》 （5件）

生徒回答(2件)

専門的な知識を学べる

自分の得意なことを伸ばす。

保護者回答(3件)

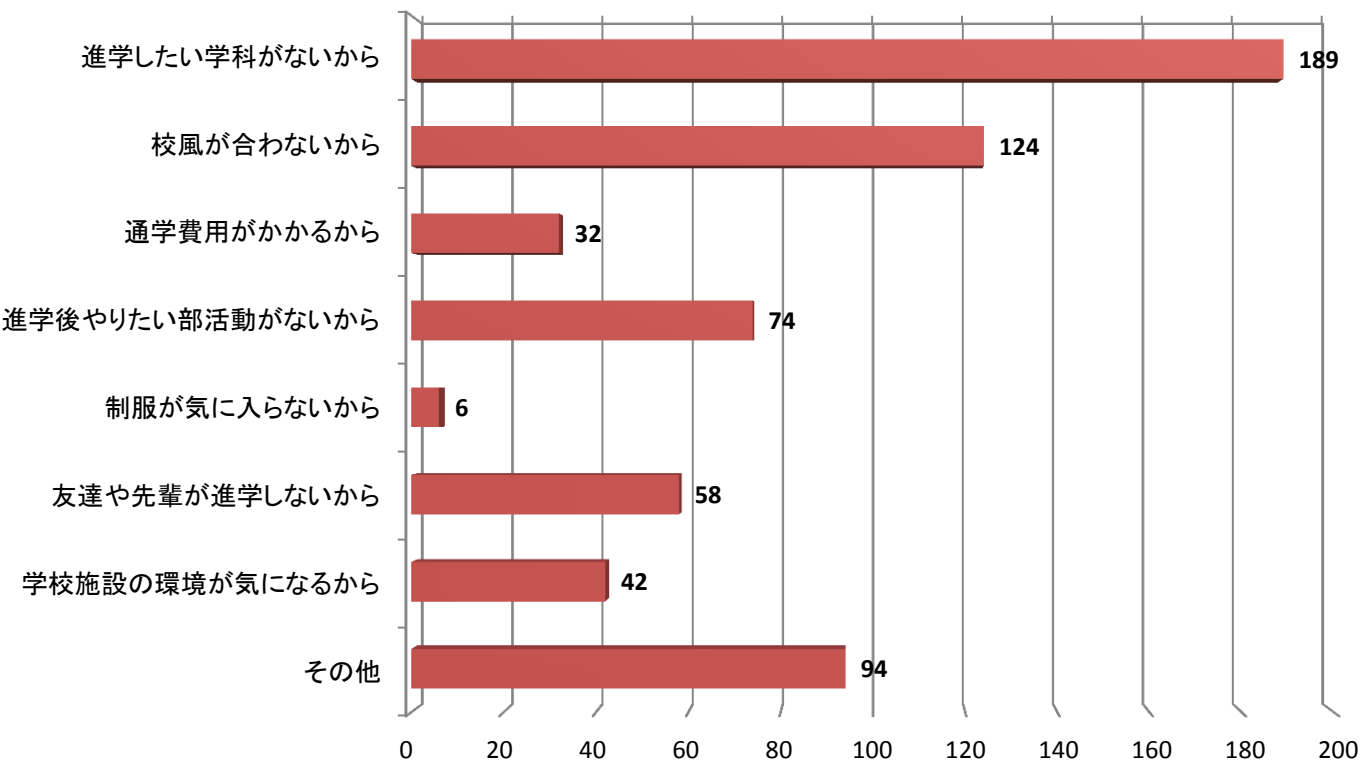
資格の取得が本人の力になる

諸費用

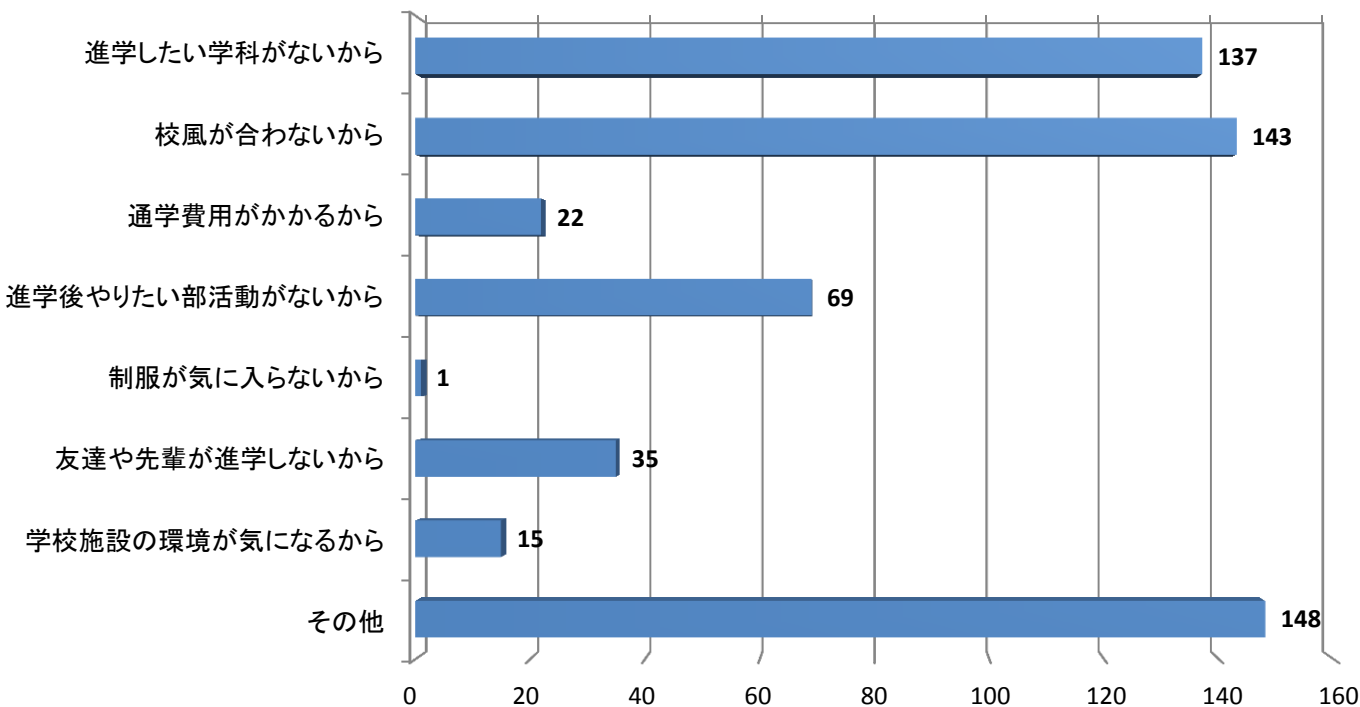
技術・技能の指導に力を入れている

問8 問6で幕別町内の高校を進学先として選ばなかったのはなぜですか。(2つ以内回答)

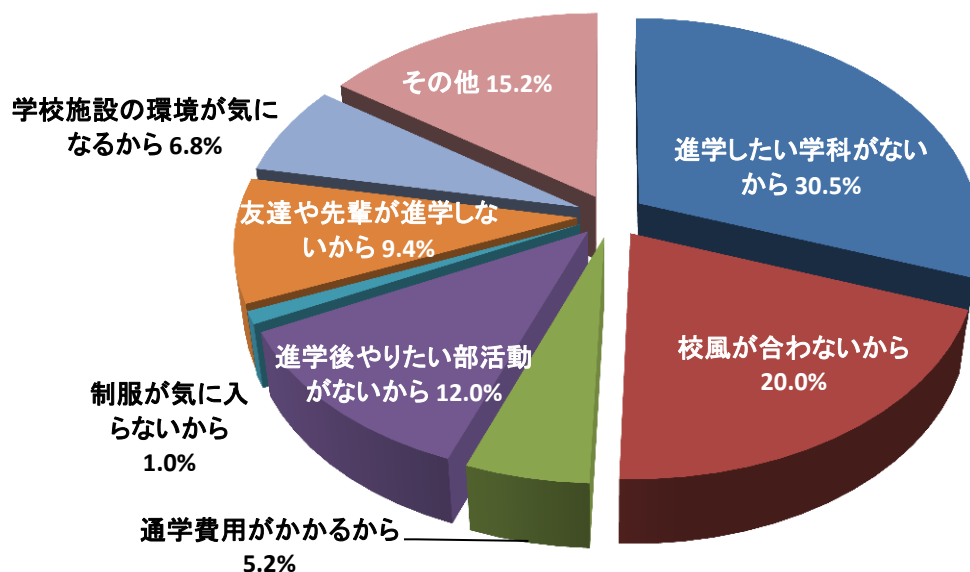
生徒回答(回答数:619)



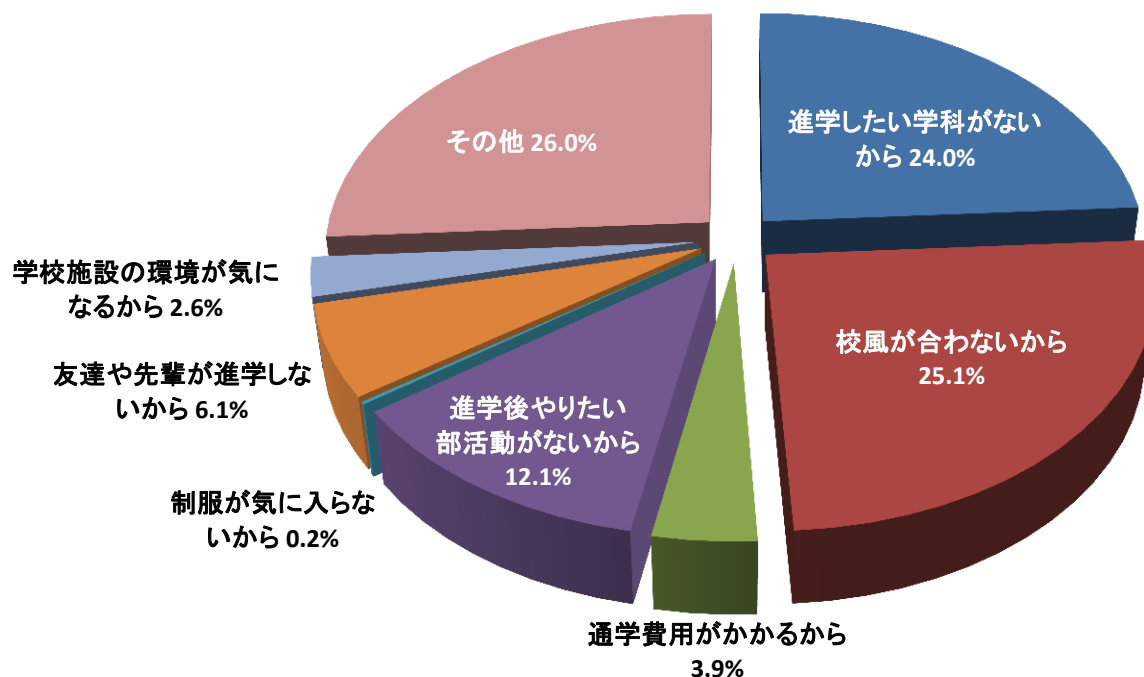
保護者回答(回答数:570)



生徒回答(回答数:619)



保護者回答(回答数:570)



～考察～

生徒・保護者ともに「進学したい学科がない」、「校風があわないから」との回答が高い傾向にある。また、「その他」回答も多く記載内容は次のような回答があった。

《その他・記載内容》

《自分の学力に合わせて決めたい》（52件）

生徒回答(25件)

自分の学力に合わないから	学校の評価が低いから。
もっと上のレベルを目指したかったから。	学力をつけたいから。

保護者回答(27件)

自分の学力に合わないから	大学に進学できる学力を身につけようとする考えのある学校に行ってほしい。
大学進学を考えると、学力レベルに不安がある。	将来希望する職種になるためには、ランクが低いため。

《卒業後の進路・進学に不安がある》（47件）

生徒回答(10件)

進学に有利ではないから。(2件)	自分の夢にまったく合わないから
進学率など	将来、仕事につくための勉強ができないから。
看護師を目指すので、それに見合う勉強をするのには向いていないと思ったから。	将来のためになる学科・コースがなく、進学しづらいため。

保護者回答(37件)

進学指導に不安があるから。	大学進学を考えると不利。学力が身につくか心配。
その後の進路を考えて。	資格を取るために、大学進学を考えているから。
学力、進学を考えると町外になる	卒業後の進路。部活の試合の結果などを見て。
就職・進学共にメリットが感じられないので。	高校卒業後の進路に不安があるため。
進学に力を入れている所がないから	大学への進学を考えると町内の高校では学校以外に進学塾へも通わないとならない。町内高では学力レベルが上がらないと考えて。
進学校ではないと思われるので。個々の学力に合わせて学力を高くして授業されているか疑問なので。	就職・進学に力を入れている感じがしない

《行きたい高校が別にある》 (29件)

生徒回答(14件)

他に行きたい高校があるから	他の学校の方が魅力的だったから。
進学や就職のための試験が他校の方が取りやすく力を入れていたから	帯広の高校に行きたいから
やりたい部活はあるが、その部活がもっと強い高校に行きたいから。	

保護者回答(15件)

行きたい高校が決まっているから。	進学校を選んだため
高校卒業後の進学を考えると、他の高校の方が良いと思うから。	本人が当初より三条高校を希望した為
進路指導、生徒の勉学に対するモチベーションの高い高校へ行かせたい。	町内に柏葉があれば、希望します。
他に進学させたい学校があるから	行かせたいと思わない

《イメージが合わない》 (26件)

生徒回答(14件)

成績や校風などが良いイメージがないから。	雰囲気合わない
評判が悪い 学校全体や生徒などの	イメージが悪いから

保護者回答(12件)

学力が低く、印象があまり良くないと聞くことが多い。実際、自分の目で見ていないので見てみたいですが...	去年、見学に行きました。その時の1年生の授業があまりにも自由すぎてこれでは安心して通わせないと思ったのが一番大きな理由です。
学校全体の周囲の話や(生徒、教師)の印象	登下校中の生徒を見ていて、イメージが悪いから、

《未定》 （23件）

生徒回答(12件)

未定(4件)	幕別町内の高校についてあまり知らないから。
どこの高校が幕別町内かわからない	興味がない

保護者回答(11件)

未定(3件)	まだはっきりとした進路の方向性がみえていないので
町内の高校の事が良くわからない	通学方法がかぎられていて、どんな学校なのか情報がない。

《通学が不便、遠い》 （15件）

生徒回答(1件)

家から通うのには少し遠いから	
----------------	--

保護者回答(14件)

通学が不便(5件)	交通の便が悪い
大学などの進学が不安 通学しづらい場所	通学時間がかかる。交通が不便

《特徴や特色がない・魅力がない》 （6件）

生徒回答(2件)

面白みがないと感じる。	幕別町内の高校でしか出来ないことがないから。
-------------	------------------------

保護者回答(4件)

特色がない。魅力的ではないから。	学科に特徴がない。昔の自動車科などあれば良い。
------------------	-------------------------

《本人の希望》 （6件）

保護者回答(6件)

子供が自ら選択した高校だから

子どもが望まないから

《部活動についての記述》 （4件）

生徒回答(3件)

部活動が充実しているから。

部活動があまり活動していないから。

保護者回答(1件)

幕別高校なら自転車で行けるので便利だが、本人の希望する部活がないから。

《生徒が少ない》 （3件）

生徒回答(1件)

行ってる人がいないから

保護者回答(2件)

人数が少ない

もっと視野を広げさせたい。生徒数が少なすぎて、今までと変わらない。

《勉強と部活の両立が難しい》 （3件）

生徒回答(2件)

勉強、部活を頑張りたいので。

勉強と部活動の両立ができる高校がないから

保護者回答(1件)

スポーツと進学を両立できる高校がない

《他》 （6件）

生徒回答(2件)

今の仲間と離れたいわけではないが、新しい出会いをして、新しい自分を見つけたり、いろんな人と関わりたいから。

両親の住む家から一年でも、一か月でも、一日でもはやくでていきたいから。

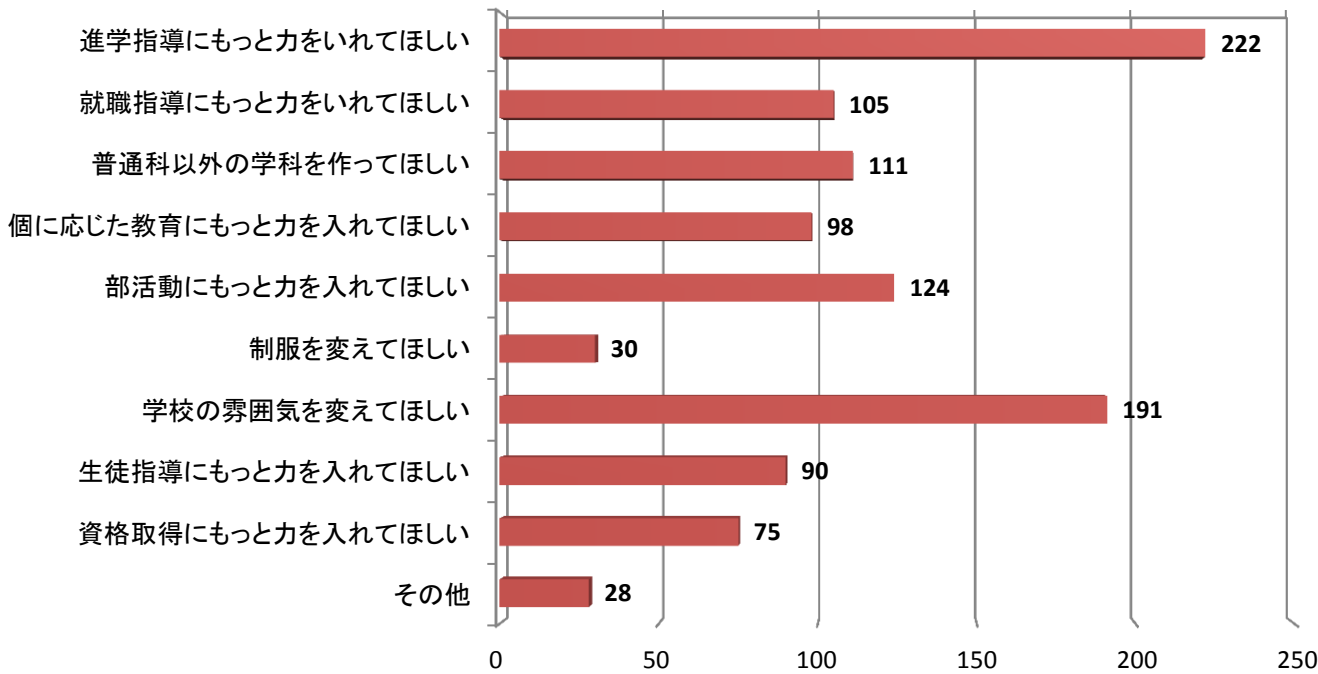
保護者回答(5件)

給食が無いから。制服が無料でない。

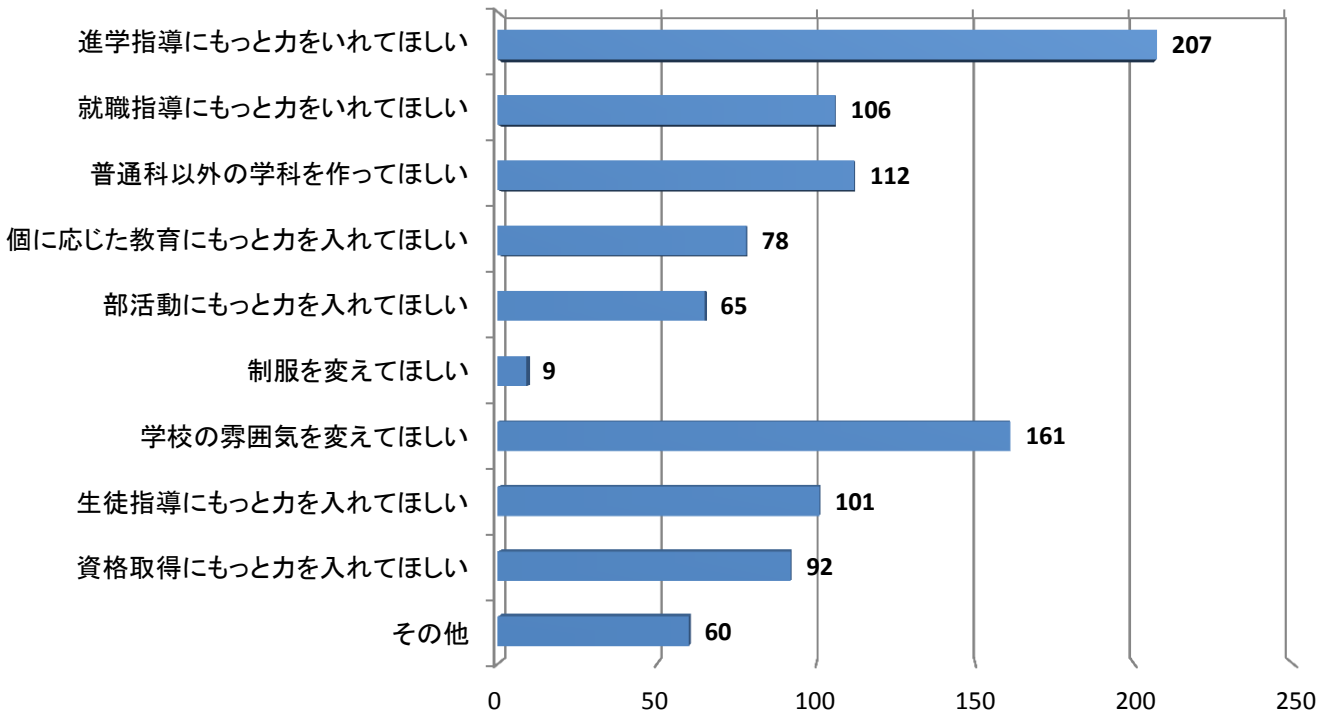
町やPTA、地域の意気込みを感じない。先生方はとてもすばらしいと思っています。

問9 あなたは、幕別高等学校が今よりさらに魅力ある学校となるために何が必要であると思いますか。(2つ以内回答)

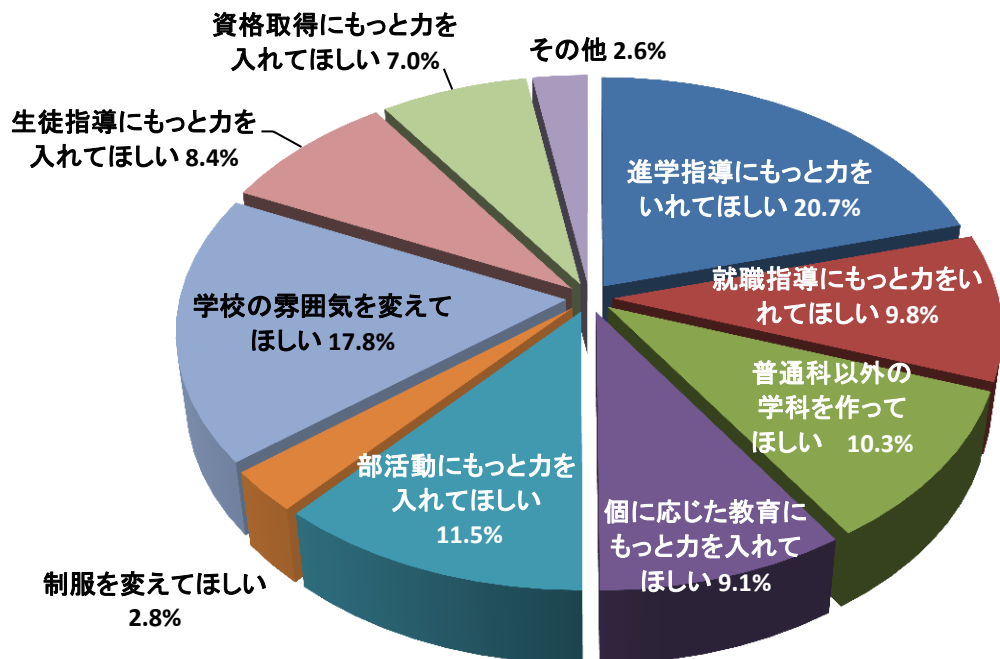
生徒回答(回答数:1074)



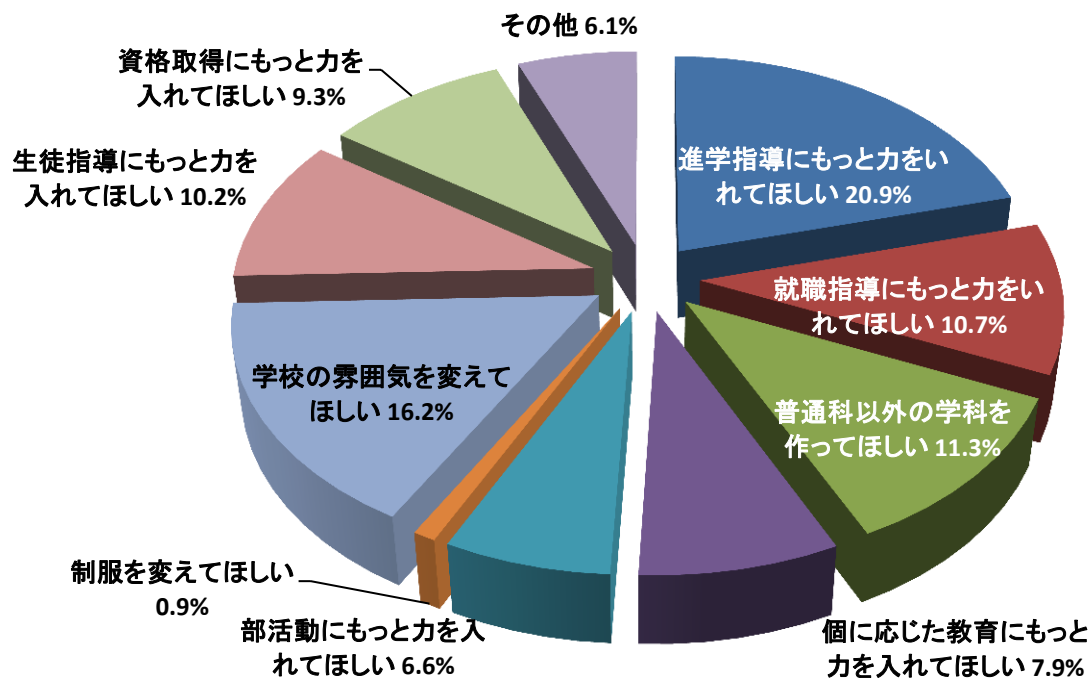
保護者回答(回答数:991)



生徒回答(回答数:1074)



保護者回答(回答数:991)



～考察～

生徒・保護者ともに「進学指導にもっと力をいれてほしい」、「学校の雰囲気を変えてほしい」との回答が高い傾向にあった。また、保護者からは「その他」回答も多く、記載内容は別紙のようなものがあった。

《その他・記載内容》

《詳しく知らない・わからない》 （23件）

生徒回答(7件)

よくわからない(2件)	行かないのでわかりません
-------------	--------------

保護者回答(16件)

幕別高等学校の事が全くわからない	何に力を入れているのか知らない
------------------	-----------------

よく分かりません。今がどんな学校か知りません。	情報がない
-------------------------	-------

良い情報の発信が少なく何が必要かわかりません	幕別高等学校の事はよく解りませんが、魅力のない学校とは思いません。
------------------------	-----------------------------------

《学力の向上》 （12件）

生徒回答(5件)

学力をもっとあげてほしい。生徒みんなが明るくなってほしい。	学力向上にもっと力を入れてほしい。
-------------------------------	-------------------

保護者回答(7件)

学力の向上	全体的なレベルの向上
-------	------------

「レベルが低すぎる」と定着しているので、学力面で上げて行く事が良いのでは	学校のランクが低いイメージをなくす
--------------------------------------	-------------------

《学校の雰囲気を変えてほしい》（10件）

生徒回答(3件)

入学することによるメリットが必要。明るい雰囲気を出す。

評価を上げる。

中学生の思ってる幕別高校のイメージを変えて、生徒を増やすために高校のPTAと高校の先生方の協力が必要だと思います。高校見学をたくさん行うなど。

保護者回答(7件)

中学生たちが行きたいと思う学校になるための教員、職員、生徒らの努力。

分校の見学に行った際、一緒に幕高も見学しましたが、授業態度の悪さを指導できてないような雰囲気を感じた。

世間のイメージを良くする

《特色があると良い》（8件）

生徒回答(1件)

その高校に入るとこれができる、卒業後にここに行ける、こんなことができると言った特別なことが特にないから。

保護者回答(7件)

幕別高校にしかないような、専門的なことを取り入れる。専門学校に進まなくても資格がとれ、就職に有利になるような

他校と同じである必要はなく、就職に役立つ資格取得ができるカリキュラム(情報処理や医療事務など)を組み込むと良いのではないかな？

特徴がない。

高校に特色がない。何が1つ力を入れるものを作ってほしい。

《給食にしてほしい》（7件）

生徒回答(3件)

給食(2件)

保護者としては、給食になると大変ありがたいです

保護者回答(4件)

校舎改築。給食か食堂導入。

費用の助成と給食

《通学の利便性の向上(スクールバスなど)》 (5件)

生徒回答(2件)

札内からは遠い。

スクールバスがあると…

保護者回答(3件)

札内からは遠い(通学に不便)

スクールバスで通学できたら考えます。

《もっとPRをする》 (4件)

生徒回答(1件)

もっとアピールする

保護者回答(3件)

魅力のPR

前の印象が悪すぎるので、良い状態であること(就職率が高い等)をもっと、色々な中学に行ってアピールする方が良い。宣伝活動、オープンスクール等を多くする。

《町からの支援の充実》 (3件)

保護者回答(3件)

町からの支援の充実(2件)

PTA活動の充実、町の力をもっと見える形で充実してほしい。学校振興会等。

《普通科以外の学科を作ってほしい》 (1件)

保護者回答(1件)

昔あった商業科、自動車科など

《他》 （2件）

生徒回答(1件)

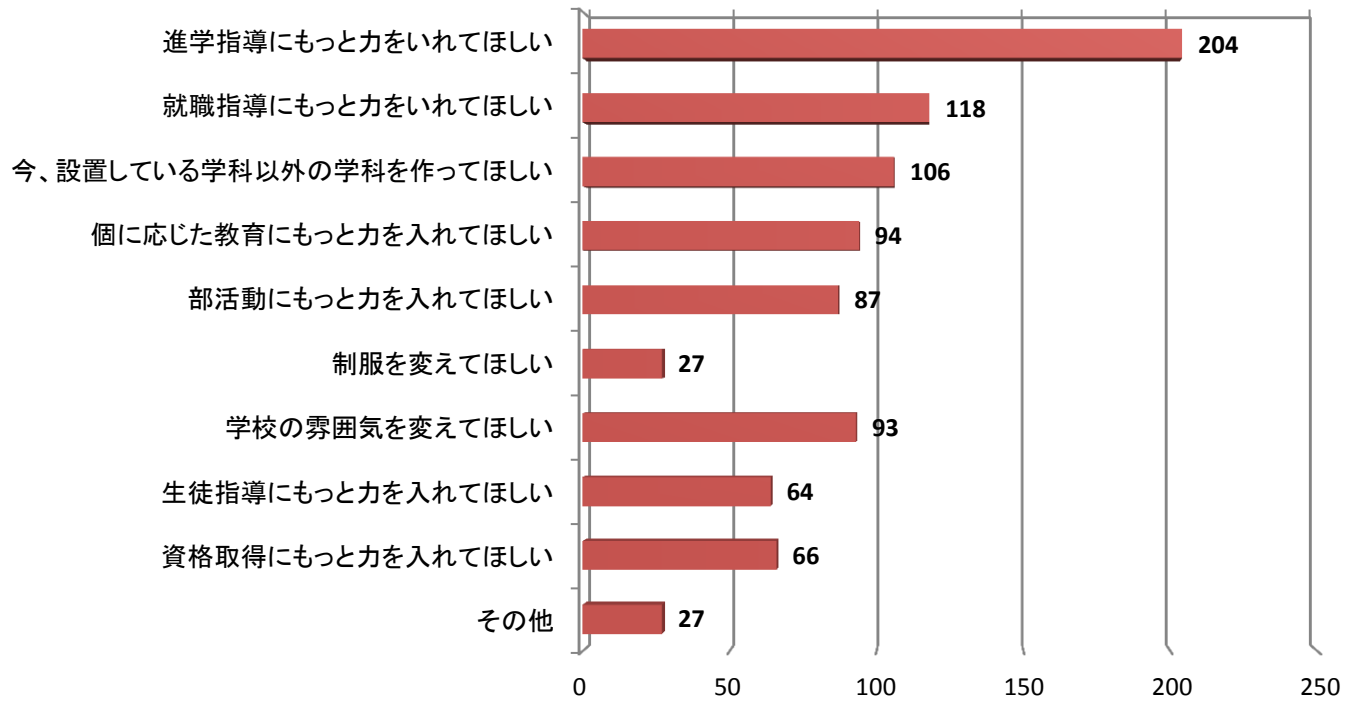
他の学校にはできない良いところはいっぱいあるから、他の学校と同じようにではなく、もっと自分らしく自由に動けるようにしてほしい。

保護者回答(1件)

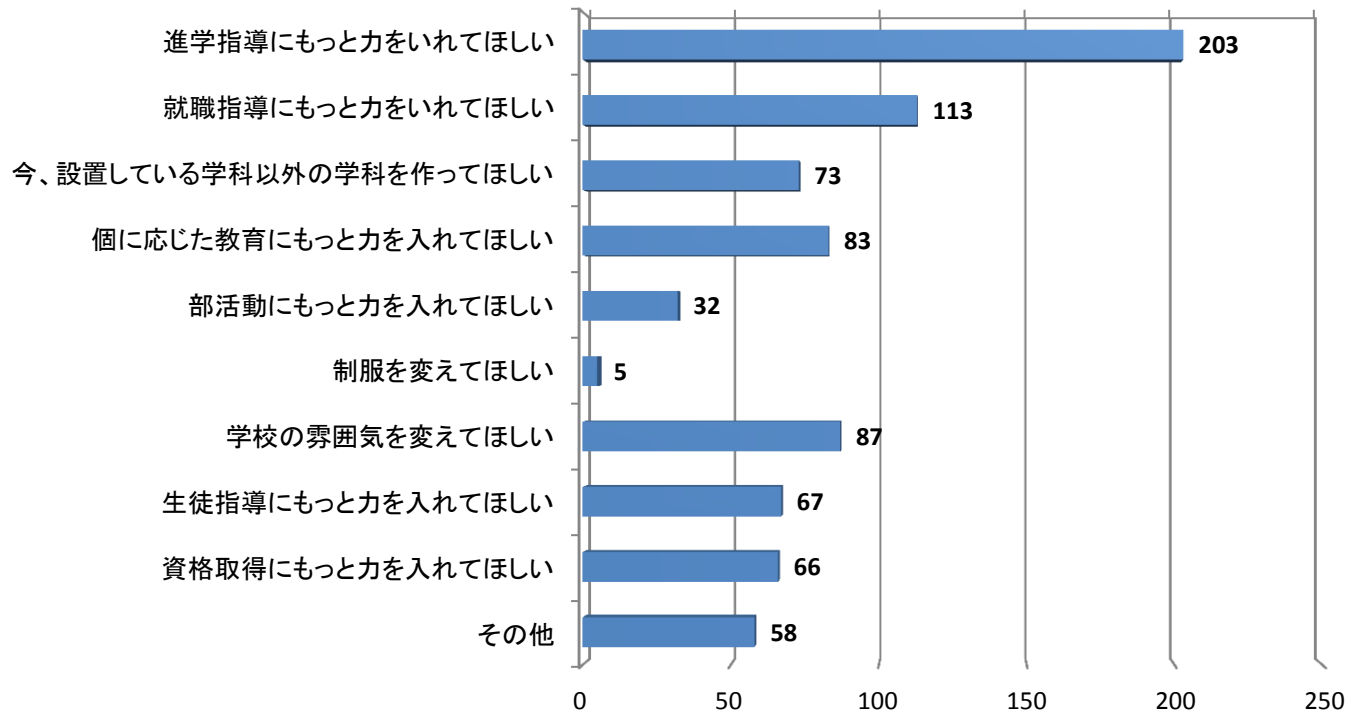
帯広集中型の中、何をしても無理ですね。小学区制になれば行きますよ。

問10 あなたは、江陵高等学校が今よりさらに魅力ある学校となるために何が必要であると思いますか。(2つ以内回答)

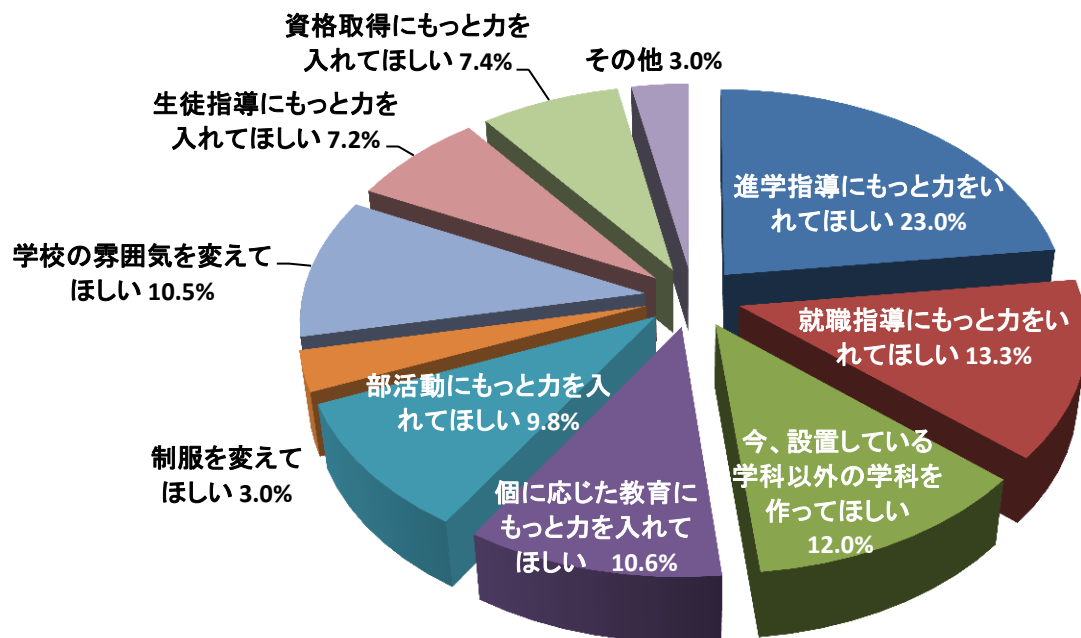
生徒回答(回答数:886)



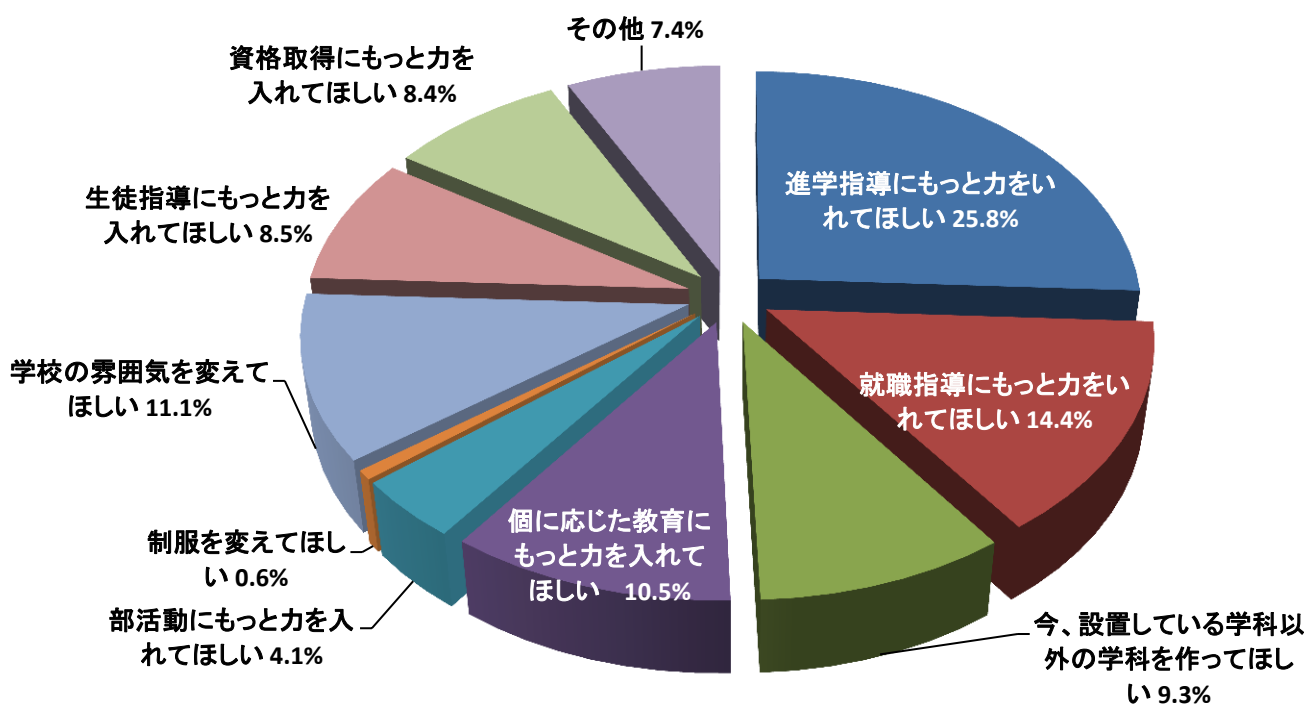
保護者回答(回答数:787)



生徒回答(回答数:886)



保護者回答(回答数:787)



～考察～

生徒・保護者ともに「進学指導にもっと力をいれてほしい」、「就職指導にもっと力をいれてほしい」の進路に対する回答が高く、一方、保護者は「学校の雰囲気を変えてほしい」との回答も高い傾向にあった。

《その他・記載内容》

《詳しく知らない・わからない》（23件）

生徒回答(8件)

よくわからない(3件)

江陵高等学校という高校を初めて聞いて知ったので、なんとも言えません。

保護者回答(15件)

どんな高校なのか、よくわからない(2件)

わからない(2件)

なんとなくイメージが良くないのでわかりません

どのような学校なのか情報不足のためわかりません

江陵高等学校の現状がどうなのか、よくわからない

この高等学校の事はよく解りませんが、魅力のない学校とは思いません。

《通学の利便性の向上》（9件）

生徒回答(2件)

通学に不便。

道路の整備、札内へのスクールバス

保護者回答(7件)

通学の環境が良くない(通学路)

通学、下宿など、通いやすい環境があると選択肢の中に入っていたかもしれない

《学力の向上》（8件）

生徒回答(3件)

学力をもっとあげてほしい。

学力を上げる

柏葉、三条、緑陽と同じくらいの学力。

保護者回答(5件)

よくわからないが、学力のレベルを上げる工夫が必要なのは。外に向けてあまり情報を発信していないように感じます。

全体的なレベルの向上

《費用の軽減・助成(学費が高い)》 (7件)

保護者回答(7件)

町からの支援の充実(2件)

費用負担の軽減

《もっとPRをする》 (5件)

生徒回答(2件)

江陵高等学校がもともとどんな学校かを知らない人が多いと思います。なので、もっとアピールしたら良いと思います。

周りがどんなところかわかりやすくすると思う。

保護者回答(3件)

魅力のPR

もっと十勝の他の地域に力を入れている所を宣伝した方がいい

《特色があると良い》 (3件)

生徒回答(1件)

問9と同じ。その高校に入るとこれができる、卒業後にここに行ける、こんなことができる、といった特別なことが特にないから。

保護者回答(2件)

問9と同様。他校と同じである必要はなく、就職に役立つ資格取得ができるカリキュラム(情報処理や医療事務など)を組み込むと良いのではないかな？

特色のある学科、教育

《私立なので難しい》 (2件)

保護者回答(2件)

私立なので進学先には全く考えていません。

私立は難しい。

《魅力がある》（2件）

生徒回答(1件)

魅力がある

保護者回答(1件)

今でも充分魅力があると思っています。

《学校行事を増やす・盛り上げる》（2件）

生徒回答(1件)

楽しそうな行事を増やす。

保護者回答(1件)

パレードや祭りを更に盛り上げる

《給食にしてほしい》（1件）

保護者回答(1件)

給食にしてほしい

《他》（11件）

生徒回答(4件)

制服!!

評価を上げる。

若い教師ばかりでなくもっと校内全体を見渡すことのできる人材を派遣してほしい。

もっと合格できるランクを上げるといい。

保護者回答(7件)

中学生たちが行きたいと思う学校になるための教員、職員、生徒らの努力。

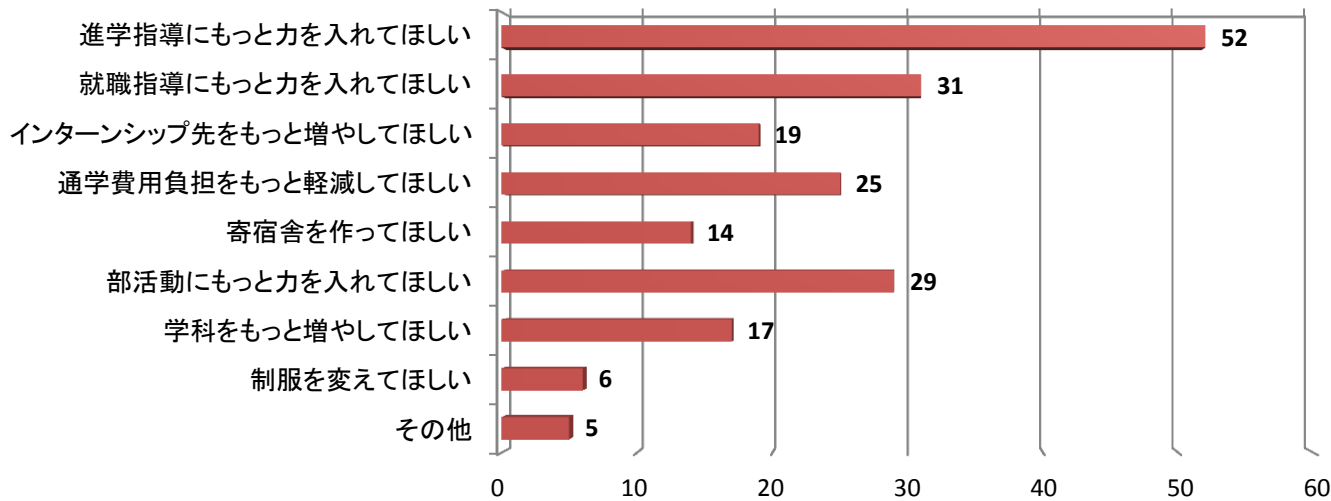
江陵はイメージとして福祉に力を入れているイメージがある。将来、福祉の道に進まないのなら、そこに進学する意味がわからない。

普通科の力を入れてほしい

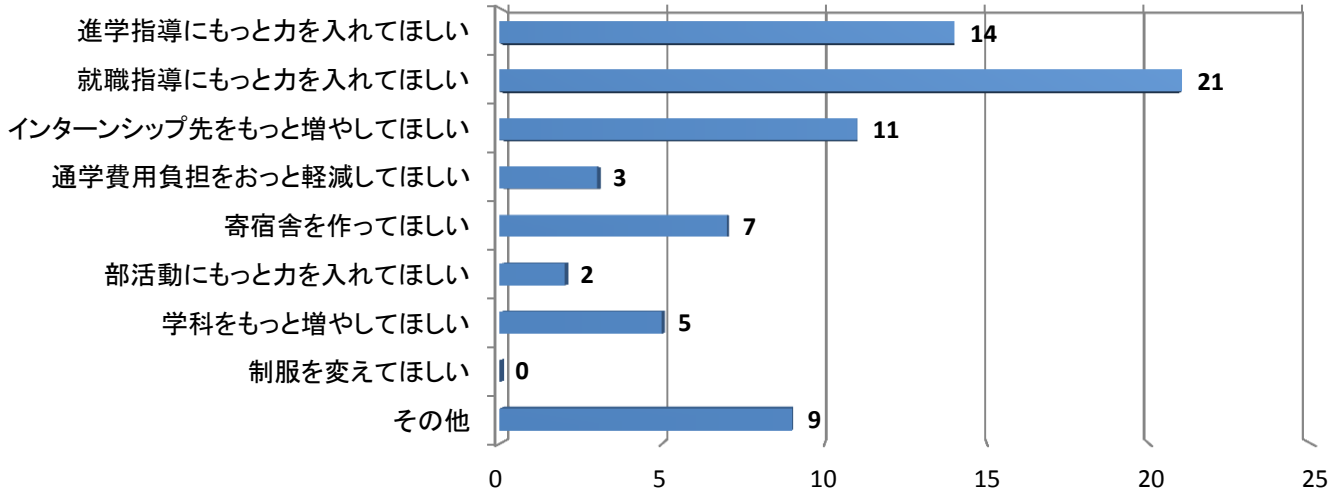
池田西のイメージがまだあるから。

問11 あなたは、中札内養護学校幕別分校が今よりさらに魅力ある学校となるために何が必要であると思いますか。(分校に進学希望の人のみ)(2つ以内回答)

生徒回答(回答数:198)



保護者回答(回答数:72)



《その他・記載内容》

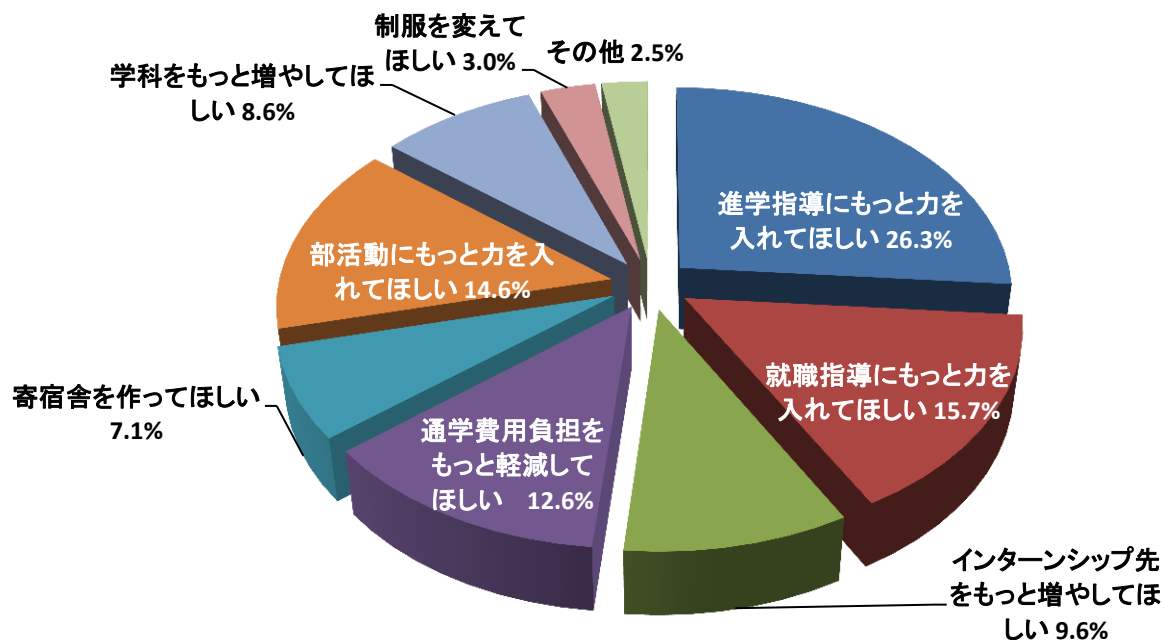
生徒回答(2件)

知名度が必要だと思います。

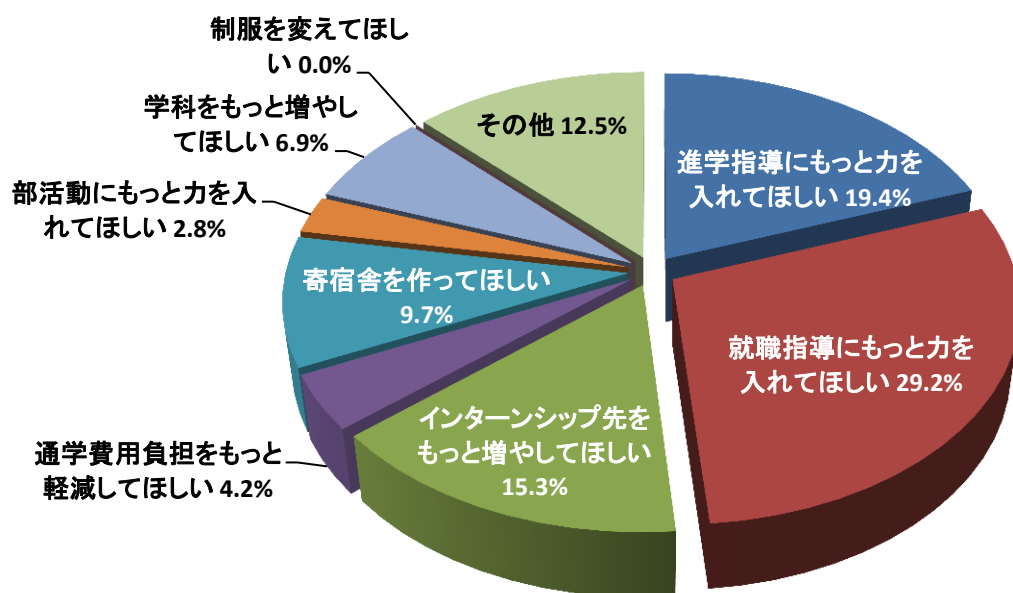
保護者回答

子供が介護職を目標としているので、資格取得に力を入れてほしいと強く思います。	回覧板などに入っている学校だよりみたいなので、色々頑張っているなあと、スポーツでも名前を見るようになってきて、先生と生徒もいい印象をもっていますが、町外にも、新聞などを利用してイメージをどんどん上げるべきでは。
魅力のPR	わからない。学力レベルや生徒など。

生徒回答(回答数:198)



保護者回答(回答数:72)

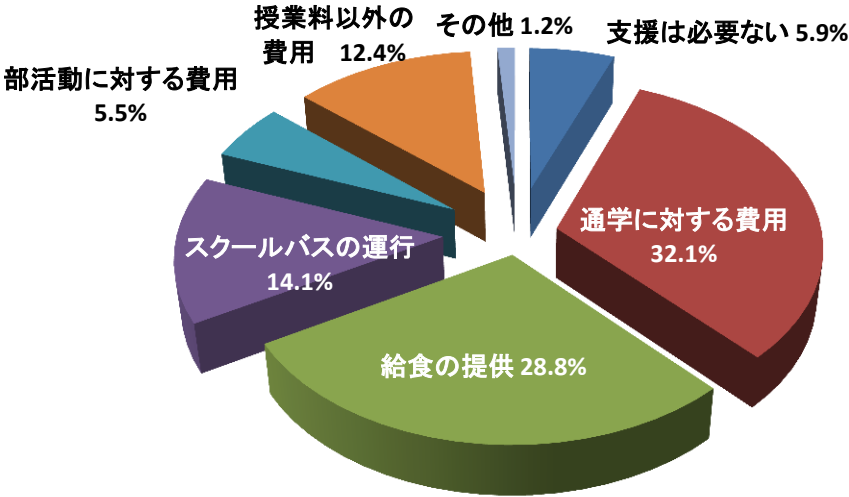
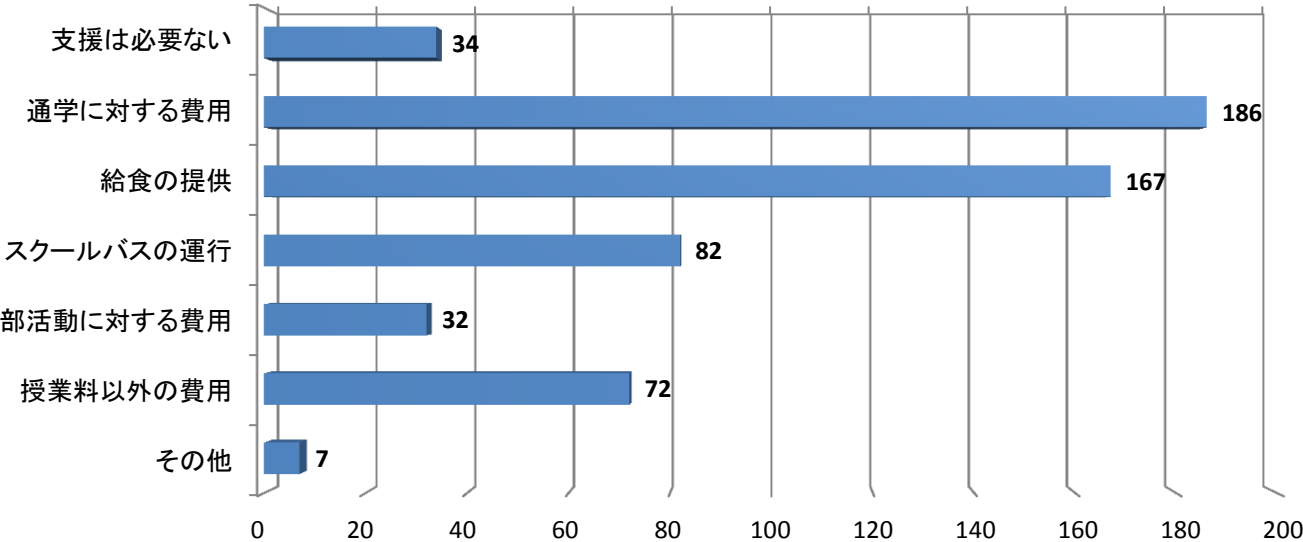


～考察～

生徒・保護者ともに「進学指導にもっと力をいれてほしい」、「就職指導にもっと力をいれてほしい」の進路に対する回答が高い傾向にあった。

問12 高校進学に対して町から何か支援があれば良いと思いますか。 ※保護者のみ

保護者回答(回答数:580)



《その他・記載内容》

遠方(僻地)から進学するので、下宿費用の援助	学食
高校進学する上で必要な費用(塾等を含め)あてられるよう、成績優秀者、進学校通学者には奨学給付金のような物を年収が高くない家庭(年収600万以下)に支援してほしい。	学費
無償化	私立高校へ入学してからの授業料の費用。町からのものをお願いします。

～考察～

「通学に対する費用」、「スクールバスの運行」など通学に対する回答が多く、「給食の提供」についても高い傾向にあった。

問13 幕別高等学校についての意見等(自由記述)

生徒回答

《校風・イメージが合わないなどの記述》 (28件)

学校・生徒の雰囲気を変えてほしい。(15件)	私のクラスでは「幕別高校」というと、あまり良い話は聞きません。姉が幕校生です。幕別高校はとてもしい先生と学校であると姉からよく聞きます。はじめに言った、幕別高校のイメージを変えることが必要だと考えます。そのためにも、地域、PTA、先生方の協力、そして生徒の協力も必要でないのか、ということも思います。生徒を増やすには、高校の良い所などをもっと学校見学等を行い、伝え、イメージを変えることが必要と思います。
中には良い人もいるんだろうけど、印象が悪い人が多い。	
イメチェンした方が良好。メリットを伸ばす。	
実際はどうなのか分かりませんが、校内が荒れているイメージがあります。	

《部活動についての記述》 (11件)

部活動を増やしてほしい	体操部をつくってほしい。
-------------	--------------

《学力レベルの向上・ランクを高くして欲しいなどの記述》 (7件)

学力の向上をしたらいいと思う。	毎年必ず1人以上国公立大学に行く人を輩出させる個人レッスンなどをして。
-----------------	-------------------------------------

《学科についての記述》 (4件)

普通科以外にも学科を作ってほしい	普通科だけでなく、工業科か自動車科を新たに作ってほしいと思います。
------------------	-----------------------------------

《指導が行き届いていない・指導に力を入れてほしいなどの記述》 (3件)

生徒指導が行き届いていないのか、授業をサボったりし、授業時間内に街中でいる姿を見る。	
--	--

《その他の記述》 （21件）

部活や勉強を増やして欲しい	幕別高等学校に進学したら、これがすごいというインパクトが少ないと思います。
制服をかわいい制服にしてほしい。休み時間を30分にしてほしい。	幕別高校だからできる!!と言うようなことをあまり聞かないし、入ったら何か特別なことをできるわけでもないから、そんなことを増やしてみしてほしい。
もっと合格できるラインを上げれば、人数も増えると思う。	面白い先輩が多いので、もっと楽しくなるようにしてほしい。

《校風・イメージが合わないなどの記述》 （23件）

幕校OGの知人は「以前は良い学校だったが、今は…」となげいていました。	あまり良い話を聞かずイメージが悪いようです。実際はどうかはわからないので、うわさであれば良いのですが幕別に住んでいる者としては、良い学校だと言われるようになってほしいと思います。
幕別町内の生徒さんではないかもしれませんが、通学マナーの悪さが目立ちます。郊外での様子も見られていることを知ってほしいです。子供たちの印象も変えられたらと思います。	噂ばかりで、悪いと思われている所がある。一人一人の生徒は良い子であるので、もう少しオープンに学校や生徒の事をまわりの人に分かってもらう様にしたらいいのでは。
あまりいいイメージはないですね。昔は違っただけですが。	中には良い生徒さんもたくさんいるのですが、一部の生徒のせいで印象があまり良いとはいえない。地元の高校なのに残念。親の責任もあると思う。高校の先生方だけの問題ではない。

《学科についての記述》 （6件）

30年前みたいに自動車科があればいい。	調理科・観光科など幕別高でしかない科を設けてほしい。
---------------------	----------------------------

《学力レベルの向上、進学・就職の指導や対策の記述》 （5件）

少人数をいかして、個別にスキル力をつける教育をして下さい。	就職に必要な資格などチャレンジしてほしい(学校全体で)
-------------------------------	-----------------------------

《生徒指導に力をいれてほしいなどの記述》 （4件）

もう少し生徒指導に力を入れた方が良くないかと思えます。	本町でよく幕別高校の女子生徒をみかけます(下校時)。きれいにお化粧されていて、いつもびっくりさせられます。時代とはいえ、どのような指導をされてるのか不思議です。このような理由から、通学は便利でも進学させるのは考えられません。
-----------------------------	--

《部活動についての記述》 （3件）

もっと部活動に力を入れてほしいです。行って欲しくても、部活を続けられないなら他に…となります。まいます。	部活動が充実していないのが残念。
--	------------------

《その他の記述》 (56件)

雰囲気の良い生徒の育成	「幕別高校のウリはコレだ!!」というのが見えにくいと、子も親も魅力を感じにくいように思う。
これからの見通しのある進路へ進められるようになってほしいですね	1クラスしかないのはさみしい。
広く、浅くの学風より狭くても深く学べるものがないのではないかなとも思います。	何に力を入れているか、明確にできたらよい。帯広近郊の利便地なのにもったいないです。
幕別高校にはこれといって力を入れている所がないと話に聞きます。給食が出る、通学費免除や就職が有利など…。	レベルの高い学校だと思われる学校だといえます。
昔は結構人気があったと思います。他の高校は就職に有利な資格などがとれるので、頑張っ欲しいです。	誰でも入学できて、入学してから、個に応じて学力向上する授業にしてくれたら、希望者増えると思う。
やっぱり見学に行って、たった1回の見学で、親にも子にもここはいやだなと思わせるような学校ではダメかなと思います。	外から見ている生徒の感じが良く見えない。情報としてあまり良く聞こえない。
幕別町に住みながら、情報が少ないです。あまり地域の方に知られていないと思います。部活等もあまり耳にしません。	特化したものがなく、印象が薄い。もっと子供達に魅力的な特色があると良い。
一から学校を作り直す方がいい。本気で学校を変える姿勢が見えない。	先生はもっと生徒の事を考えてほしい。生徒は高校生らしくきちんとした態度でいてほしい。
生徒は見た感じはチャライ印象ですが、話すと意外といい子がいるように思います。	私達世代やそれまでは、とても意欲的な面も多々有ったと聞いています。もっと、進学、就職どちらの方も地元根付いた将来性を感じさせる高校になってもらいたい。

問14 江陵高等学校についての意見等(自由記述)

生徒回答

《通学についての記述》 (9件)

スクールバスとか出してほしい。坂道上のつらいと思う。	通学等の道がかなり不便だと思います。
学校が近いようで遠い。通学が大変。	山の上だから行くのにつかれそう。

《部活動についての記述》 (6件)

部活動を増やしてほしい	野球部のように他の部も力を入れてほしい
今よりも部活動にもっと力を入れてほしい。困っている生徒に分かりやすく教えられる先生。	

《学科についての記述》 (6件)

普通科、福祉科以外にも学科を作してほしい	総合学科等を追加したら良いと思う。
----------------------	-------------------

《学力レベルの向上・ランクを高くして欲しいなどの記述》 (2件)

学力面のレベルをもっと上げてほしい。	
--------------------	--

《その他の記述》 (25件)

福祉科の設置による部活との両立が大変そう	資格がたくさん取れるし、部活にも力を入れているので、良いと思います。
ボランティア活動などをしている部分が、とてもいいと思う。	最近制度が良くなってきて進学率が多くなってる。
下宿や通学手段がわからなくて、少し興味をもったぐらいでやめてしまった。なので、もう少しわかりやすくするといいと思います。	私立で資格がとれる。
行事がとても良い体験になりそうなものばかりで、とても良いと思う。	制服を変えてほしい。
この高校だからできる!!と言うようなことをあまり聞かないし、入ったら何か特別なことをできるわけでもないから、そんなことを増やしてほしい。	貴校に対して、中学校生徒がどのような印象をもっているのかを考えてみてほしいです。
就職(大工など)の指導やそのための資格取得に力を入れてほしい。	体験に行きましたが、学校の雰囲気、生徒の雰囲気がとても悪かったです。

《福祉科があって良い・部活動に力を入れていて良い等の記述》 （19件）

福祉科ができてからは、学校の雰囲気良くなったと思います。	回覧板で活躍の様子を見ます。部活でも活躍して就職にも有利な資格も取れて魅力的です。
地域の評判は良いと思います。	江陵高校の先生方はとても良い先生と聞き安心しています。
町内の回覧などで学校の様子がわかり、学校祭や部活など生徒達がとても生き生きしていると感ずます。	上の娘(長女)が行っていますが、生徒は皆礼儀正しくてとても良いと思います。
部活動、生活態度など以前に比べてかなり力を入れてよくなっていると思う。福祉系に力を入れているのも良いと思う。(現代のニーズに合っている)	福祉科があるのはとてもいいと思います。このコースがあるから江陵に行くという特色があって通ってくる子もいると思うので。
江陵高校は私立だけど、良いと思います。特に福祉科はとても良いと思います。普通科も、もう少しレベルを上げたらと思いますが、校舎をもう少しきれいにして人数を増やし、特進レベルの別科コースをつくれれば、もっと良くなり生徒も増えると思います。	普通科、福祉科、共に充実していると思います。部活動もバレーボール、バドミントンetc頑張っていますね。なんといっても指導して下さる先生方の柔軟な考え方は素晴らしいと思います。(特に校長、教頭先生は頼りになります)何年か前になりますが、今もたぶん良い高校だと思っています。
私立ではあるが、地元根ざしていると思う。好印象、部活や就職、指定校推薦などの話も良いことを聞く。	中卒者の減少が続く厳しい状況の中で、定員を充足させている努力を評価します。介護福祉科の設置や部活動の活性化、そして生活・進路に対する熱心な指導の成果だと認識しています。

《高校について良く知らない、分からないなどの記述》 （7件）

近年の進学や就職の動向等わかりませんのでよく調べていないのでわからない。家から近いということだけなので、今後、目標とした時、学校へ見学したい。	具体的に3校ともどんな学校なのか全然知らない。都度アピールしていく必要があると思う。現在の就職率、進学率が具体的に把握できないので、今望むことを聞かれても分からないのが現状です。
---	---

《生徒のマナーやイメージ等の記述》 （7件）

上記に加え、一般的な生活態度、マナーに不安を感じてしまう事が多々あります。(札内コンビニ等でおみかけします)このような理由から、通学は便利でも進学させるのは考えられません	登下校、自転車が舗道に横並びになり少し危ない。
---	-------------------------

《通学についての記述》 （4件）

昔に比べだいぶ評判が良いと思う。学校への坂道が可哀想なので、下からバスなどあれば良いと思う。自転車のマナーが悪い。	通学路のまわりが気でうっそうとして暗いので、見晴よく明るくしてほしい。
---	-------------------------------------

《学科についての記述》 （4件）

もっとスポーツに特化した学部を作って欲しいです。特殊な学科を作るなど

《学力レベルの向上、進学・就職の指導や対策の記述》 （4件）

学力を上げたほうがいいと思う。

部活動で活躍されている生徒も多いので、就職に行かせる「情報処理資格取得」や「医療事務資格」など、就職時に有利な資格をとれると”就職に強い学校”を目指せると思います。

《その他の記述》 （36件）

ランクを気にしてる人が多いようです。

野球部のゴミ拾いにはとても頭が下がる思いです。小さい事から学校の取り組みが大きく広がって行くよう、地域の人をもっと目を向けていくべきではないかな？と思っています。

部活動の活躍やボランティア活動など、江陵高校の良さはもっともっと発信してより良い学校になってほしいと思います。

今は特徴を出すため色々頑張っていると思う。きちんと授業が成立しないこともあるとの噂もあるが…。

部活での活躍等活発な様子が伺えます。もう少し進学(大学)の実績が伸びれば進路先として考えたと思います。

生徒の意識(代表しているという自覚やたくさんの方に見られているという)

学費安くして下さい。

新しい校舎と通学のしやすさを検討してほしい。

江陵祭と札内の夏祭りの合同開催はとても良いと思うので、今後とも続けて欲しい。

福祉職の地位向上のため、福祉科の学生は福祉職になりたくなるよう教育してください。

スポーツに力を入れているように思う。

部活、学業の点が充実していれば進学させる事も考えたかもしれません

部活動、学力の向上面で頑張っていると聞きました。今後に期待したいと思います。ただ、あまりお金がかかる事は大変です。

生活指導を厳しくしてほしい。

福祉科は管内にないので、人気があると思いますが、頻繁に教員が変わっているのが気になります。(福祉科)

一般入試で入学できる人数枠を増やしてほしい。

問15 中札内高等養護学校幕別分校についての意見等(自由記述)

生徒回答

《高校について良く知らない、分からないなどの記述》 (13件)

この学校があることを知りませんでした。	このアンケートで初めて中札内高等養護学校のことを知った。もう少し知名度を上げた方がいいです。
---------------------	--

《部活動についての記述》 (2件)

部活動にもっと力を入れてほしい	
-----------------	--

《その他の記述》 (11件)

親身な指導で少しでも社会で活躍できる人間を育成してほしい。	パンフレットなどを配るといいと思います。
障害者専門の学校はいいと思います。これからも続けていってください。	就職するためのことを高校でもっと知って社会に出れるような教育。

保護者回答

《高校について良く知らない、分からないなどの記述》 (11件)

今回初めて知りました。	学校について詳しい情報を知らないなので、どのような指導・活動をしているのか情報を身近に公表してほしい。
正直、「幕別分校」のことについて、知りませんでした。	どのくらいの障害の程度の学生が行くところかわかりません。

《その他の記述》 (18件)

幕別に分校ができたことはとても良いことだと思います。	将来、地域を担っていける若者の育成を切望します。
他町村からの通いやすさ。スクールバスを出すなどの充実。	近くの学校へ通学出来るのが理想だと思うので、幕別にある事は良いと思います。
実習で一緒に仕事をしていますが素直でとても良い子です。先生方も子供達のために親身になり、色々助けてくれていると思います。	社会のニーズに合っていると思います。卒業後、社会人として働ける道筋をつけて、よりニーズに答えて下さい。
様々な体験をすることで、今後の社会生活に繋がると思います。	将来の為に身になる事をしていると思います。
今後一層の充実を期待します。寄宿舍(寮)の必要性を感じます。	地元で根ざした活動を行い、地域全体がそのような子たちを育てていけたらと思う。

公立高等学校配置計画

(平成28年度～30年度)

平成 2 7 年 9 月

北海道教育委員会

目 次

I 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）策定の考え方

1 趣旨	1
2 中卒者数の見込み	1
3 基本的考え方	1
4 配置計画（平成28年度～30年度）の概要	2
5 配置計画の変更	3

II 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）の内容

1 中 学 校 卒 業 者 数	4
2 欠 員 の 状 況	4
3 定員及び中学校卒業者数に対する割合	4
4 配置計画（平成28年度～30年度）の学校別内訳	5
5 中学校卒業者の推計及び推移	9

III 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）学区別個表

空知南学区	11
空知北学区	12
石 狩 学 区	13
後 志 学 区	15
胆振西学区	16
胆振東学区	17
日 高 学 区	18
渡 島 学 区	19
檜 山 学 区	20
上川南学区	21
上川北学区	22
留 萌 学 区	23
宗 谷 学 区	24
オホーツク中学区	25
オホーツク東学区	26
オホーツク西学区	27
十 勝 学 区	28
釧 路 学 区	29
根 室 学 区	30

I 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成28年度から平成30年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成31年度から平成34年度までの見通しを示したものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成28年に4万5,424人、平成29年に4万5,676人、平成30年に4万4,833人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、「新たな高校教育に関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、次のとおり新しい高校づくり等を推進する。

(1) 地域キャンパス校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域キャンパス校とし、センター校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編にあわせて進める。

(3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) フィールド制の導入

普通科の特色づくりとして、まとまりのある分野の科目群をフィールドとして設定し、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習することが可能となるフィールド制の導入を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 産業キャンパスの活用

職業学科を含めた再編にあわせ、産業教育施設や実習地などを有効に活用するため、産業キャンパス化について検討する。

4 配置計画（平成28年度～30年度）の概要

昨年決定した平成28年度及び平成29年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成30年度の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 平成28年度～29年度(平成26年度決定)高校配置計画の変更

ア 全日制課程

(ア) 学級増

平成27年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、学級減を行った砂川高校ほか4校について、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、平成28年度にそれぞれ1学級の増を行う。

(イ) 移管

奥尻町からの要望などを考慮し、平成28年度に奥尻高校を道から奥尻町に移管する。

(ウ) 地域キャンパス校の導入

今後の中卒者数の状況などを考慮し、平成28年度から新たに長万部高校を地域キャンパス校とする。

イ 定時制課程

再編整備等

平成29年度に1学級減する函館工業高校の学科については、機械科と電気科を電子機械科に再編する。

(3) 平成30年度高校配置計画

ア 全日制課程

(ア) 学級減

各学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、滝川西高校ほか8校で10学級の減を行う。

(イ) 再編整備

市内に複数校が設置され、中卒者数の減少により望ましい学校規模の維持が困難と見込まれる小樽市内及び留萌市内において、生徒の学習環境の充実を図る観点から再編整備を行う。

(ウ) 単位制の導入

生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、留萌高校及び留萌千望高校を再編した新設校の普通科に単位制を導入する。

5 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

Ⅱ 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）の内容

1 中学校卒業生数

平成27年（実績）	45,958人	（対前年比 1,662人減少）
平成28年（推計）	45,424人	（対前年比 534人減少）
平成29年（推計）	45,676人	（対前年比 252人増加）
平成30年（推計）	44,833人	（対前年比 843人減少）

2 欠員の状況 （平成27年5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合 計
2,823人（532人）	1,242人（73人）	1,801人（183人）	5,866人（788人）

※（ ）は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計
		全日制	定時制	中等教育学校			
平成27年度	定 員（人）	34,820	2,440	240	760	11,875	50,135
	割 合（％）	75.8	5.3	0.5	1.7	25.8	109.1
公立高等学校配置計画	平成28年度	学 級 増（人）	200	0	0	0	200
		学 級 減（人）	-240	-80	0	-75	-435
		新 設（人）	280	0	0	0	280
		募集停止（人）	-360	0	0	0	-360
		差引増減（人）	-120	-80	0	-75	-315
		定 員（人）	34,700	2,360	240	11,800	49,820
		割 合（％）	76.4	5.2	0.5	26.0	109.7
	平成29年度	学 級 増（人）	200	0	0	0	200
		学 級 減（人）	-80	-40	0	0	-120
		新 設（人）	240	0	0	0	240
		募集停止（人）	-400	0	0	0	-400
		差引増減（人）	-40	-40	0	0	-80
		定 員（人）	34,660	2,320	240	11,800	49,740
		割 合（％）	75.9	5.1	0.5	25.8	108.9
	平成30年度	学 級 増（人）	0	0	0	0	0
		学 級 減（人）	-400	0	0	0	-400
		新 設（人）	400	0	0	0	400
		募集停止（人）	-440	0	0	0	-440
		差引増減（人）	-440	0	0	0	-440
		定 員（人）	34,220	2,320	240	11,800	49,300
		割 合（％）	76.3	5.2	0.5	26.3	110.0

* 1 高等専門学校及び私立の定員については、平成28年度以降は見込みを記載。

* 2 浜中町立霧多布高校は、1学級の定員を30人としている。

4 配置計画（平成28年度～30年度）の学校別内訳

◎ 平成27年度入学者選抜における第2次募集後の学級減／全日制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 7	空 知 南	道	夕 張	全	普 通	2	1	－ 1	2 学級→1 学級
	空 知 北	道	砂 川	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
	石 狩	道	千 歳 北 陽	全	普 通	7	6	－ 1	7 学級→6 学級
	渡 島	道	森	全	総 合	3	2	－ 1	3 学級→2 学級
	宗 谷	道	稚 内	全	普 通	4	3	－ 1	6 学級→5 学級
	十 勝	道	幕 別	全	普 通	2	1	－ 1	2 学級→1 学級
		道	広 尾	全	普 通	2	1	－ 1	2 学級→1 学級
	釧 路	道	標 茶	全	総 合	3	2	－ 1	3 学級→2 学級
	根 室	道	根 室 西	全	普 通	2	1	－ 1	2 学級→1 学級
計			9 校					－ 9 (－ 3 6 0)	

◎ 平成28～30年度高校配置計画／全日制課程

(1) 学級増減

① 学級増(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 8	空 知 北	道	※砂 川	全	普 通	3	4	＋ 1	3 学級→4 学級
	渡 島	道	※ 森	全	総 合	2	3	＋ 1	2 学級→3 学級
	十 勝	道	※広 尾	全	普 通	1	2	＋ 1	1 学級→2 学級
	釧 路	道	※標 茶	全	総 合	2	3	＋ 1	2 学級→3 学級
	根 室	道	※根 室 西	全	普 通	1	2	＋ 1	1 学級→2 学級
	(小計)		5 校					＋ 5	
H 2 9	石 狩	道	札 幌 西 陵	全	普 通	7	8	＋ 1	7 学級→8 学級
		道	札 幌 白 石	全	普 通	7	8	＋ 1	7 学級→8 学級
		道	札 幌 厚 別	全	総 合	7	8	＋ 1	7 学級→8 学級
		道	北 広 島 西	全	普 通	7	8	＋ 1	7 学級→8 学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	6	7	＋ 1	6 学級→7 学級
	(小計)		5 校					＋ 5	
H 3 0	－								
計			1 0 校					＋ 1 0 (＋ 4 0 0)	

② 学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 8	石 狩	道	札 幌 白 石	全	普 通	8	7	－ 1	8 学級→7 学級
		道	北 広 島 西	全	普 通	8	7	－ 1	8 学級→7 学級
	後 志	道	小 樽 商 業	全	情報処理	2	1	－ 1	3 学級→2 学級
	胆 振 東	道	白 老 東	全	普 通	3	2	－ 1	3 学級→2 学級
	渡 島	道	函 館 商 業	全	流通ビジネス	2	1	－ 1	5 学級→4 学級
	オホーツク中	道	北 見 工 業	全	電 気	2	1	－ 1	4 学級→3 学級
	(小計)		6 校					－ 6	
H 2 9	渡 島	道	函 館 西	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
		道	上 磯	全	普 通	2	1	－ 1	2 学級→1 学級
	(小計)		2 校					－ 2	

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 3 0	空 知 北	市	滝 川 西	全	(検討中)	(検討中)		－ 1	7 学級→6 学級
	石 狩	道	札 幌 南 陵	全	普 通	6	5	－ 1	6 学級→5 学級
		道	札 幌 厚 別	全	総 合	8	7	－ 1	8 学級→7 学級
		道	石 狩 南	全	普 通	8	7	－ 1	8 学級→7 学級
	渡 島	市	市 立 函 館	全	普 通	8	6	－ 2	8 学級→6 学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	7	6	－ 1	7 学級→6 学級
		道	旭 川 工 業	全	自 動 車	1	0	－ 1	7 学級→6 学級
	十 勝	道	常 広 三 条	全	普 通	7	6	－ 1	7 学級→6 学級
	釧 路	道	釧 路 江 南	全	普 通	6	5	－ 1	6 学級→5 学級
(小計)		9 校						－ 1 0	
計		1 7 校						－ 1 8 (－ 7 2 0)	

(2) 再編整備

① 再編統合等

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H 2 8	上 川 南	道	旭 川 凌 雲	全	普 通	4	0	－ 4	4 学級→0 学級
		道	旭 川 東 栄	全	普 通	4	0	－ 4	4 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	7	＋ 7	7 学級 旭川凌雲校舎を使用
	(小計)		再編等に伴う募停校 2 校、新設校 1 校					－ 1 (8 学級の減、新設校で 7 学級の増)	
H 2 9	根 室	道	根 室	全	普 通	3	0	－ 3	5 学級→0 学級
					商 業	1	0	－ 1	
					事務情報	1	0	－ 1	
		道	根 室 西	全	普 通	2	0	－ 2	2 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	4	＋ 4	6 学級 根室校舎を使用
					商 業	0	1	＋ 1	
					事務情報	0	1	＋ 1	
	(小計)		再編等に伴う募停校 2 校、新設校 1 校					－ 1 (7 学級の減、新設校で 6 学級の増)	
H 3 0	後 志	道	小 樽 商 業	全	商 業	1	0	－ 1	2 学級→0 学級
					情報処理	1	0	－ 1	
		道	小 樽 工 業	全	電子機械	1	0	－ 1	3 学級→0 学級
					電 気	1	0	－ 1	
					建 設	1	0	－ 1	
		道	新 設 校	全	(検討中)	0	4	＋ 4	4 学級 小樽工業校舎を使用
	留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	0	－ 4	4 学級→0 学級
		道	留 萌 千 望	全	電気・建築	1	0	－ 1	2 学級→0 学級
					情報ビジネス	1	0	－ 1	
		道	新 設 校	全	普 通	0	4	＋ 4	6 学級 留萌千望校舎を使用
					電気・建築	0	1	＋ 1	
					情報ビジネス	0	1	＋ 1	
	(小計)		再編等に伴う募停校 4 校、新設校 2 校					－ 1 (11 学級の減、新設校で 10 学級の増)	
計		再編等に伴う募停校 8 校、新設校 4 校					－ 3 (－ 1 2 0)		

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 8	オホーツク東	道	小 清 水	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
	(小計)		1 校					－ 1	
H 2 9	後 志	道	共 和	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
	オホーツク西	道	滝 上	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
	十 勝	道	新 得	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
	(小計)		3 校					－ 3	
H 3 0	－								
計			4 校					－ 4 (－ 1 6 0)	

(3) 移管(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	備 考
						実施前	実施後		
H 2 8	檜 山	道	※奥 尻	全	普 通	1	0	－ 1	道から奥尻町に移管
		町	※新 設 校	全	普 通	0	1	＋ 1	
	(小計)		1 校					± 0	
H 2 9	－								
H 3 0	－								
計			1 校					± 0	

(4) 地域キャンパス校の導入(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	センター校	備 考
H 2 8	渡 島	道	※長 万 部	全	普 通	1	八 雲	
	(小計)		1 校				1 校	
H 2 9	－							
H 3 0	－							
計			1 校				1 校	

(5) 単位制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	備 考
H 2 8	上 川 南	道	新 設 校	全	普 通	7	旭川凌雲・旭川東栄の再編
	(小計)		1 校				
H 2 9	後 志	道	岩 内	全	普 通	3	根室・根室西の再編
	根 室	道	新 設 校	全	普 通	4	
					商 業	1	
					事務情報	1	
	(小計)		2 校				
H 3 0	留 萌	道	新 設 校	全	普 通	4	留萌・留萌千望の再編
	(小計)		1 校				
計			4 校				

◎ 平成28～30年度高校配置計画／定時制課程(学科名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 8	渡 島	道	函 館 工 業	定	建 築	1	0	－ 1	3 学級→2 学級
	釧 路	道	釧 路 工 業	定	電 気	1	0	－ 1	2 学級→1 学級
	(小計)		2 校					－ 2	
H 2 9	渡 島	道	函 館 工 業	定	※機 械	1	0	－ 1	2 学級→1 学級
					※電 気	1	0	－ 1	
					※電子機械	0	1	＋ 1	
	(小計)		1 校					－ 1	
H 3 0	－								
計			3 校					－ 3 (－ 1 2 0)	

5 中学校卒業者の推計及び推移

中 学 校 卒 業 者 推 計 表 (27 年 推 計)

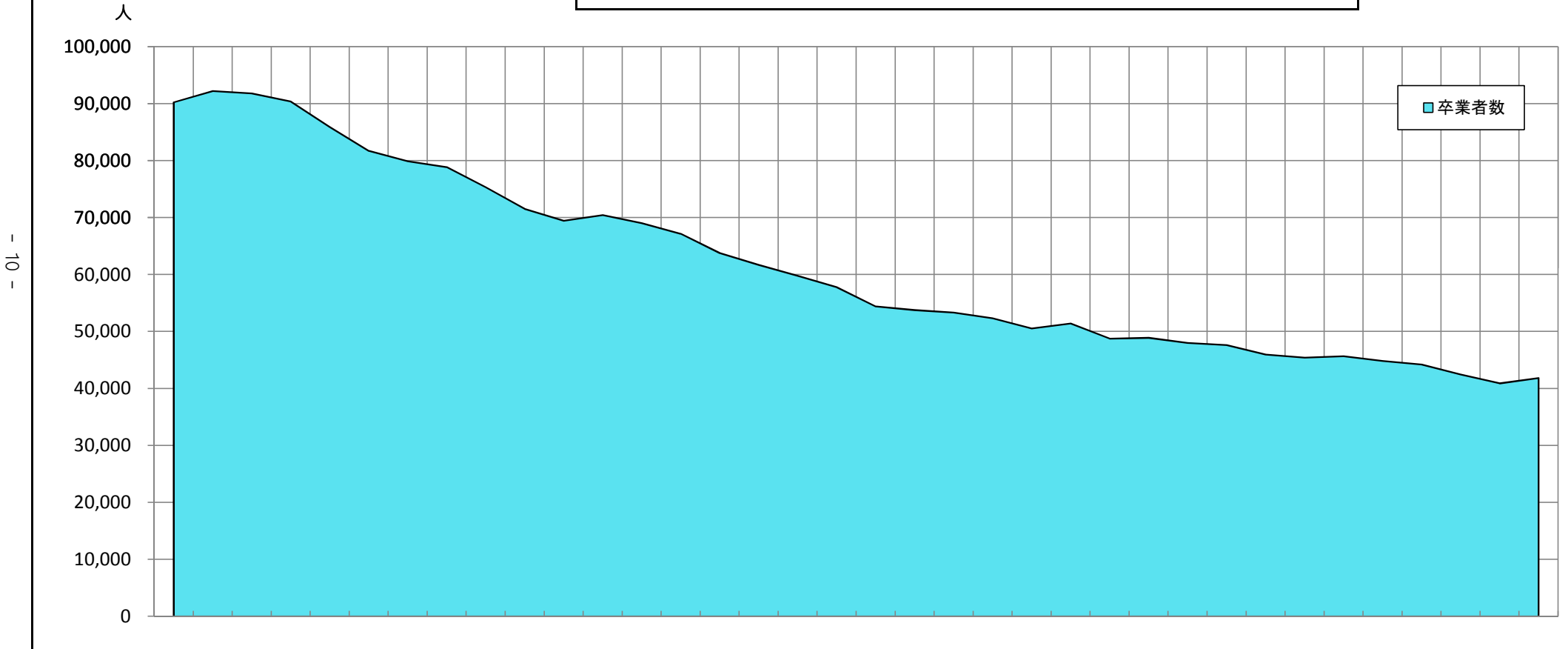
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年
空 知 南	1,382	1,302 ▲ 80	1,270 ▲ 32	1,274 +4	1,189 ▲ 85	1,119 ▲ 70	1,097 ▲ 22	1,080 ▲ 17
空 知 北	1,187	1,149 ▲ 38	1,131 ▲ 18	1,036 ▲ 95	995 ▲ 41	958 ▲ 37	860 ▲ 98	912 +52
石 狩	19,943	19,822 ▲ 121	20,152 +330	19,931 ▲ 221	19,822 ▲ 109	19,048 ▲ 774	18,617 ▲ 431	19,260 +643
後 志	1,711	1,685 ▲ 26	1,730 +45	1,671 ▲ 59	1,596 ▲ 75	1,461 ▲ 135	1,412 ▲ 49	1,434 +22
胆 振 西	1,615	1,540 ▲ 75	1,584 +44	1,581 ▲ 3	1,538 ▲ 43	1,473 ▲ 65	1,382 ▲ 91	1,393 +11
胆 振 東	1,890	1,814 ▲ 76	1,848 +34	1,897 +49	1,752 ▲ 145	1,795 +43	1,714 ▲ 81	1,754 +40
日 高	588	639 +51	606 ▲ 33	585 ▲ 21	552 ▲ 33	528 ▲ 24	510 ▲ 18	547 +37
渡 島	3,586	3,442 ▲ 144	3,306 ▲ 136	3,246 ▲ 60	3,260 +14	3,127 ▲ 133	2,949 ▲ 178	2,977 +28
檜 山	308	325 +17	311 ▲ 14	297 ▲ 14	300 +3	250 ▲ 50	250 ±0	224 ▲ 26
上 川 南	3,888	3,811 ▲ 77	3,897 +86	3,647 ▲ 250	3,781 +134	3,583 ▲ 198	3,442 ▲ 141	3,558 +116
上 川 北	526	499 ▲ 27	557 +58	552 ▲ 5	498 ▲ 54	470 ▲ 28	464 ▲ 6	473 +9
留 萌	365	346 ▲ 19	348 +2	333 ▲ 15	359 +26	337 ▲ 22	300 ▲ 37	287 ▲ 13
宗 谷	544	552 +8	558 +6	590 +32	514 ▲ 76	529 +15	504 ▲ 25	512 +8
オホーツク中	1,418	1,382 ▲ 36	1,336 ▲ 46	1,371 +35	1,248 ▲ 123	1,241 ▲ 7	1,138 ▲ 103	1,165 +27
オホーツク東	564	597 +33	556 ▲ 41	555 ▲ 1	533 ▲ 22	516 ▲ 17	497 ▲ 19	483 ▲ 14
オホーツク西	520	558 +38	527 ▲ 31	499 ▲ 28	520 +21	471 ▲ 49	464 ▲ 7	417 ▲ 47
十 勝	3,220	3,186 ▲ 34	3,100 ▲ 86	3,061 ▲ 39	3,059 ▲ 2	2,964 ▲ 95	2,861 ▲ 103	2,849 ▲ 12
釧 路	1,996	2,025 +29	2,056 +31	1,994 ▲ 62	1,965 ▲ 29	1,877 ▲ 88	1,797 ▲ 80	1,841 +44
根 室	707	750 +43	803 +53	713 ▲ 90	735 +22	741 +6	655 ▲ 86	676 +21
合 計	45,958	45,424 ▲ 534	45,676 +252	44,833 ▲ 843	44,216 ▲ 617	42,488 ▲ 1,728	40,913 ▲ 1,575	41,842 +929

※中学校卒業者数は、平成27年5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を
基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※平成27年は実数、平成28年以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移
（昭和62年～平成34年）

（注） 1 昭和62年3月～平成27年3月は実卒業者数である。
2 平成28年3月～平成34年3月は学校基本調査（平成27年5月1日現在）に
準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
卒業者数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907	48,015	47,620	45,958	45,424	45,676	44,833	44,216	42,488	40,913	41,842
増 減	1,298	1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	1,021	-1,415	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	900	-2,659	129	-892	-395	-1,662	-534	252	-843	-617	-1,728	-1,575	929

Ⅲ 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）学区別個表

空知南学区高校配置計画											
区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減	
学区内中卒者数	1,382	1,302	1,270	1,274	1,189	1,119	1,097	1,080	▲ 302	▲ 194	
対前年増減		▲ 80	▲ 32	+ 4	▲ 85	▲ 70	▲ 22	▲ 17			
岩見沢市中卒者数	(727)	(695)	(699)	(706)	(671)	(627)	(605)	(614)	▲ 113	▲ 92	
対前年増減		▲ 32	+ 4	+ 7	▲ 35	▲ 44	▲ 22	+ 9			
美唄市中卒者数	(184)	(181)	(172)	(171)	(158)	(124)	(136)	(126)	▲ 58	▲ 45	
対前年増減		▲ 3	▲ 9	▲ 1	▲ 13	▲ 34	+ 12	▲ 10			
三笠市中卒者数	(47)	(50)	(57)	(45)	(58)	(50)	(60)	(57)	+ 10	+ 12	
対前年増減		+ 3	+ 7	▲ 12	+ 13	▲ 8	+ 10	▲ 3			
夕張市中卒者数	(65)	(39)	(38)	(42)	(33)	(33)	(31)	(35)	▲ 30	▲ 7	
対前年増減		▲ 26	▲ 1	+ 4	▲ 9	± 0	▲ 2	+ 4			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要		
	普通	職業	計								
岩見沢東	5		5	-1				○4年間で4～5学級相当の調整が必要			
単 岩見沢西	4		4	14				○欠員の状況、これまでの調整や地元からの進学状況を考慮し、岩見沢市及び周辺市町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要			
岩見沢農業		農 7	7	19				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要			
*岩見沢緑陵	4	商 2	6	0				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要			
総 美唄尚栄	3		3	27							
美唄聖華		看 2	2	1							
*三 笠		家 1	1	0							
月 形	2		2	36							
夕 張	2→1		1	1							H27二次募集後学級減
長 沼	2		2	13							
栗 山	2		2	2							
南 幌	1		1	20							
12校	25 →24	12	36	132							

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は全日制普通科単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域キャンパス校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 () は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 平成27年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注6 「平成31～34年度までの見通し」欄の学級数の調整については平成34年と平成30年の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画

区 分		H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減	
学区内中卒者数		1, 187	1, 149	1, 131	1, 036	995	958	860	912	▲ 275	▲ 124	
対前年増減			▲ 38	▲ 18	▲ 95	▲ 41	▲ 37	▲ 98	+ 52			
滝川市中卒者数		(360)	(345)	(354)	(320)	(326)	(316)	(283)	(333)	▲ 27	+ 13	
対前年増減			▲ 15	+ 9	▲ 34	+ 6	▲ 10	▲ 33	+ 50			
砂川市中卒者数		(149)	(157)	(157)	(147)	(136)	(134)	(124)	(118)	▲ 31	▲ 29	
対前年増減			+ 8	± 0	▲ 10	▲ 11	▲ 2	▲ 10	▲ 6			
歌志内市中卒者数		(21)	(21)	(31)	(21)	(15)	(21)	(17)	(14)	▲ 7	▲ 7	
対前年増減			± 0	+ 10	▲ 10	▲ 6	+ 6	▲ 4	▲ 3			
芦別市中卒者数		(131)	(104)	(103)	(96)	(78)	(81)	(80)	(83)	▲ 48	▲ 13	
対前年増減			▲ 27	▲ 1	▲ 7	▲ 18	+ 3	▲ 1	+ 3			
赤平市中卒者数		(76)	(84)	(79)	(77)	(63)	(58)	(42)	(57)	▲ 19	▲ 20	
対前年増減			+ 8	▲ 5	▲ 2	▲ 14	▲ 5	▲ 16	+ 15			
深川市中卒者数		(163)	(162)	(167)	(133)	(159)	(140)	(120)	(117)	▲ 46	▲ 16	
対前年増減			▲ 1	+ 5	▲ 34	+ 26	▲ 19	▲ 20	▲ 3			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し			摘要	
	普通	職業	計									
滝 川	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要				
滝川工業		工 2	2	6				○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要				
*滝 川 西	3	商 4	7	2			▲ 1 (学科検討中)	○滝川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要				
単 砂 川	4→3		3	20	普+1 (計画変更)			○深川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要			H27二次募集後学級減	
奈井江商業		商 1	1	0				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要				
新十津川農業		農 1	1	0				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要				
芦 別	3		3	0								
深 川 西	4		4	30								
深 川 東		農 1 商 2	3	81								
9校	20 →19	11	30	139	普+1		▲ 1 (学科検討中)					

石狩学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	19,943	19,822	20,152	19,931	19,822	19,048	18,617	19,260	▲ 683	▲ 671
対前年増減		▲ 121	+ 330	▲ 221	▲ 109	▲ 774	▲ 431	+ 643		
札幌市中卒者数	(15,720)	(15,506)	(15,859)	(15,730)	(15,624)	(15,034)	(14,794)	(15,240)	▲ 480	▲ 490
対前年増減		▲ 214	+ 353	▲ 129	▲ 106	▲ 590	▲ 240	+ 446		
江別市中卒者数	(1,315)	(1,296)	(1,248)	(1,237)	(1,212)	(1,137)	(1,074)	(1,179)	▲ 136	▲ 58
対前年増減		▲ 19	▲ 48	▲ 11	▲ 25	▲ 75	▲ 63	+ 105		
千歳市中卒者数	(861)	(891)	(921)	(984)	(931)	(889)	(943)	(975)	+ 114	▲ 9
対前年増減		+ 30	+ 30	+ 63	▲ 53	▲ 42	+ 54	+ 32		
恵庭市中卒者数	(651)	(702)	(677)	(662)	(673)	(630)	(609)	(668)	+ 17	+ 6
対前年増減		+ 51	▲ 25	▲ 15	+ 11	▲ 43	▲ 21	+ 59		
北広島市中卒者数	(676)	(651)	(699)	(623)	(660)	(605)	(548)	(552)	▲ 124	▲ 71
対前年増減		▲ 25	+ 48	▲ 76	+ 37	▲ 55	▲ 57	+ 4		
石狩市中卒者数	(513)	(591)	(559)	(526)	(568)	(599)	(518)	(503)	▲ 10	▲ 23
対前年増減		+ 78	▲ 32	▲ 33	+ 42	+ 31	▲ 81	▲ 15		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-1				○4年間で11～12学級相当の調整が必要 ○市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体で定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
札幌西	8		8	-1						
札幌南	8		8	-1						
札幌北	8		8	0						
札幌月寒	8		8	-3						
札幌啓成	8		8	-2						
札幌北陵	8		8	-1						
単 札幌手稲	8		8	0						
フ 札幌丘珠	8		8	0						
札幌西陵	7		7	0		普+1				
単 札幌白石	8		8	0	普▲1	普+1				
単 札幌東陵	8		8	1						
札幌南陵	6		6	0			普▲1			
札幌東豊	8		8	0						
総 札幌厚別	7		7	-1		総+1	総▲1			
札幌真栄	4		4	-1						
フ 札幌あすかぜ	8		8	3						
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	-1						
単 札幌英藍	8		8	0						

学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	0					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	-1				
江 別	5	商 家	2 1	8	0				
フ 野 幌	7		7	7					
単 大 麻	7		7	0					
千 歳	7	商	2	9	3				
フ 千歳北陽	7→6		6	27					H27二次募集後学級減
単 北 広 島	8		8	-1					
北広島西	8		8	6	普▲1	普+1			
石 狩 南	8		8	0			普▲1		
当 別	3	農 家	1 1	5	59				
恵 庭 南	8		8	6					
恵 庭 北	7		7	0					
札幌工業		工	8	8	-3				
札幌琴似工業		工	8	8	-1				
札幌東商業		商	8	8	0				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *札幌旭丘	8		8	-5					
*札幌藻岩	8		8	-1					
*札幌平岸	8		8	0					
*札幌清田	8		8	0					
中 等 *市立札幌開成	4		4	1					コスモサイエンス科単位制
*札幌新川	8		8	0					
*札幌啓北商業		商	6	6	-1				
44校	284 →283	41	324	88	普▲2	普+3 総+1	普▲2 総▲1		

後志学区高校配置計画

区 分		H 2 7			H 2 8		H 2 9		H 3 0		H 3 1		H 3 2		H 3 3		H 3 4		平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数		1,711			1,685		1,730		1,671		1,596		1,461		1,412		1,434		▲ 277	▲ 237
対前年増減					▲ 26		+ 45		▲ 59		▲ 75		▲ 135		▲ 49		+ 22			
小樽市中卒者数		(943)			(933)		(934)		(926)		(882)		(773)		(781)		(786)		▲ 157	▲ 140
対前年増減					▲ 10		+ 1		▲ 8		▲ 44		▲ 109		+ 8		+ 5			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し								摘要			
小樽潮陵	6		6	0					○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○農業科について、配置の在り方の検討が必要											
単 小樽桜陽	6		6	3																
小樽商業		商 3	3	20		商▲1		商▲2												
小樽工業		工 3	3	4				工▲3												
新設校								+ 4 (学科検討中)										小樽工業校舎を使用		
小樽水産		水 4	4	0																
総 余市紅志	2		2	24																
岩 内	3	商 1	4	55			普通科単位制導入											寿都のセンター校		
地 寿 都	1		1	13																
共 和	1		1	25			普▲1													
単 倶 知 安	4		4	39														蘭越のセンター校		
地 蘭 越	1		1	20																
倶知安農業		農 1	1	6																
12校	24	12	36	209		商▲1	普▲1	商▲2、工▲3 + 4 (学科検討中)												

胆振西学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,615	1,540	1,584	1,581	1,538	1,473	1,382	1,393	▲ 222	▲ 188
対前年増減		▲ 75	+ 44	▲ 3	▲ 43	▲ 65	▲ 91	+ 11		
室蘭市中卒者数	(700)	(660)	(721)	(699)	(664)	(619)	(598)	(532)	▲ 168	▲ 167
対前年増減		▲ 40	+ 61	▲ 22	▲ 35	▲ 45	▲ 21	▲ 66		
登別市中卒者数	(451)	(454)	(466)	(438)	(489)	(420)	(397)	(441)	▲ 10	+ 3
対前年増減		+ 3	+ 12	▲ 28	+ 51	▲ 69	▲ 23	+ 44		
伊達市中卒者数	(320)	(303)	(281)	(305)	(291)	(311)	(281)	(298)	▲ 22	▲ 7
対前年増減		▲ 17	▲ 22	+ 24	▲ 14	+ 20	▲ 30	+ 17		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要
室 蘭 栄	6		6	0					○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○伊達市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要	
単 室蘭清水丘	4		4	0						
総 室蘭東翔	5		5	0						
室蘭工業		工 5	5	36						
登別青嶺	4		4	-2						
中 登別明日	2		2	7						
伊 達	3		3	2						虻田のセンター校
伊達緑丘	4		4	-2						
地 虻 田		商 1	1	8						
*壮 瞥		農 1	1	10						
10校	28	7	35	59						

胆振東学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,890	1,814	1,848	1,897	1,752	1,795	1,714	1,754	▲ 136	▲ 143
対前年増減		▲ 76	+ 34	+ 49	▲ 145	+ 43	▲ 81	+ 40		
苫小牧市中卒者数	(1,571)	(1,496)	(1,571)	(1,606)	(1,480)	(1,538)	(1,454)	(1,493)	▲ 78	▲ 113
対前年増減		▲ 75	+ 75	+ 35	▲ 126	+ 58	▲ 84	+ 39		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
苫小牧東	6		6	0				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○地元からの進学状況、中卒者数、欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、苫小牧市及び周辺町において再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	厚真のセンター校	
苫小牧西	4		4	0					穂別のセンター校	
単 苫小牧南	5		5	0						
苫小牧工業		工 6	6	0						
苫小牧総合経済		商 4	4	5						
白 老 東	3		3	0	普▲1					
地 厚 真	1		1	3						
地 穂 別	1		1	21						
追 分	1		1	3						
中高 鶴 川	2		2	15						
10校	23	10	33	47	普▲1					

日高学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	588	639	606	585	552	528	510	547	▲ 41	▲ 38
対前年増減		+ 51	▲ 33	▲ 21	▲ 33	▲ 24	▲ 18	+ 37		
浦河町中卒者数	(136)	(135)	(103)	(120)	(99)	(103)	(95)	(79)	▲ 57	▲ 41
対前年増減		▲ 1	▲ 32	+ 17	▲ 21	+ 4	▲ 8	▲ 16		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	9				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、欠員の状況を考慮し、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要	平取のセンター校	
静内農業		農 2	2	32						
富 川	1		1	15						
地 平 取	1		1	19						
総 浦 河	4		4	24						
中高 *え り も	2		2	52						
6校	13	2	15	151						

渡島学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	3,586	3,442	3,306	3,246	3,260	3,127	2,949	2,977	▲ 609	▲ 269
対前年増減		▲ 144	▲ 136	▲ 60	+ 14	▲ 133	▲ 178	+ 28		
函館市中卒者数	(2,301)	(2,215)	(2,123)	(2,023)	(2,084)	(1,976)	(1,863)	(1,925)	▲ 376	▲ 98
対前年増減		▲ 86	▲ 92	▲ 100	+ 61	▲ 108	▲ 113	+ 62		
北斗市中卒者数	(481)	(458)	(459)	(501)	(481)	(451)	(420)	(448)	▲ 33	▲ 53
対前年増減		▲ 23	+ 1	+ 42	▲ 20	▲ 30	▲ 31	+ 28		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
函館中部	6		6	-1				○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○望ましい学校規模を下回る函館市内の高校 (地域キャンパス校を除く)については早 急に再編の検討が必要 ○中卒者数を考慮し、学校・学科の配置の在 り方も含め、北斗市において、再編の検討 が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地 元からの進学率が高い小規模校について は、地域キャンパス校化の検討が必要		南茅部のセンター校
函 館 西	4		4	0		普▲1				
函館校北	3		3	0						
単 *市立函館	8		8	0			普▲2			
函館水産		水 4	4	7						
函館商業		商 5	5	0	商▲1					福島商業のセンター校
函館工業		工 6	6	0						
(函館工業)	(工3)	(3)	(110)	[工▲1]	[工▲1]					
地 南 茅 部	1		1	16						
上 磯	2		2	7		普▲1				
七 飯	3		3	-1						
大野農業		農 4	4	43						
松 前	2		2	35						
*知 内	2		2	18						
地 福島商業		商 1	1	17						
八 雲	3	商 1	4	60						長万部のセンター校
総 森	3→2		2	1	総+1 (計画変更)					H27二次募集後学級減
長 万 部	1		1	7	地域キャンパス校化 (計画変更)					
17校	38 →37	21	58	209	商▲1 総+1 (工▲1)	普▲2 (工▲1)	普▲2			

檜山学区高校配置計画

区 分		H27		H 2 8		H 2 9		H 3 0		H 3 1		H 3 2		H 3 3		H 3 4		平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数		308		325		311		297		300		250		250		224		▲ 84	▲ 73
対前年増減				+ 17		▲ 14		▲ 14		+ 3		▲ 50		± 0		▲ 26			
江差町中卒者数		(57)		(62)		(66)		(69)		(51)		(51)		(54)		(38)		▲ 19	▲ 31
対前年増減				+ 5		+ 4		+ 3		▲ 18		± 0		+ 3		▲ 16			
学校名		平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し								摘要		
単 江 差	3		3	14					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況 を考慮し、再編整備を含め、その在り方の 検討が必要 ○地理的状况から再編が困難であり、かつ地 元からの進学率が高い小規模校について は、地域キャンパス校化の検討が必要										
上 ノ 国	1		1	17															
総 檜 山 北	3		3	30															
奥 尻	1		1	23	[道立] 普▲1 [町立] 普+1 (計画変更)												道から奥尻町に移管		
4校	8	0	8	84	普▲1 普+1														

上川南学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	3,888	3,811	3,897	3,647	3,781	3,583	3,442	3,558	▲ 330	▲ 89
対前年増減		▲ 77	+ 86	▲ 250	+ 134	▲ 198	▲ 141	+ 116		
旭川市中卒者数	(2,878)	(2,865)	(2,979)	(2,701)	(2,923)	(2,718)	(2,631)	(2,748)	▲ 130	+ 47
対前年増減		▲ 13	+ 114	▲ 278	+ 222	▲ 205	▲ 87	+ 117		
富良野市中卒者数	(236)	(216)	(216)	(228)	(182)	(197)	(167)	(182)	▲ 54	▲ 46
対前年増減		▲ 20	± 0	+ 12	▲ 46	+ 15	▲ 30	+ 15		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
旭川東	7		7	-1				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数、これまでの進学状況や定員調整の状況などを考慮し、旭川市周辺町及び富良野市周辺町における再編整備や定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
旭川西	6		6	0						
単旭川北	6		6	-1		普+1	普▲1			
総旭川南	6		6	0						
旭川凌雲	4		4	-1	普▲4					
旭川東栄	4		4	-1	普▲4					
新設校					普+7 普通科単位制導入					旭川凌雲校舎を使用
旭川商業		商 6	6	0						
旭川工業		工 7	7	-1			工▲1			
旭川農業		農 4	4	0						
鷹 栖	1		1	0						
東 川	2		2	3						
美 瑛	2		2	29						
中高 上 川	2		2	27						
単 富 良 野	4		4	5						
富良野緑峰		農 1 工 1 商 2	4	53						
上富良野	1		1	7						
*南富良野	1		1	26						
17校	46	21	67	145	普▲8 普+7	普+1	普▲1 工▲1			

上川北学区高校配置計画

区 分		H 2 7		H 2 8		H 2 9		H 3 0		H 3 1		H 3 2		H 3 3		H 3 4		平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数		526		499		557		552		498		470		464		473		▲ 53	▲ 79
対前年増減				▲ 27		+ 58		▲ 5		▲ 54		▲ 28		▲ 6		+ 9			
土別市中卒者数		(193)		(161)		(175)		(177)		(149)		(143)		(143)		(133)		▲ 60	▲ 44
対前年増減				▲ 32		+ 14		+ 2		▲ 28		▲ 6		± 0		▲ 10			
名寄市中卒者数		(198)		(217)		(235)		(250)		(218)		(206)		(185)		(232)		+ 34	▲ 18
対前年増減				+ 19		+ 18		+ 15		▲ 32		▲ 12		▲ 21		+ 47			
学校名		平成 2 7 年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		平成 3 1 ～ 3 4 年度までの見通し						摘要	
		普通	職業	計															
土別翔雲		3	商 1	4	34							○ 4 年間で 1 ～ 2 学級相当の調整が必要						下川商業のセンター校	
地 下川商業			商 1	1	19							○ 中卒者数、欠員やこれまでの調整の状況などを考慮し、定員調整の検討が必要							
名 寄		4		4	2							○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要						美深のセンター校	
地 美 深		1		1	21							○ 地域キャンパス校について、5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者が 2 0 人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要							
産 名寄産業			農 1 工 2 家 1	4	76														
総 *剣 淵		1		1	11														
*おといねっぶ 美術工芸		1		1	3														
7校		10	6	16	166														

留萌学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	365	346	348	333	359	337	300	287	▲ 78	▲ 46
対前年増減		▲ 19	+ 2	▲ 15	+ 26	▲ 22	▲ 37	▲ 13		
留萌市中卒者数	(162)	(166)	(162)	(132)	(154)	(140)	(151)	(132)	▲ 30	± 0
対前年増減		+ 4	▲ 4	▲ 30	+ 22	▲ 14	+ 11	▲ 19		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要
単 留 萌	4		4	14				普▲4	○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については地域キャンパス校化の検討が必要 ○地域キャンパス校及び農業に関する学科を置く第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	苫前商業のセンター校
留萌千望		工 1 商 1	2	20				工▲1 商▲1		
新設校								普+4、工+1 商+1 普通科単位制導入		留萌千望校舎を使用
羽 幌	2		2	31						
地 苫前商業		商 1	1	10						
天 塩	2		2	27						
遠別農業		農 1	1	26						
6校	8	4	12	128				普▲4、工▲1 商▲1、普+4 工+1、商+1		

宗谷学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減	
学区内中卒者数	544	552	558	590	514	529	504	512	▲ 32	▲ 78	
対前年増減		+ 8	+ 6	+ 32	▲ 76	+ 15	▲ 25	+ 8			
稚内市中卒者数	(305)	(306)	(293)	(314)	(263)	(276)	(263)	(262)	▲ 43	▲ 52	
対前年増減		+ 1	▲ 13	+ 21	▲ 51	+ 13	▲ 13	▲ 1			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
稚 内	4→3	商 1 看 1	5	17					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○生徒の多様な学習ニーズに対応した新しいタイプの高校の導入の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要 ○離島にある高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	豊富なセンター校 H27二次募集後学級減	
地 豊 富	1		1	29							
浜 頓 別	2		2	29							
枝 幸	2		2	24							
利 尻	1	商 1	2	62							
礼 文	1		1	34							
6校	11 →10	3	13	195							

オホーツク中学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1, 418	1, 382	1, 336	1, 371	1, 248	1, 241	1, 138	1, 165	▲ 253	▲ 206
対前年増減		▲ 36	▲ 46	+ 35	▲ 123	▲ 7	▲ 103	+ 27		
北見市中卒者数	(1, 076)	(1, 027)	(1, 026)	(1, 042)	(952)	(940)	(873)	(874)	▲ 202	▲ 168
対前年増減		▲ 49	▲ 1	+ 16	▲ 90	▲ 12	▲ 67	+ 1		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
北見北斗	6		6	-1				○4年間で4～5学級相当の調整が必要	常呂のセンター校	
単 北見柏陽	6		6	0				○中卒者数や欠員の状況を考慮し、北見市内及び周辺町における学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要	佐呂間のセンター校	
フ 北見緑陵	4		4	6						
北見工業		工 4	4	15	工▲1			○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
北見商業		商 4	4	0				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
置 戸		福 1	1	21				○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
総 留 辺 薬	1		1	11						
地 佐 呂 間	1		1	16						
地 常 呂	1		1	27						
訓 子 府	1		1	16						
地 津 別	1		1	15						
美 幌	2	農 2	4	37					津別のセンター校	
12校	23	11	34	163	工▲1					

オホーツク東学区高校配置計画

区 分		H 2 7		H 2 8		H 2 9		H 3 0		H 3 1		H 3 2		H 3 3		H 3 4		平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数		564		597		556		555		533		516		497		483		▲ 81	▲ 72
対前年増減				+ 33		▲ 41		▲ 1		▲ 22		▲ 17		▲ 19		▲ 14			
網走市中卒者数		(318)		(334)		(338)		(318)		(304)		(290)		(294)		(259)		▲ 59	▲ 59
対前年増減				+ 16		+ 4		▲ 20		▲ 14		▲ 14		+ 4		▲ 35			
学校名		平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
単 網走南ヶ丘	5			5	17				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況 を考慮し、学級減や再編整備を含め、その 在り方の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の 第1学年の在籍者が20人未満となり、 その後も生徒数の増が見込まれない場合 は、再編整備の検討が必要								清里のセンター校		
網走桂陽	2	商 2		4	1														
女 満 別	1			1	27														
総 斜 里	2			2	13														
地 清 里	1			1	28														
小 清 水	1			1	25	普▲1													
6校	12	2		14	111	普▲1													

オホーツク西学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	520	558	527	499	520	471	464	417	▲ 103	▲ 82
対前年増減		+ 38	▲ 31	▲ 28	+ 21	▲ 49	▲ 7	▲ 47		
紋別市中卒者数	(170)	(190)	(181)	(157)	(168)	(140)	(152)	(136)	▲ 34	▲ 21
対前年増減		+ 20	▲ 9	▲ 24	+ 11	▲ 28	+ 12	▲ 16		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
単 遠 軽	5		5	23				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○中卒者数を考慮した定員調整の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ 地元からの進学率が高い小規模校につ ては、地域キャンパス校化の検討が必要		
紋 別	3	工 1 商 1	5	54					興部のセンター校	
地 興 部	1		1	4						
滝 上	1		1	24		普▲1				
雄 武	1		1	21						
中 湧 別	2		2	29						
6校	13	2	15	155		普▲1				

十勝学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	3, 220	3, 186	3, 100	3, 061	3, 059	2, 964	2, 861	2, 849	▲ 371	▲ 212
対前年増減		▲ 34	▲ 86	▲ 39	▲ 2	▲ 95	▲ 103	▲ 12		
帯広市中卒者数	(1, 500)	(1, 470)	(1, 409)	(1, 373)	(1, 344)	(1, 335)	(1, 261)	(1, 289)	▲ 211	▲ 84
対前年増減		▲ 30	▲ 61	▲ 36	▲ 29	▲ 9	▲ 74	+ 28		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
帯広柏葉	7		7	0				○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○欠員の状況、これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
単 帯広三条	7		7	0			普▲1			
帯広緑陽	4		4	0						
帯広工業		工 4	4	0						
帯広農業		農 5	5	0						
* 帯広南商業		商 5	5	0						
単 音 更	4		4	0						
芽 室	4		4	0						
幕 別	2→1		1	10						H27二次募集後学級減
上 士 幌	2		2	5						
* 士 幌		農 2	2	6						
総 清 水	4		4	35						
新 得	1		1	14		普▲1				
中高 鹿 追	2		2	6						
更別農業		農 2	2	28						
大 樹	2		2	34						
中高 広 尾	2→1		1	2	普+1 (計画変更)					H27二次募集後学級減
総 池 田	2		2	14						
本 別	2		2	32						
足 寄	2		2	35						
20校	47 →45	18	63	221	普+1	普▲1	普▲1			

釧路学区高校配置計画

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,996	2,025	2,056	1,994	1,965	1,877	1,797	1,841	▲ 155	▲ 153
対前年増減		+ 29	+ 31	▲ 62	▲ 29	▲ 88	▲ 80	+ 44		
釧路市中卒者数	(1,439)	(1,440)	(1,514)	(1,440)	(1,409)	(1,361)	(1,304)	(1,350)	▲ 89	▲ 90
対前年増減		+ 1	+ 74	▲ 74	▲ 31	▲ 48	▲ 57	+ 46		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
釧路湖陵	6		6	-2				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		阿寒のセンター校
単 釧路江南	6		6	0			普▲1			
釧路商業		商 4	4	-1						
釧路工業		工 6	6	14						
(釧路工業)		(工2)	(2)	(70)	[工▲1]					
総 釧路明輝	5		5	-1						
フ *釧路北陽	6		6	0						
釧 路 東	3		3	0						
地 阿 寒	1		1	14						
白 糠	2		2	29						
総 標 茶	3→2		2	12	総+1 (計画変更)					H27二次募集後学級減
弟 子 屈	2		2	33						
厚岸翔洋	1	水 1	2	35						
*霧 多 布	2		2	32						
13校	37 →36	11	47	165	総+1 [工▲1]		普▲1			

根室学区高校配置計画

区 分		H27		H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34		平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数		707		750		803		713		735		741		655		676		▲ 31	▲ 37
対前年増減				+ 43		+ 53		▲ 90		+ 22		+ 6		▲ 86		+ 21			
根室市中卒者数		(200)		(266)		(244)		(204)		(204)		(215)		(202)		(200)		± 0	▲ 4
対前年増減				+ 66		▲ 22		▲ 40		± 0		+ 11		▲ 13		▲ 2			
学校名		平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
根 室		3	商 2	5	46		普▲3 商▲2		○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要										
根 室 西		2→1		1	19	普+1 (計画変更)	普▲2										H27二次募集後学級減		
新設校							普+4、商+2 普通科・商業科 単位制導入										根室校舎を使用		
別 海		2	農 1	3	40														
中 標 津		4	商 2	6	58														
標 津		2		2	12														
*中標津農業			農 2	2	51														
中高 羅 臼		2		2	38														
7校		15 →14	7	21	264	普+1	普▲5、商▲2 普+4、商+2												

《全学区共通事項》

平成28年度以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。

公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）の概要

1 平成28年度～29年度（平成26年度決定）高校配置計画の変更について（※計画案のとおり）

課程	区 分	学 校 名	計 画 変 更 の 内 容
全 日 制	学 級 増 + 5	砂 川 + 1 森 + 1 広 尾 + 1 標 茶 + 1 根 室 + 1	○平成27年度の入学者選抜の結果、学級減を行った9校のうち5校について、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、平成28年度にそれぞれ1学級増
	移 管	奥 尻	○奥尻町からの要望などを考慮し、平成28年度に奥尻高校を道から奥尻町に移管
	地域キャンパス校の導入	長 万 部 (センター校：八雲)	○今後の中卒者数の状況などを考慮し、平成28年度に新たに地域キャンパス校化
定 時 制	再 編 整 備 等	函 館 工 業	○平成29年度の1学級減について、機械科と電気科を電子機械科に学科再編 (H26計画では減とする学科は検討中と表記)

2 平成30年度の高校配置計画について（※計画案のとおり）

課程	区 分	学 校 名	主 な 計 画 の 内 容																								
全 日 制	学 級 減 ▲10	※ 滝 川 西 ▲1 札幌 南 陵 ▲1 札幌 厚 別 ▲1 石 狩 南 ▲1 ※市立函館 ▲2 旭 川 北 ▲1 旭 川 工 業 ▲1 帯 広 三 条 ▲1 釧 路 江 南 ▲1	○各学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、学級減 道立 7校 ▲7学級 市町村立 2校 ▲3学級																								
	再 編 整 備 等 ▲11 +10	小 樽 市 内 留 萌 市 内	○市内に複数校が設置され、中卒者数の減少により望ましい学校規模の維持が困難と見込まれるため、生徒の学習環境の充実を図る観点から再編 <table><tr><th colspan="2">募集停止</th><th colspan="2">新設校</th></tr><tr><td>小 樽 商 業</td><td>▲2</td><td>(学科検討中)</td><td>+ 4</td></tr><tr><td>小 樽 工 業</td><td>▲3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>留 萌</td><td>▲4</td><td>普通科(単位制)</td><td>+ 4</td></tr><tr><td>留 萌 千 望</td><td>▲2</td><td>電気・建築科</td><td>+ 1</td></tr><tr><td></td><td></td><td>情報ビジネス科</td><td>+ 1</td></tr></table>	募集停止		新設校		小 樽 商 業	▲2	(学科検討中)	+ 4	小 樽 工 業	▲3			留 萌	▲4	普通科(単位制)	+ 4	留 萌 千 望	▲2	電気・建築科	+ 1			情報ビジネス科	+ 1
	募集停止		新設校																								
小 樽 商 業	▲2	(学科検討中)	+ 4																								
小 樽 工 業	▲3																										
留 萌	▲4	普通科(単位制)	+ 4																								
留 萌 千 望	▲2	電気・建築科	+ 1																								
		情報ビジネス科	+ 1																								
単位制の導入	新 設 校 (留萌市内)	○生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、留萌市内の新設校の普通科に単位制を導入																									

（学校名の※は、市町村立高校）

3 計画案で検討中であった学科の決定について

学 校 名	課 程	年 度	内 容
旭川工業	全日制	30	自動車科を学級減することを明示

- ・ 参考 平成28年度の高等専門学校定員について、40人減（【計画案】760人→【計画】720人）
平成28年度の私立高校定員について、75人減（【計画案】11,875人→【計画】11,800人）

平成27年度幕別高校・江陵高校在籍者数

		幕別高校				江陵高校				町内高校合計				中札内高等養護学校幕別分校			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	小計
普通科	間口数	1	2	1	4	2	2	2	6	3	4	3	10	2	2	2	6
	入学者数	29	60	24	113	97	111	96	304	126	171	120	417	15	13	7	35
	募集定員	40	80	40	160	80	80	80	240	120	160	120	400	16	16	16	48
	増減	△ 11	△ 20	△ 16	-47	17	31	16	64	6	11	0	17	△ 1	△ 3	△ 9	-13
	充足率	72.5%	75.0%	60.0%	70.6%	121.3%	138.8%	120.0%	126.7%	105.0%	106.9%	100.0%	104.3%	93.8%	81.3%	43.8%	72.9%
福祉科	間口数					1	1	1	3	1	1	1	3				
	入学者数					35	30	14	79	35	30	14	79				
	募集定員					37	37	37	111	37	37	37	111				
	増減					△ 2	△ 7	△ 23	-32	△ 2	△ 7	△ 23	-32				
	充足率					94.6%	81.1%	37.8%	71.2%	94.6%	81.1%	37.8%	71.2%				

帯広市内及び幕別町内中学校卒業者の推計

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H28～H30	H28～H34
学区内	3,220	3,186	3,100	3,061	3,059	2,964	2,861	2,849		
対前年増減		-34	-86	-39	-2	-95	-103	-12	-159	-371
帯広市内	1,500	1,470	1,409	1,373	1,344	1,335	1,261	1,289		
対前年増減		-30	-61	-36	-29	-9	-74	28	-127	-211
幕別町内	284	282	292	262	234	263	228	240		
対前年増減		-2	10	-30	-28	29	-35	12	-22	-44
増減合計		-34	-86	-39	-2	-95	-103	-12	-159	-371

【学区内、帯広市：道教委高校配置計画数値】
【幕別町：平成27年5月1日現在児童生徒数】

町内高校の進路状況

(1)進学

【幕別高校】

平成26年度

卒業生数:37人		単位:人					
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	0	2	0	2	13	1	18
女子	0	1	0		2	0	3
計	0	3	0	2	15	1	21

平成25年度

卒業生数:48人							
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	0	1	0	1	11	0	13
女子	0	1	0	1	3	0	5
計	0	2	0	2	14	0	18

平成24年度

卒業生数:51人							
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	0	1	0	3	13	0	17
女子	0	0	0	2	10	0	12
計	0	1	0	5	23	0	29

【江陵高校】

平成26年度

卒業生数:92人		単位:人					
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	0	2	0	0	22	0	24
女子	0	3	0	4	12	0	19
計	0	5	0	4	34	0	43

平成25年度

卒業生数:81人							
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	1	4	0	1	22	0	28
女子	0	2	0	5	10	0	17
計	1	6	0	6	32	0	45

平成24年度

卒業生数:84人							
	四年生大学		短期大学		専修学校 各種学校	その他	計
	国公立	私立	国公立	私立			
男子	1	8	0	3	11	0	23
女子	0	5	0	6	8	0	19
計	1	13	0	9	19	0	42

(2)就職

【幕別高校】

平成26年度

卒業者数:37人

単位:人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
2	10	0	2	1	1	16

平成25年度

卒業者数:48人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
12	15	1	0	2	0	30

平成24年度

卒業者数:51人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
2	17	0	1	2	0	22

【江陵高校】

平成26年度

卒業者数:92人

単位:人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
2	39	2	2	4	0	49

平成25年度

卒業者数:81人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
4	29	1	0	2	0	36

平成24年度

卒業者数:84人

一般事業所				公務員	その他	計
町内	管内	道内	道外			
4	32	2	0	4	0	42

過去3年間における町内中学生の進学状況

			幕別中			糠内中			札内中			札内東中			忠類中			合計					
			H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	率	H25	率	H26	率
1	公	幕別高校(80)	6	6	6	0	0	0	6	13	1	17	6	9	0	0	0	29	9%	25	7%	16	6%
2	公	帯広柏葉高校(280)	5	5	6	1	0	0	14	13	20	10	12	9	1	3	2	31	9%	33	10%	37	13%
3	公	帯広三条高校(280)	4	4	6	0	0	0	8	19	16	9	8	9	3	1	1	24	7%	32	10%	32	11%
4	公	帯広緑陽高校(160)	1	3	4	0	1	0	3	14	8	0	5	8	1	1	1	5	2%	24	7%	21	7%
5	公	帯広工業高校(160)	3	3	5	0	0	0	11	12	6	2	4	3	6	1	0	22	7%	20	6%	14	5%
6	公	帯広農業高校(200)	4	4	2	1	3	0	2	6	12	5	2	2	1	3	3	13	4%	18	5%	19	7%
7	公	帯広南商業高校(200)	3	2	0	0	1	0	8	13	8	5	7	9	0	0	0	16	5%	23	7%	17	6%
8	公	音更高校(160)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0%	2	1%	1	0%
9	公	士幌高校(80)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	0	2	1%	2	1%	2	1%
10	公	上士幌高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0%	1	0%	2	1%
11	公	鹿追高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	0%	1	0%
12	公	新得高校(40)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%
13	公	清水高校(160)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0%	0	0%	0	0%
14	公	芽室高校(160)	0	2	4	0	0	0	3	11	10	1	13	7	0	0	0	4	1%	26	8%	21	7%
15	公	更別農業高校(80)	0	0	2	0	0	1	1	0	1	2	0	1	0	0	0	3	1%	0	0%	5	2%
16	公	大樹高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	5	1	6	2%	5	1%	1	0%
17	公	広尾高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%
18	公	池田高校(80)	0	3	9	0	0	0	9	5	1	4	6	4	0	0	0	13	4%	14	4%	14	5%
19	公	本別高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%
20	公	足寄高校(80)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%
管内公立高校計			26	32	44	2	5	1	67	109	87	57	65	63	18	14	8	170	52%	225	67%	203	71%
21	私	江陵高校(117)	4	5	2	0	0	0	22	35	25	24	13	13	3	0	0	53	16%	53	16%	40	14%
22	私	帯広大谷高校(260)	3	1	0	0	0	0	3	7	7	37	4	5	0	1	0	43	13%	13	4%	12	4%
23	私	白樺学園高校(188)	0	0	0	0	0	0	3	4	1	2	0	4	0	0	1	5	2%	4	1%	6	2%
24	私	帯広北高校(230)	4	2	0	0	0	0	6	8	0	26	10	1	0	1	0	36	11%	21	6%	1	0%
私立高校計			11	8	2	0	0	0	34	54	33	89	27	23	3	2	1	137	42%	91	27%	59	21%
25	-	管外	2	5	1	0	0	1	5	3	7	7	6	7	0	0	1	14	4%	14	4%	17	6%
26	-	その他	0	1	1	0	0	0	8	3	3	1	1	1	0	1	0	9	3%	6	2%	5	2%
管外その他計			2	6	2	0	0	1	13	6	10	8	7	8	0	1	1	23	7%	20	6%	22	8%
総合計			39	46	48	2	5	2	114	169	130	154	99	94	21	17	10	330	100%	336	100%	284	100%

※()内は定員(H27年度現在)

幕別町小中一貫教育等推進基本構想概要資料

1 はじめに

○我が国の教育動向

我が国においては主要先進国でもまれにみる速さで少子高齢化が進み、国際化・高度情報化等これまで想像できなかった状況が生じつつある。厳しい時代を生きる子どもたちは、自らの手で人生を切り拓くとともに、多様な価値観を受容し、共生していくことが求められる。このため、子どもたちが十分な知識や技能を身につけ、思考力、判断力、表現力を磨き主体性をもって多様な人々と協働することができるよう、その能力や可能性を引き出すとともに自信を育む教育の実現が急務である。

こうした教育の実現のために様々な提言がなされ種々の教育改革が進んでいる。学校制度

についても、子どもの発達や意欲能力に対応した柔軟かつ効果的なものとすることで、制度的な選択肢を広げる提言がされ、義務教育段階の接続に関して以下のように法改正や提言がなされてきた。

2 小中一貫教育等について

1) 小中学校の接続における課題

○成長発達、学習生活

この半世紀で児童生徒の生理的成熟が進み、成長は2年程度早まっていると言われる。また「学校の楽しさ」「学習の好き嫌い」「自尊感情の低下」などは小学校高学年から低下してきているという調査結果が出されている。いじめ不登校等についても中学校入学時に増加し、いわゆる「中1ギャップ」が指摘されている。

○教職員、学校文化

小学校と中学校の制度的または文化的な相違点もみられることは、いわゆる「中1ギャップ」の誘因とも指摘されている。

- ① 授業形態の違い（学級担任制～教科担任制）
- ② 指導方法の違い（きめ細かい指導・活動～進度の速い講義型授業）
- ③ 評価方法の違い（単元テスト～定期考査）
- ④ 生徒指導の違い（規則・厳格性）
- ⑤ 部活動の有無（上級生との関係性・規律性）

本町においても小学校中学校の教職員の丁寧な連携や、指導の工夫がなされている一方、子どもたちを取り巻く環境が多様化し、中学校進学後の不登校の増加・学習意欲低下や生活リズムの乱れなど克服すべき課題が多く存在している。

これらの課題解決のために、小中一貫教育等を研究・導入することで、小中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間の連続した見取りと系統的な指導により、児童生徒一人一人の可能性を最大限に広げたいと考える。

2) 小中一貫教育等の区分について

○一貫と連携

先行事例を参考に見ていくと、以下のように制度及び種々の形態の特徴が挙げられる。

- ・小中一貫教育～小中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す。
- ・教育課程基準特例有＜研究開発学校制度、教育課程特例校制度（文科指定認可）＞（市民科、コミュニケーション科、言語科等）

- ・小中連携教育～小中学校がお互いに情報交換や交流を行うことで、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育活動。
専科制度要件緩和～中学校教員が小学校で教える場合、音楽、図工、体育、家庭科限定から、全教科及び総合的な学習まで拡大（平成14年教育職員免許法改正）
- ・義務教育学校～平成28年4月1日から学校教育法第1条に規定する学校の範囲に加えられた。義務教育9年間のカリキュラムを弾力的に運用できる。
 - ・国公立いづれも設置可能（第2条）
 - ・市町村の公立小・中学校設置義務は、義務教育学校の設置をもって履行（第38条）
 - ・修業年限は9年間（小中学校学習指導要領準用 前期6年後期3年）（第49条）
 - ・校長は1名 教職員は小中学校免許状併有が原則（免許法第3条）（当分例外有 附則第20項）

3) 一貫教育等の成果と課題

○期待される成果

先行事例では以下のような成果が報告されている。

- ・学習指導上の成果
（学力向上、学習意欲向上、学習習慣定着、授業理解度向上、学習規律 等）
- ・生徒指導上の成果
（中1ギャップ緩和、不登校の減少、生活規律生活リズムの向上、自己肯定感、コミュニケーション能力向上 等）
- ・教職員
（指導方法改善、小中間の授業感評価感の共通化、校務分掌の効率化、生徒指導の充実、保護者地域との連携、等）
- ・特別支援教育の連続性向上

○予想される課題

教育課程や行事等の調整、打合せ時間等の確保
教育の機会均等（実施校と未実施校）、転校生の扱い、9年間の閉塞感
小中学校の学校文化の共有化
児童生徒の安全性の確保・移動時間（リスクマネジメント）
教職員の多忙感負担感
兼務発令での保有免許と人事異動

3 幕別町小中一貫教育等の構想

○推進体制

町教育委員会内に検討部署を設置。町内各校長を中心に「推進委員会」を設置。
各学校を数ブロックに分けた学園エリア構想を検討していく。

○推進計画

平成28年度・29年度の2年間で基礎研究、検討を進める。
平成30年度にモデル校・エリア校を指定しての研究実践に着手する。

幕別町小中一貫教育スケジュール＜概略＞（予定）

平成28年度			平成29年度			平成30年度	
・基本構想 ↓ ・各機関への説明 ↓ ・視察計画 ↓ ・研究視察（道外・道内） ↓ ・説明会・講演会等 ↓ ・基本構想まとめ ↓ ・次年度構想	・推進委立上 ↓ ・事業内容計画 ↓ ・推進会議 ↓ ・基礎研究 ↓ ・実施モデル検討	・町研究所に諮問 ↓ ・研究推進 ↓ ・研究のまとめ ↓ ・報告会	・モデル校事業構想 ↓ ・施設整備計画 ↓ ・本町一貫教育構想の完成 ↓ ・保護者説明会 ↓ ・実施モデル検討 ↓ ・連携事業計画 ↓ ・個人カルテ検討 ↓ ・学校改善プラン	・推進会議 ↓ ・実施モデル検討 ↓ ・連携授業試行 ↓ ・連携活動試行 ↓ ・実践研究会 ↓ ・一貫教育課程検討	・エリア構想 ↓ ・エリア体制 ↓ ・エリア委員選出 ↓ ・成果課題整理 ↓ ・次年度構想	・モデル校事業 ↓ ・エリア校事業 ↓ ・施設整備 ↓ ・事業総括 ↓ ・成果と課題 ↓ ・成果課題整理 ↓ ・学校改善プラン	・推進会議 ↓ ・研究実践 ↓ ・連携授業 ↓ ・連携活動 ↓ ・一貫教育課程検討 ↓ ・実践研究

幕別町小中一貫教育等スケジュール＜概略＞（予定）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
①町方針を校長会議において説明 ②町教育研究所に諮問 小中一貫教育と小中連携教育 ③町推進委員会を設置 教委・校長・教頭・教諭等で構成 ※年3回程度の推進会議の開催 ※教育研究所と連名でアンケート調査の実施 ④視察研修（道外・道内） ※小中連携校、小中一貫教育校、義務教育学校 また実践をしている教育委員会等 ⑤講演会、フォーラム等の開催 ⑥町基本方針作成	①モデル校事業の構想 ②施設整備計画の作成→国庫補助活用検討 ③連携エリアの設定→中学校区がメイン ④各エリア委員会の設置 各エリアの中で校長、教頭、教諭等で構成し、連携 内容の検討、実践を行う。 ⑤エリア委員会の報告会や勉強会 ⑥小中一貫教育の場合における教育課程の検討 ⑦保護者説明会 町としての考え方などや実施の方法案んについての説明 ⑧町教育研究所の答申内容の報告 ⑨中1ギャップ未然防止事業の活用（道事業） →中1ギャップ未然防止に係る業務について教員の加配	①小中一貫モデル校設置 小中連携モデル校設置 ②小中一貫及び小中連携実践 ③実践結果のまとめと次年度以降の課題、改善点の 検討。 ④推進委員会、エリア委員会、研究所で報告会、 意見交換会の開催 ⑤次年度以降の取組の検討 小中一貫を増やす？義務教育学校へ向けて進む？

幕別町小中一貫教育等推進会議設置要綱

(目的)

第1条 近年、教育内容や学習活動の量的・質的充実が図られるなど、教育環境が変化してきているとともに、児童生徒の発達の早期化や学習面のつまづきなどから生じる、中1ギャップ等の解決に向けて小中連携教育、小中一貫教育、義務教育学校（以下、「小中一貫教育等」という。）の推進及び検討を行うため、幕別町小中一貫教育等推進会議（以下、「推進会議」という。）を設置する。

(業務)

第2条 推進会議は、次の事項について業務を行う。

- (1) 小中一貫教育等の手法に関すること。
- (2) 小中一貫教育等の周知及び推進に関すること。
- (3) 小中一貫教育等の導入に関すること。
- (4) その他小中一貫教育等に関すること。

(構成)

第3条 推進会議の委員は25人以内とし、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 小中学校の学校長又は教頭
- (2) 小中学校の教諭
- (3) 保護者代表
- (4) 教育委員会教育部職員
- (5) その他教育長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 推進会議に委員の互選により次の役員を置く。

会長 1人 副会長 1人

2 会長は、推進会議を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

(庶務)

第7条 推進会議の庶務は、幕別町教育委員会教育部学校教育課において処理する。

(エリア委員会)

第8条 推進会議は、必要に応じて第2条に規定する業務に関する調査等を行うため、エリア委員会を置くことができる。

2 エリア委員会は、各中学校区で構成することとする。ただし、札内北小学校は札内東中学校エリアとする。

3 エリア委員会は推進会議委員である、第3条第1項第1号に掲げる者を含み、各校1人以上から構成する。

4 エリア委員会で調査等を行ったときは、推進会議において、その経過及び成果の報告を行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関して必要な事項は、推進会議の議決を経て会長が定める。

附 則

この要綱は、平成28年6月21日から施行する。

幕別町一貫教育等推進組織イメージ図（案）

